

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ハナヤスリ科

ヒロハハナヤスリ

Ophioglossum vulgatum L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

全国的に個体数が少なく、県内でも生育地が限定され、個体数が少ない。

概要

山地や原野に群生する小型のシダであり、春に葉を生じ、夏には地上部は枯れてしまう。葉は1枚で高さ10-30cmであり、栄養葉は長さ6-12cm、幅2.5-7cm、広披針形~広卵形で先は鈍頭から円頭、基部は切形から心形で孢子葉の柄を包む。孢子葉は長さ10-20cmで穂の長さは3cm内外である。国内の分布は北海道から九州の各地で、北に多く、山地の林床、林縁、路傍などに群生する。

参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京
 廣江伸作 (2019) 貴重種の紹介並びに新産地報告, 島根植物研究会会報37: 3-4
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島や東部の広葉樹林の林下や林縁に稀な生育が知られている。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

コケシノブ科

コケシノブ

Hymenophyllum wrightii Bosch

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

県内での産地や個体数も少ない。

概要

緑性の小型のシダで、根茎は長くは、針金状。葉は長さ2~5cmで2~3回羽状に分岐する。裂片の角度が30度~45度でホソバコケシノブより小さい角度にある。山地の岩上や樹幹に付着する。ロシア北東部や朝鮮半島、カナダ、アラスカに広く分布し、国内では北海道から九州まで分布する。

参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232
 柳浦正夫 (2004) 植物の分布・観察報告 (11)コケシノブ *Hymenophyllum wrightii* Bosch, 島根植物研究会会報5: 8

県内での生育地域・生育環境

東部の山域の川沿いの陰湿な岩に生育が見られる。三瓶自然館に収蔵され、現在、正式に標本化されているものはいずれも他の種に該当する。

存続を脅かす原因

被陰、遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サンショウモ科

オオアカウキクサ

Azolla japonica Fr.et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

各地で減少が著しい。

概要

小型の浮遊性の水生シダで、アカウキクサによく似ているが、やや大型になり、根毛は早落性で、葉の表面がほとんど平滑か、わずかに小突起がつく程度である。似たアカウキクサは根毛があり、密に小突起がつくので区別できる。秋に全体が赤色になり、冬は先端を残して枯れる。本州・四国・九州に分布し、日本固有種である。

参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232
 柳浦正夫 (2008) 伯太町のため池で見られた水生植物について, 島根植物研究会会報15:2-3

県内での生育地域・生育環境

かつては、隠岐を含めた各地の田に生育していたが、乾田化や水田除草剤の影響で、少なくなったと考えられる。2000年代までは生育の記録があるが、近年は見られたという情報もない。また、各地のため池や低地の河川や宍道湖の船溜りなどに外来の*Azolla*属がよく見られるようになっている。

存続を脅かす原因

除草剤の使用。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ナヨシダ科

ウスヒメワラビ

Acyropteris japonica (Luerss.) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内では個体数が少ない。

概要

夏緑性のシダで根茎は横に伸び、先端から葉を叢生する。葉身は三角状卵形で3回羽状に複生し、薄い草質である。葉柄や葉軸が暗褐色から紫褐色であることが特徴で、淡褐色の鱗片をまばらにつける。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつく。東北地方南部から屋久島までの山地の森林中の地上に生じる。国外では台湾から中国南西部に分布する。

参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」.475pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育地が点在しているが、東部での生育は非常に稀で1カ所のみ生育が知られているだけである。山地の湿度の高い杉林などの林床で見られる。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒメシダ科

テツホシダ

Thelypteris interrupta (Willd.) K.Iwats.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内の生育地は、国内では分布の北限域を形成し、個体数も少ない。

概要

夏緑性で根茎は長く横走る。葉柄は通常20—40cmで葉身は広披針形で、円頭から鈍頭で長さは30—50cmである。ホシダに似ているが頂羽片はない。国内では本州(静岡県・紀伊半島・福井県・島根県)・四国・九州・南西諸島に分布し、明るい湿地に生じ、しばしば群生する。世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 澤江・篠原(2003) 益田にもテツホシダがあった。島根植物研究会会報2:3-4
 澤江・篠原(2011) 益田市に自生するシダ植物(18)。島根植物研究会会報20:11-12
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相。ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島(島後)を含む県内の海岸部の湿地などに点在している。国内の日本海側での分布は福井県と島根県のみであり、隠岐諸島の分布は福井県とともに分布の北限となる。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

メシダ科

ツクシイヌワラビ

Athyrium kuratae Serizawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内で生育地・個体数ともに少なく、国内での分布の北限に近い分布となっている。

概要

緑性で根茎は直立し、数枚の葉を叢生する。似ているタニイヌワラビが、小羽片が鋭頭で、基部はほとんど無柄、葉柄基部の鱗片が茶色から茶褐色であるのに対し、葉質がやや厚く、小羽片はやや鈍頭で、基部は羽軸に流れることが多いこと、基部の鱗片が茶色から茶褐色であることで区別される。国内では本州(中部地方以西および伊豆諸島)・四国・九州で山地のやや陰湿な林下に生じる。国外では台湾・中国に産する。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相。ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232
 柳浦(2010) 植物の分布・観察報告(42)中国地方のツクシイヌワラビとヘイケイヌワラビの分布について。島根植物研究会会報18:10-11

県内での生育地域・生育環境

以前は石見西部の奥地に若干生育することが知られていたが、近年東部でも生育が確認された。林下の陰湿な斜面の若干土壌の堆積した場所に生えている。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

メシダ科

ムクゲシケシダ

Deparia kiusiana (Koidz.) M.Kato

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

産地・個体数ともに少ない。

概要

夏緑性で根茎は地中に長く伸びる。葉は単羽状に深裂する。セイタカシケシダに似ているが、葉に鱗片と毛が密にあり、小羽片の先端は切形、包膜は扁平であることで区別される。本州(山形県および関東地方以西)・四国・九州に産する。

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

県西部にわずかながら自生が知られており、スギ林下の湿った環境に自生する。東部に生育するとの報告もあるが生育地とされる場所にはセイトカシケシダの生育が見られることからこれの誤認と考えられる。

存続を脅かす原因

森林の伐採、踏みつけ。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

シノブカグマ

Arachniodes mutica (Fr.et Sav.) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県下では個体数が非常に少なく、分布の南限を構成する。

概要

常緑性のシダ植物で、根茎は短く、葉を叢生する。葉柄は短く、長さ15-35cm、淡褐色から黒褐色の鱗片を密につける。葉身は卵状長楕円形で長さ40-60cm、幅15-25cm、3回羽状全裂~中裂し、表は濃い緑色で、裏面はやや白っぽい緑色。小羽片は長楕円形、2-3.5cm、幅7-12mmで羽状に深裂する。孢子嚢群は上部からつき、包膜は円腎形。北海道・本州・四国の山林中に産する。国外では朝鮮半島とロシア東部に分布する。

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 澤江・篠原 (2010) 益田市に自生するシダ植物(16), 島根植物研究会会報18: 2-4
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

県境の中国山地の稜線部に点々と知られているが、ほとんどが広島県側である。島根県側での確実な産地は西部に知られている。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

ミドリカナワラビ

Arachniodes nipponica (Rosenst.) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育はまれであり、個体数も少ない。

概要

常緑性のシダ植物で、根茎は横走し、葉柄は長さ20-45cm、赤褐色の鱗片を密につける。葉身は長卵形で長さ40-60cm、幅25-35cm、3回羽状深裂~複生し、表は鮮緑色で、やわかい厚紙状。小羽片は長楕円形、鋭頭で、先端がのぎ状になる鋭い鋸歯と短い柄がある。胞子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、苞膜の縁には微小な突起がある。本州(神奈川県以西)・四国・九州に分布し、中国・ビルマ・インドにも記録されている。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

西部の山域に点々とまれな生育がみられる。夏緑樹林が生える谷間の林下などに群生して生育する。益田市大谷町の産地は奥地の生育地とは離れた分布となっており、北限と考えられる。

存続を脅かす原因

遷移、園芸上の採集。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

ツクシイワヘゴ

Dryopteris commixta Tagawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

概要

常緑性のシダで根茎は太く短く、直立して葉を叢生する。葉柄の鱗片は黒褐色であり、羽片は単羽状複生し、浅裂~中裂する。近縁のイワヘゴによく似ているが、羽片の数が少なく、20対以内であり、胞膜の発達が悪いのが特徴である。本州(石川県・房総半島・伊豆半島・東海地方・大阪府・岡山県・島根県・広島県・山口県)・四国・九州に知られており、日本固有種である。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

県内では石見西部に知られ、個体数は少ない。林下の林床に生育する。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

ツクシオオクジャク

Dryopteris handeliana C.Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

自生地が限られ、個体数も少ない。分布の北限である。

概要

常緑で根茎は短く、葉を叢生する。葉身は長さ40-70cmである。羽片は下部2/3の両側がほぼ平行で、それから先で急に狭くなり、鋭尖頭、辺縁の切れ込みは浅く、上部の羽片は急に短くなり頂羽片状になる。孢子嚢は辺縁に沿って2-3列に並び、山地の林下に生育し、九州の各地と高知県、山口県で生育が確認されている。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス.東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232
 柳浦正夫(2003) 島根県でツクシオオクジャクを発見. 島根植物研究会会報2:4

県内での生育地域・生育環境

西部の林下に数カ所の分布が知られているだけである。産地が限定されており、森林伐採により全滅する危険性もある。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

ヌカイタチシダモドキ

Dryopteris indusiata (Makino) Makino et Yamam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

自生地が限られ、個体数も非常に少ない。

概要

常緑で根茎は短く、葉を叢生する。葉柄はわら色で長さ20-30cm。基部の鱗片は黒色~黒褐色。葉身は20-40cm。幅15-30cmで、広卵状三角形、2回羽状複生。羽片はほぼ対生でほとんど無柄。小羽片も無柄で長楕円状~三角状披針形。孢子嚢群は小羽軸と辺縁の中間かやや小羽軸に並び、低山地の林床に生育する。本州(静岡県以西)・四国・九州で、沖縄や台湾に生育する。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス.東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂.東京
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

県内での生育地域・生育環境

西部山地の数カ所に生育することが知られている。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

アツギノヌカイトチシダマガイ

Dryopteris paomowanensis Ching et Z.Y.Liu

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内では生育地が少なく、個体数もわずかである。

概要

常緑で根茎は斜上し、葉を叢生する。葉柄は長さ30-40cmで葉身の中軸とともに淡赤褐色の鱗片が密生する。鱗片の縁の突起は明瞭ではない。葉身は40-50cm。幅25-30cmで、三角状卵形、2回羽状複生~3回羽状深裂。羽片はやや非対称の卵状披針形。小羽片は三角状長楕円形。孢子嚢群は上からつき、小羽軸と辺縁の中間に並び。低山地のやや明るい岩壁の隙間などに生育する。本州(中部以西)・四国・九州に分布し、朝鮮半島・中国(南部)に分布する。

参考文献

海老原 淳 (2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

西部の丘陵域の川沿いの岩崖などに点々と分布している。

存続を脅かす原因

遷移による被陰。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

ミヤマクマワラビ

Dryopteris polylepis (Fr.et Sav.)C.Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内では産地が限られている。

概要

夏緑性のシダで根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉柄や中軸には黒褐色から黒色の鱗片を密生する。葉身は単羽状複生で、倒披針形。羽片は線状披針形で、先端近くまで平行し、先は尖る。孢子嚢群は葉身の先端部につき、裂片の辺縁寄りに1列に並び。本州・四国・九州で主として温帯林の林床に生じる。国外では朝鮮半島に記録されている。

参考文献

海老原 淳 (2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 倉田 悟・中池敏之 (1985)「日本のシダ植物図鑑4」850pp.東京大学出版会
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

西部の山域から数カ所生育が報告されている。生育地は谷部の陰湿な林部で、群生している場合もある。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

イワイタチシダ

Dryopteris saxifraga H.Ito

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

自生地が限られ、個体数も非常に少ない。

概要

常緑で根茎は短く、葉を叢生する。葉身は大きくとも長さ20-30cmで、深山の陰湿な森林中の湿った岩壁に生育する。近縁の種とは、生育地と葉柄の鱗片が密に直角またはやや下向きに開出して先端が上をむくことが異なる。この鱗片の色は黒褐色から黒色である。

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

東部や西部の中国山地の岩角地に若干の分布が知られており、個体数は非常に少ない。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オシダ科

ナンカイイタチシダ

Dryopteris varia (L.) O.Kuntze

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

個体数が少なく、国内での分布の北限を形成している。

概要

常緑性のシダで葉柄基部の鱗片は赤褐色から黒褐色であり、葉身は広卵形から五面状広卵形で先端は急に細くなって、頂羽片を形成する。2回羽状複生で、最下羽片の基部数対の羽片は大きい。葉質がやや厚く、光沢があるといわれるが、県内のは光沢がなく青緑色になっている。孢子嚢群は大型で中間生である。千葉県南部以西の暖地から南西諸島にいたる各地の海岸に近いところの斜面に生じる。国外では朝鮮半島・中国・台湾・インド/インドシナ・フィリピンなどに産する。

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 倉田 悟・中池敏之 (1979) 「日本のシダ植物図鑑1」.628pp.東京大学出版会
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

以前から隠岐諸島(島前)での自生が報告され、標本も残されているが現状不明である。現在は、東部の島根半島の各地と西部の沿岸域での生育が知られている。沿岸域のやや乾燥した崖地に稀にまれに生育している。隠岐は国内での分布の北限になる。

存続を脅かす原因

土壌堆積、道路拡張。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シノブ科

シノブ

Davallia mariesii Moore ex Baker

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県下では個体数も少なく、遷移や採集等で激減している。

概要

夏緑性で根茎は岩上や樹幹上を長く這って、線状披針形の鱗片が根茎に密につく。葉はまばらにつき、3-4回羽状に細裂する。孢子嚢群は裂片に1個つく。北海道から南西諸島の山地に生育し、朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。シノブ玉として鑑賞され、各地で採集され、個体数が減少している。

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 秋村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含めた各地山城の樹幹や岩上に生育するが、採集や遷移などにより減少している。

存続を脅かす原因

採集、遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウラボシ科

ヒメノキシノブ

Lepisorus onoei (Fr.et Sav.) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

県内では生育地・個体数とも少ない。

概要

根茎は長く這い、葉をまばらにつける。葉柄は短く、葉身は線形で基部は円形から心形で先端が鈍頭ことが多い。孢子嚢群は数個で葉身の上部の中肋と辺縁の中間に並んでつく。北海道西南部から九州(奄美大島)の各地に生育し、やや明るい林中の岩上や樹幹に生じる。

参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 秋村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)の山地の岩に生育するのが知られる。また、石見西部でも同様な立地に生育するのが見られる。

存続を脅かす原因

遷移による被陰化。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウラボシ科

サジラン

Loxogramme duclouxii Christ

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県下で確認されている場所も少なく、個体数も非常に少ない。

概要

常緑性のシダで根茎は長く這う。葉身は倒披針形で先は尖る。葉質は厚く、暗緑色で、毛は無い。胞子囊群は葉身の上半分について斜上し、長さ4cmくらい。イワヤナギシダと似ているが、葉柄の基部が黒褐色で葉がやや広いこと、胞子囊群と中肋との角度がやや広いこと、胞子囊群の重なりが大きいこと、全体に大きさが大きいなどで区別できる。本州(福島県以西)・四国・九州の暖帯上部の林中の岩上や樹幹に着生する。国外では、ヒマラヤ・中国西南部・タイ・台湾・韓国(済州島)に分布する。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

県内での生育地域・生育環境

東部から西部の丘陵域から山域にかけて産地は点在するがどこも個体数は少ない。林中の岩上や樹幹に産する。また、島後に生育するとする情報がある。

存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウラボシ科

ビロウドシダ

Pyrosia linearifolia (Hook.) Ching

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 青木充之

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。

概要

常緑性の小型のシダで、根茎は長く伸びる。葉身は線形で、先端は円頭であり、長さ2-15cmになる。全面に黄褐色から灰褐色の星状毛が密生する。胞子囊群は円形で中肋の両側にだいたい1列にならぶ。北海道から九州(中・北部)と沖縄県に分布し、陰になった岩上やまれに樹幹に着生する。国外では朝鮮半島と中国東北部に分布する。

参考文献

海老原 淳(2017)「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京
 松村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後、島前)を含む県内全域の山域で点々と生育が報告されている。やや明るい岩場に稀に生育している。

存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒノキ科

ヒノキ

Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):野津貴章



選定理由

県内では限られた場所に生育し、個体数も少ない。

概要

国内では福島県以南、四国、九州の屋久島まで分布する。天然のものは尾根筋の岩場などに生育し、雪を嫌うので太平洋側を中心に分布する。樹高は15—30mになり、大きいものでは50mほどのものも見られる。直幹性で樹皮は赤褐色で帯状に縦に裂け剥がれる。葉は鱗状葉で光沢、丸みがあり、1つが長さ2—3mmで枝に密着して交互に対生し、枝全体としては扁平になる。似たサワラでは鱗状葉が尖っており、気孔帯がX（またはH）状に見えるのに対し、Y状（枝分かれ部ではΨ型）に見えるので区別できる。高級建築材として古くから利用され、広く植林されている。

参考文献

三宅登（1982）ヒノキ，島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局，島根県大百科事典下巻，山陰中央新報社，389pp.。
大橋広好他（2015）「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社.東京
大井次三郎著・北川政夫改訂（1992）「新日本植物誌頭花植物編」.1716pp.至文堂.東京
松村喜則（2005）島根県の種子植物相，島根県立三瓶自然館会報3:1-49 三瓶自然館，島根

県内での生育地域・生育環境

「天然性のヒノキは、出雲部では安来市宇賀荘と能義郡広瀬町に、石見部では邑智郡大和村と鹿足郡六日市町にわずかに残存している。」としている文献もあるが、天然性として現在確認できるのは西部の山地の急斜面や岩場に生育しているものである。また、隠岐を含めて広く植林されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒノキ科

ハイネズ

Juniperus conferta Parl.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内では限られた場所に生育し、個体数も少ない。

概要

幹が地をはい、枝分かれして広がる。葉は針状で先は硬く尖る。花は5月に開花し、球果は球形で9—10mmで紫黒色で粉白となる。北海道、本州、九州（種子島）に分布し、国外ではサハリンまで分布する。海岸の砂地などに生える。

参考文献

大橋広好他（2015）「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社.東京
大井次三郎著・北川政夫改訂（1992）「新日本植物誌頭花植物編」.1716pp.至文堂.東京
松村喜則（2005）島根県の種子植物相，島根県立三瓶自然館会報3:1-49 三瓶自然館，島根

県内での生育地域・生育環境

隠岐の海岸部の崖地や岩の隙間など生育が見られる。東部の湖陵町のものは砂質海岸に生育していたものと考えられるが、現在生育が確認できない状況である。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イチイ科

イチイ

Taxus cuspidata Siebold et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

常緑針葉樹で高さ20m、径1m以上になる。樹皮は赤褐色で薄く縦裂する。葉は線形で長さ2cm、幅3mm前後である。雌雄異株で、花は春に咲き、種子は秋に成熟し、仮種皮は卵形で長さ、幅共に1cm程、赤く熟れて特徴的である。国内では北海道から本州、四国、九州に分布するが、暖地ではまれな植物のようである。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(奥出雲町)に生育地がある。山地の尾根筋で、露岩状地や痩せた地に生える。生育地の一部は国指定天然記念物、国立公園内にあり、保護されている。

存続を脅かす原因

生育地である樹林の伐開。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ハゴロモモ科

ジュンサイ

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 国井秀伸

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。今回、これまでよく見られた宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池での出現が激減したことから、カテゴリーをこれまでの準絶滅危惧 (NT) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

概要

北海道から九州に至るまで広く分布。多年生の浮葉植物で、腐植栄養湖など酸性の止水域に生育する。地中を匍匐する根茎から細長い水中茎を伸ばし、楕円形の葉をつける。葉の表面は淡黄緑色で光沢があり、裏面は赤紫色を帯び、若い時期には寒天様のぬるぬるした粘液質の物質に被われる。暗紫色の直径1cmほどの花を水面に咲かせる。秋になると養分の貯蔵のために水中茎の先端部が肥厚し、親植物から離脱して越冬用の殖芽となる。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.
 Kunii, H. (1991) Aquatic macrophyte composition in relation to environmental factors of irrigation ponds around Lake Shinji, Shimane, Japan. *Vegetatio*, 97: 137-148.
 Kunii, H. (1993) Rhizome longevity in two floating-leaved aquatic macrophytes, *Nymphaea tetragona* and *Brasenia schreberi*. *J. Aquat. Plant Manage.*, 31: 94-98.

県内での生育地域・生育環境

宍道湖・中海周辺の溜池や三瓶山の姫逃池その他県内に広く分布。

存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆: 国井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スイレン科

ヒツジグサ

Nymphaea tetragona Georgi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。今回、これまでよく見られた宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池での出現が激減したことから、カテゴリーをこれまでの準絶滅 (NT) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

概要

全国に広く分布している多年生の浮葉植物で、酸性の止水域に生育する。塊状の根茎から春先には薄い膜質の沈水 (水中) 葉を展開し、後に基部が深く切れ込む広楕円形の浮葉を水面に展開する。浮葉の裏面は紫色を帯びる。花には芳香があり、その直径は3-6cm、柱頭とおしべは黄色で花弁は白色。果実は水中で熟し、数10個から100個ほどの仮種皮に包まれた種子を形成する。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草. 326pp. 文一総合出版. 東京.

Kunii.H. (1991) Aquatic macrophyte composition in relation to environmental factors of irrigation ponds around Lake Shinji, Shimane, Japan. *Vegetatio*, 97: 137-148.

Kunii.H. (1993) Rhizome longevity in two floating-leaved aquatic macrophytes, *Nymphaea tetragona* and *Brasenia schreberi*. *J.Aquat.Plant Manage.*, 31: 94-98.

県内での生育地域・生育環境

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などに生育。ジュンサイと同所的に見られる。

存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆: 国井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウマノスズクサ科

フタバアオイ

Asarum caulescens Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地も僅かな範囲である。

概要

山地のおもに夏緑樹林内に生える夏緑性の多年草。植物体は茎が地を這い分枝して、枝の先端に2枚の葉をつける。茎は円柱形で赤茶色を帯び、葉は長い柄があって、葉身は卵心形で先がとがり、基部は深い心形、長さ4-8cm。春、出葉と同時に葉の基部に花をつける。花は花弁はなく、赤茶色の3枚の萼片が筒状になって、先の裂片が外側に反り返る。国内では本州~九州に分布し、中国大陸にも分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社. 東京

大井次三郎著・北川政夫改訂 (1992) 「新日本植物誌顕花植物編」.1716pp. 至文堂. 東京

県内での生育地域・生育環境

石見西部と中部の山地にまれに見られ、谷間のやや陰湿な環境の地に生える。

存続を脅かす原因

樹林伐開による環境変化と園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウマノズグサ科

イズモサイシン

Asarum maruyamae Yamaji et Ter.Nakam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

情報不足 (DD)



選定理由

県内では産地も個体数も少ない。

概要

夏緑性の多年生草本。葉柄は長く、葉身は卵形で長さ6.5—11cm、幅5—9cm、基部心形。早春に開花する。萼筒は合着し、萼裂片は3枚で反り返る。萼口は狭くなるが、萼筒の7割程度であるなるウスバサイシンに対し、半分程度と狭くなる。島根県東部で気づかれ、原記載された。島根県の東部から鳥取県中部の山域に点在して分布が見られ、一部岡山県や広島県の北部にまたがりながらまとまった分布域をもっている。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 杵村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫・谷田貝繁明・井上雅人(2024) 中国地方のウスバサイシン節の分布とイズモサイシンとウスバサイシンとの形態比較、三瓶自然館研究報告(22): 27-34 島根県立三瓶自然館
 山路弘樹・中村輝子・横山 潤・近藤健児・諸田 隆・竹田秀一・佐々木博・牧 雅之(2007) 日本産カンアオイ属ウスバサイシン節の分類学的研究、植物研究雑誌(82): 79-105

県内での生育地域・生育環境

東部の、主に照葉樹林内の溪流脇の土手や岩の隙間などの湿潤な地に生育する。前回のレッドリストまではウスバサイシンとともにまとめて記載されていた。

存続を脅かす原因

森林の伐採、園芸上の採集。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウマノズグサ科

タイリンアオイ

Heterotropa asaroides Morr. et Decne.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山地林内に生えて、草丈20cm程の多年草。葉はほぼ卵形で基部は深い心形、葉身は長さ8—12cm、幅5—12cm、常緑で根生状につく。葉面には様々な雲紋をもつ。花は春に咲き、径3—4cmで大きく、ほぼ球形の萼筒からなる花をつける。萼筒の上部で強くくびれ、3片の萼裂片がある。本州(島根南西部、山口)と九州北部にかけて生える。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌頭花植物編」.1716pp.至文堂,東京

県内での生育地域・生育環境

石見南西部の奥地に生育地が知られている。林床や林縁に生育する。

存続を脅かす原因

樹林伐開による環境変化、園芸上での採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

モクレン科

コブシ

Magnolia kobus DC. var. *kobus*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):野津貴章



選定理由

個体数が少なく、遷移による減少や植栽によって原産地の個体がどうかの判定が難しくなっている。

概要

山地に生える落葉高木樹で高さ15cmに達する。葉が互生し、葉身は倒卵形または広倒卵形で長さ6-15cm、幅3-6cm、基部はくさび形となる。花は初夏に葉の展開に先立って咲き、径7-10cm。萼は3枚、花弁は6枚で萼片の2-3倍で長さ5-7cmでともに白い。花の時期、花の下に1枚の小型の葉があることが、無いタムシバとの区別点になる。国内では北海道・本州・四国・九州に分布し、国外では韓国(済州島)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp.株式会社平凡社,東京
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌顕花植物編」,1716pp.至文堂,東京

県内での生育地域・生育環境

中部から東部の丘陵域に点在して生育する。西部でも生育していると思われる。遷移によって林床が暗くなり再生がむずかしくなっているものと思われ、また植栽もあり本来の自生なのか区別が難しくなっている。

存続を脅かす原因

遷移、植栽。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サトイモ科

オモゴウテンナンショウ

Arisaema iyoanum Makino subsp. *iyoanum*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):澤田達也



選定理由

生育地は多くはなく、個体数も少ない。

概要

山地の林床に生育する多年草で、地上部は高さ20-60cm程度になる。偽茎部は斜上し、葉柄の3倍程度の長さになる。葉は通常1枚で、鳥足状に小葉の柄も発達する。小葉は7-15になり長楕円形で、縁は全縁が細鋸歯があり、先端は鋭く尖る。花序の柄は短くやや前屈し、花序は葉より下部につく。仏炎苞は長さ11-20cmでやや上に開いた円筒形、色は淡緑色から緑白色で、不規則で細かい紫色の斑がある。口辺部はやや開出し、唇部は狭い卵形で筒部よりやや長く、外側に巻きながらやや尖る。日本固有種で四国の高知県や愛媛県、中国地方の広島県・山口県などに分布する。

参考文献

廣江伸作(2019)島根県のテンナンショウ属マムシグサ節について,島根植物研究会会報(37):4-5 島根植物研究会
大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp.株式会社平凡社,東京
邑田 仁(2011)「原色植物分類図鑑 日本のテンナンショウ」265pp.株式会社北隆館,東京
松村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)1-49 島根県立三瓶自然館
松村喜則(2006)島根県の種子植物相(補遺),島根県立三瓶自然館研究報告(4):41-43 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の山地溪谷部の斜面に点々と分布が見られる。これは広島県西部、山口県東北部から続き、まとまった分布となっており、県内の分布はその北限となる。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サトイモ科

ヒロハテンナンショウ

Arisaema ovale Nakai var. ovale

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

産地も少なく、個体数も多くない。

概要

山地の林床に生育する多年草で、地上部は高さ15-55cm程度になる。葉は通常1枚で、5裂まれに7裂の楕円形の小葉となり、縁は全縁、先端はやや尖る。花序は葉より下部につき、仏炎苞は緑色で、著しく隆起する白色の縦じまがある。口辺部はやや開出し、筒部は長さ3-7cm程度で、胎部は卵形で長さ3-10cm、幅1.5-5cmになり先端は尖る。日本では北海道、本州の日本海側、九州北部に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京
 邑田 仁(2011)「原色植物分類図鑑 日本のテンナンショウ」265pp.株式会社北隆館,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館
 松村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告4:41-43 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県東部と隠岐(島後)の山地の斜面等に生育が見られる。仏炎苞が紫色の型をアシウテンナンショウとして区別することがあるが、県内ではこの型のものは確認できていない。

存続を脅かす原因

森林伐採、園芸上の採取。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トチカガミ科

セトヤナギスブタ

Blyxa alternifolia (Miq.) Hartog

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠA類(CR)

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、植生の遷移により消滅するおそれがある。

概要

本州、四国、九州の水田や水路などの浅水中に生育する一年生の沈水植物。姿はヤナギスブタに似て分岐した多数の線形の葉が根生するが、より大型になる。水面に線形の目立たない花を咲かす。種子は紡錘形で長さ1.5-2mmで、表面に低い突起が2-10個あることでヤナギスブタと識別できる。東南アジアに広く分布するが、国内での産地はもともと少なく、水田の圃場整備や耕作放棄による遷移で消滅する場所が多く、全国的にまれな種となっている。

参考文献

角野康郎(2014)日本の水草,326pp. 文一総合出版,東京.
 汐田達哉(2022)鳥取県米子市におけるセトヤナギスブタとマルミスブタの新産地. 水草研究会誌,113:47-50.

県内での生育地域・生育環境

県東部と中部の山間部において生育が確認されている。生育地は休耕地やビオトープ池で、清涼な水が流れ込む浅い水域に生育する。近隣の鳥取県西部では平野部の水田で記録されている。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

特記事項

近年まで同属のスブタやヤナギスブタと間違われることがあり、県内では確かな生育情報はなかったが、県東部や中部の山間部で生育地が発見された。生育地は管理不足で植生の遷移が進みやすい環境のため、定期的な撾乱と水管理が必要となる。

(執筆:辻井 要介)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トチカガミ科

ヤナギスブタ

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Ascherson et Gürke

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

県内の生育地が限られており、近年減少している。

概要

北海道を除く全国各地の水田、水路、溜池などの浅水中に生育する一年生の沈水植物。茎が伸張し、植物体の長さ10—30cm、下部は地下茎となり泥中を匍匐し、節からひげ根を出すとともに無柄で線形、時に紫色を帯びた淡黄緑色の薄い互生葉を密に付ける。全体に柔らかい。かつては普通の水田雑草であったが、全国的に減少している。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版、東京。
 杉村喜則 (2006) 島根県の植物相。島根県立三瓶自然館研究報告。3: 1-49。
 柳浦正夫 (1999) 益田周辺の止水域の水草。島根県益田高等学校研究紀要。22: 44-52。

県内での生育地域・生育環境

かつては県内のほぼ全域に分布するとされていたが、県西部や中部の産地は消失しており、現在の産地は県東部に限られている。比較的水質の良好な貧栄養な溜池や水田に生育する。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

特記事項

全国的には同属のスブタより本種の方が生育する地域が多いようであるが、県内での産地はもともとスブタよりも少なめである。

(執筆: 辻井 要介・國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トチカガミ科

ヒロハトリゲモ (サガミトリゲモ)

Najas chinensis N.Z.Wang

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

県内での新産地は見つかっているが、生育地は限られている。

概要

北海道を除く全国各地の水田、溜池などの浅水中に生育する一年生の沈水植物。葉は長さ1.5—3cm、幅が0.3—0.6cmとトリゲモ類の中もっとも葉の幅が広い。ただし、生育環境により葉の幅は変異がある。確実な識別点は、種子の表面に見られる四～六角形の大きな網目模様が見られることである。かつては水田雑草だったが、除草剤の使用などで減少し、全国的にまれな種となっている。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版、東京。
 柳浦正夫 (2007) 出雲市北東部のため池で見られた水生植物について2。島根植物研究会会報。12: 2-4。

県内での生育地域・生育環境

県東部や県中部において生育が確認されている。県中部では邑南町の溜池に生育し、県東部では、雲南市の公園の小規模な池や出雲市や松江市の水田や休耕地に生育する。平野部の富栄養化した水域では見られず、清涼な水が流入する山間部の溜池や水田など貧栄養な水域に出現する傾向がある。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

特記事項

県東部の出雲市では、山間部の休耕地を利用した浅い池に本種が出現し、群落が見られたことがあったが、生育は一時的なものであった。

(執筆: 辻井 要介)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トチカガミ科

イバラモ

Najas marina L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

県東部の汽水湖や河川、溜池に生育地が限られる。以前よりも生育範囲は拡大傾向であるが、環境の変化による消長が見られる。

概要

全国の湖沼や溜池、および流れのゆるやかな河川に生育する一年生の沈水植物で、淡水域だけでなく汽水域にも出現する。水中茎は径1—2mmで叉状によく分枝し、3輪生あるいは対生の葉をつける。茎には多数の棘がある集団とほとんどない集団がある。葉は無柄でやや扁平、長さ2—6cm、幅1—3mmで葉縁に棘状の大きな鋸歯がある。鋸歯の形状は産地により変異が大きい。花期は7—9月。雌雄異株であり、雄株には4室の葯をもつ雄花が葉腋につき、雌株には花被がなく1個の雌しべからなる雌花が葉腋につく。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版。東京。
 國井秀伸 (1986) 宍道湖および斐伊川河口域の小河川でみられた水生植物。山陰地域研究(自然環境)。2: 53-57。
 辻井要介・國井秀伸 (2016) 神西湖とその流入河川並びに用水路に生育する水生植物の現況。ホンザキグリーン財団研究報告。19: 183-188。

県内での生育地域・生育環境

県東部の松江市と出雲市に生育が限られる。宍道湖では湖内や西岸よりの流入河川下流に散在して生育が確認されている。その他、宍道湖周辺の溜池や神戸川でもわずかに見られる。いずれも流れが緩やかな水域や止水環境に生育する。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、河川改修などによる生育環境の悪化。

特記事項

かつて中海の彦名干拓地にある米子水鳥公園内のつばさ池に大きな群落があったが、消失した。宍道湖では1980年代に流入河川での生育が確認されていたが、2010年代初めまでは生育が途絶えていた。その後、宍道湖で切れ藻が確認されるようになり、2015年には宍道湖に流入する十四間川河口で大規模な群落が出現し、数年間は群落が確認された。2016年に神西湖で切れ藻が多数確認されたが、その年だけの出現であった。

(執筆: 辻井 要介・國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トチカガミ科

セキショウモ

Vallisneria asiatica Miki

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

県内での生育場所が限られている。

概要

全国各地の湖沼溜池、及び比較きれいな流水中に群生する多年生の沈水植物。径2mmほどの細い平滑な地下茎(走出枝)を伸ばし、各節から長さ10—80cm、幅5—8mmの線形リボン状の葉を叢生する。やや黄色みがかかった葉は軟質で、上縁に微鋸歯があるが、下方では鋸歯がなくなる特徴がある。雌雄異株で雄花と雌花があり、雌株は糸状の長い花柄を水面まで伸ばし、小さな白色の雌花を水面に浮かべる。雄花は株の基部に生じ、長さ1—3cmの花柄の先の薄い袋状の包鞘中に多数詰まっている。セキショウモは典型的な水媒花で、成熟すると包鞘の上部が破れて雄花が水面に浮上し、花粉を放出する。受粉後に雌花の花柄はらせん状に短縮して水中に沈み、水中で結実する。果実の内部には長さ2—4mmの種子が多数形成され、透明な粘液に包まれている。セキショウモの形態は同属のコウガイモや沈水性のミクリ属と似ているが、鋸歯の有無や葉脈を観察することで容易に識別される。ミクリ属は葉縁に鋸歯が無く、葉脈が目立たず長方形の細胞が規則的に並ぶが、セキショウモは数本の葉脈が明瞭。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版。東京。

県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池と宍道湖。また、西部のため池でも確認された。

存続を脅かす原因

護岸工事による浅場の消失、農業形態の変化による溜池の管理不足。
 (執筆: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒルムシロ科

コバノヒルムシロ

Potamogeton cristatus Regel et Maack

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、溜池の管理不足などで減少するおそれがある。

概要

本州、四国、九州の湖沼や溜池などに生育する一年生の浮葉植物。葉は長さ約5cm、幅1mm以下の細い沈水葉をつけ、水面上に長さ2—3cm、幅約1cmの長楕円形の浮葉が展開する。初夏から夏にかけて水面に穂状花序をつける。姿がよく似たホソバミズヒキモとは果実の形状が異なり、鶏のとさか状の突起があることで識別できる。種子繁殖のほかに、秋に水中茎の先に細葉をもつ殖芽をつける。ホソバミズヒキモが比較的普通に見られる種であるのに対して、本種は全国的にまれな種となっている。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版、東京。
宮田昌彦・谷城勝弘・山田寛治編 (2025) 水生・湿生植物生活史図鑑。617pp。北隆館、東京。

県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池や休耕田、神社の池において生育が確認されている。貧栄養で比較的浅い水域に生育する。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足。

特記事項

ホソバミズヒキモとよく似ているため、見落とされている可能性もあるが、近年の生育調査ではホソバミズヒキモがほとんどである。県東部の神社の境内地にある池では、池の整備後に本種が多数生育するようになり、現在も適切な管理のもと安定した生育が見られる。その他の生育地では、休耕田に見られたものは消滅したり、溜池のものは管理不足により遷移が進み減少している。

(執筆者: 辻井 要介)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒルムシロ科

イトモ

Potamogeton pusillus L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

生育場所が限られており、開発によって生育が危ぶまれる。

概要

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する多年生の沈水植物。互生する葉は無柄で線形、先は尖る。長さ2—8cm、幅1—1.5mmで中央脈が明瞭。秋に葉茎の先端部が長さ1.5—2.5cmの殖芽となり、水底に沈んで越冬する。しばしば同属のホソバミズヒキモと誤同定されるので、注意が必要である。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版、東京。

県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島の池沼での生育が知られ、その後県東部の丘陵部の沼でも見つかっている。

存続を脅かす原因

開発による生育場所の消失。

(執筆者: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒルムシロ科

リュウノヒゲモ

Stuckenia pectinata (L.) Borner

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

汽水域という限られた場所のみで生育すること。遷移による生育地の水質変化及び河川改修による自生地の消失。

概要

全国各地の湖沼や河川、水路に生育する多年生の沈水植物。海水と淡水の入り混じる河口汽水域が主要な生育場所であるが、内陸部であっても、水中のイオン濃度の高い湖沼にはしばしば生育する。水中茎は盛んに分枝し、無柄で全縁、長さ5—15cm、幅0.5—1mmの針状の沈水葉を互生する。葉の基部は托葉と合着して茎を抱き、長さ1—3cmの葉鞘となる。6—10月の花季には水中茎の上方の葉腋から長さ5—20cmの花茎を水面に伸ばし、長さ1—4cmの花穂をつけるが、花茎は細い糸状なので直立せず、水面に横たわって受粉する。秋頃に地下茎の先端部が肥厚し、長さ5—15mmの塊茎が形成される。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.
 國井秀伸 (2001) 宍道湖・中海における水生絶滅危惧植物の分布. *Laguna* (汽水域研究), 8: 95-100.
 中川昌人・國井秀伸 (2015) 宍道湖, 天神川および斐伊川河口域の小河川における2013年の水生植物相. *Laguna* (汽水域研究), 22: 1-10.
 辻井要介・國井秀伸 (2016) 神西湖とその流入河川並びに用水路に生育する水生植物の現況. ホンザキグリーン財団研究報告, 19: 183-188.

県内での生育地域・生育環境

中海の干拓地内の排水路や池、及び神西湖の流入河川などから報告がある。生育場所となっている干拓地内の排水路と池の塩分は年々低下するため、いずれエビモなどの淡水の種に置き換わると予想される。これとは逆に、大橋川や宍道湖では2010年頃からカワツルモとともに生育が確認されるようになり、分布域拡大の背景として塩分上昇が考えられている。

存続を脅かす原因

遷移による汽水環境の消失及び河川改修。

特記事項

『レッドデータブックひろしま2021』では絶滅危惧類 (CR+EN) とされている。

(執筆者: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒルムシロ科

イトクズモ (ミカツキイトモ)

Zannichellia palustris L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

汽水域という限られた場所のみで生育すること。遷移あるいは人為的な要因による生育地の水質変化及び河川改修や埋め立てによる自生地の消失。

概要

全国各地の海岸沿いの湖沼や河川、水路に生育する多年生(または1年生)の沈水植物で、別名はミカツキイトモ。海水と淡水の入り混じる河口汽水域が主要な生育場所であるが、リュウノヒゲモ同様、内陸部であっても水中のイオン濃度の高い湖沼には生育する。地中を這う地下茎から径1mm以下の糸状の水中茎が伸び、無柄で長さ2—8cm、幅0.5mmほどの線形の葉が対生または輪生する。雌雄同株で雄花と雌花が同じ葉腋に並んでつき、受粉は水中でおこる。果実は特徴的で、長さ4—7mmの三日月形で背面にまばらに波状の突起がある。果実の無い状態ではしばしばイトモあるいはホンバミズヒキモと誤同定されている。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.
 國井秀伸 (1994) イトクズモ (ミカツキイトモ) 発見記. *水草研究会報*, 54: 38.
 國井秀伸 (2001) 宍道湖・中海における水生絶滅危惧植物の分布. *Laguna* (汽水域研究), 8: 95-100.
 辻井要介・國井秀伸 (1998) 危急種イトクズモの成長と光合成特性. *Laguna* (汽水域研究), 5: 225-231.

県内での生育地域・生育環境

宍道湖と日本海を結ぶ佐陀川で1994年7月に再発見され、その後中海のいくつかの干拓地での自生が確認され、最近では大橋川や天神川でもみつかっている。

存続を脅かす原因

遷移あるいは人為的な要因による汽水環境の消失。

特記事項

『レッドデータブックひろしま2021』では絶滅危惧類 (CR+EN) とされている。

(執筆者: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カワツルモ科

カワツルモ

Ruppia maritima L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

汽水域という限られた場所のみで生育すること。遷移あるいは人為的な要因による生育地の水質変化及び河川改修による自生地の消失。

概要

全国各地の海岸沿いの湖沼や河川河口域、あるいは干拓地内の一時的な水溜まりなどに生育する多年生(または1年生)の沈水植物。地下茎の各節から水中茎が伸びる。葉は長さ5-15cm、幅約0.5mmの糸状で先端は鋭頭、基部は葉鞘となり茎を抱く。葉縁に鋸歯があることでリュウノヒゲモとの区別点となる。生活環の長い間にわたり、次々と特徴のある散形花序を展開する。

参考文献

角野康郎(2014)日本の水草。326pp。文一総合出版。東京。
 國井秀伸(2001)宍道湖・中海における水生絶滅危惧植物の分布。Laguna(汽水域研究)。8:95-100。
 中川昌人・國井秀伸(2015)宍道湖。天神川および斐伊川河口域の小河川における2013年の水生植物相。Laguna(汽水域研究)。22:1-10。
 辻井要介・國井秀伸(2016)神西湖とその流入河川並びに用水路に生育する水生植物の現況。ホンザキグリーン財団研究報告。19:183-188。

県内での生育地域・生育環境

中海とその干拓地内の排水路や池、及び日本海に面した池などから報告がある。中海本庄水域内ではほぼ全域にわたって点々と分布し、特に宮ヶ鼻・弁慶島付近には一時大きな群落が形成された。近年、宍道湖や大橋川でも多く確認されている。

存続を脅かす原因

遷移あるいは人為的な要因による汽水環境の消失及び河川改修。

特記事項

『レッドデータブックひろしま2021』では絶滅危惧Ⅰ類とされている。

(執筆: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ビャクブ科

ヒメナベワリ

Croomia japonica Miq

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山地林内に生える多年草で、草丈は約30cm。葉は卵状楕円形で長さ10cm、幅5cmで、6-7枚を互生する。花は春に咲き、葉腋に長さ3cmの細い花柄を垂らし、先に黄緑色の小花をつける。花も下向きに咲く。本州の中国地方から四国、九州、南西諸島に分布する植物である。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005)島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市、川本町)、県西部(益田市、津和野町、吉賀町)に生育地が点在する。夏緑二次林から夏緑樹の多い照葉樹二次林、さらにスギ人工林内にも生えるが、いずれの場所も個体数は多くはない。

存続を脅かす原因

樹林伐開による環境変化。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ユリ科

カタクリ

Erythronium japonicum Decne.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

植物体は地中深くに鱗茎があって、それから軟らかく長い柄を持った広楕円形の葉身がつくもので、葉身だけが地上にみられる。葉は未成熟な個体では1枚、成熟した個体ではほとんどが2枚つく。葉身には独特な斑紋がある。花は春に咲く。開花株では高さ20-30cmの花茎を出し、先端に一花がつく。花冠は紅紫色で、花は下向きに咲き、花被片は6枚で、上にそり返る形で咲く。花被片のつけ根には独特な濃紫色の斑紋がある。夏までに地上部は枯れる。

国内では北海道・本州・四国・九州に分布し、国外では、朝鮮半島・中国(北東部)・サハラに分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部の中国山地や隠岐(島後)にまれに生育地がある。保護されているところでは個体数が増加しているが、そうでないところは遷移等で激減している。

存続を脅かす原因

遷移による樹林照度不足、森林伐採による環境変化、園芸上での採取。
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ヒナラン

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

県内での生育地はややまれで、近年、消滅した生育地が多い。

概要

植物体は長さ5cm前後、幅1-2cm程の長楕円形の1枚の葉をもつやや小型のものである。花期は初夏の頃で、花茎を10-15cmの高さに伸ばし、薄紫色の小花を10花程つける。多くは露岩地、岩壁に生え、時には人工的な岩壁にも生えることもある。

国内では関東地方以西から四国、九州に分布するものとされる。

参考文献

国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 丹後亜興(2021) 隠岐の北限植物、隠岐の文化財 38: 30-50.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)、県東部(出雲市)、県中部(川本町、邑南町、江津市)など、山地に生育地が点在している。過去においては路傍の人工的な岩崖などにも生育するものが見られたが、多くはその場の遷移による草原化、樹林化や道路の拡幅工事などにより生育地の破壊などがあって、生育地は明らかに減少してきている。

存続を脅かす原因

山地岩場での樹林化、園芸上での採取。
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

エビネ

Calanthe discolor Lindl.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

全国的に個体数が減少しており、県下でも同様な状況となっている。

概要

暖温帯の林下に生育する。球状の茎をもち、春に長さ15—25cm程度の紡錘形で鋭頭の葉を2—3枚展開する。花茎は葉と同時期に伸び、ややまばらに8—15花をつける。苞は披針形で長さ5—10mm、萼片と側花弁は狭卵形で側花弁のほうが細い。唇弁は萼片と同長で帯紅色から白色で3深裂する。国内では北海道西南部から琉球まで分布し、朝鮮半島・中国の東部から南部にかけて分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含めて、東部から西部の丘陵域の林内に分布する。以前は各地に見られたが急激に減少している。西ノ島・中ノ島に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

遷移、採集。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ナツエビネ

Calanthe reflexa Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

県下に広く生育地もかなり知られているが、いずれも生育地での個体数は僅かであり、生育地及び個体群の消滅が心配される。

概要

山地林内の林床に生える夏緑の多年草で、地際に球形の偽球茎をもち、長楕円形で長さ20cm、幅5cm前後の葉を4—5枚展開させ、草丈30cm程の植物である。花期は夏で、葉間に葉より高い花茎を伸ばし、淡紫色の花を10—20個つける。国内では本州・四国・九州に分布し、国外では朝鮮半島南部・台湾・中国東部に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部から西部の丘陵域から山域に広く分布するのが知られている。谷間の斜面などのがかなり湿度の高い場所を好み、時に倒木の朽木上に生えるものも見られる。西ノ島に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

樹林伐開、園芸上での採取。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ギンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県内での生育地はかなりまれな状態となっていて、個体数も多くない現状である。

概要

山地山林内、林縁、山中路傍にも生える草丈30cm前後の夏緑多年草。葉は楕円形で、長さ5cm、幅3cm前後で4~5枚が互生する。花は春に咲き、茎頂に5~6個の白花をつける。時に花が目立つので採取されることが多い。近似種のササバギンランが距が長く後方にやや長く突出し、中裂片は心形で鋭尖頭に対し、距は鈍くて短く、中裂片は楕円形で鋭頭となる。

国内では本州・四国・九州に分布し、国外では朝鮮半島・中国にも分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

杵村により前回の報告ではほぼ全域に生育範囲のある植物で、各地に生育地が知られたが、現在ではそれらの生育地に今でも生育が確認されることはほとんどない状態とされる。また三瓶に隠岐(島後)と東部の標本がある。明るい夏緑樹林内からかなり暗い照葉樹林内にも生えることがある。また、中ノ島・西ノ島に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

遷移による環境変化、採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

キンラン

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

生息地は全域に点在するが、個体数は多くはない。

概要

山地山林内、時に林縁に生える草丈50cmばかりの夏緑多年草である。葉は楕円形で長さ10cm、幅5cm前後で5~6枚が互生する。花は春に咲き、茎頂に10花程の黄花をつける。時に花が目立つので採取されることが多い。国内では本州、四国、九州に広く分布し、国外では朝鮮半島・中国に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

杵村による文献では全域にやや稀に分布するとされ、県内においては隠岐を含めて全域に生育範囲のある植物であるが、生育地は点在し多くはない。多くは夏緑樹林、時に照葉樹林内での林冠破壊部の明るい場に生える。

存続を脅かす原因

生育地の遷移による照葉樹林化、採取。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ササバギンラン

Cephalanthera longibracteata Blume

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生育地や個体数も少ない。

概要

暖温帯から亜寒帯の林下に生育する夏緑性草本。茎は30—50cmで直立し、葉は卵状披針形で先は尖り、長さ7—15cm、幅1.5—3cmで6—8枚茎につく。花は5—6月にまばらにつけ、苞は線形で下部の1—2個は特に長く、萼片は線形で長さ11—12mm、側花弁は萼片より短く、幅が広い。唇弁の基部は筒状の距となり短く突出し、舷部は3裂する。距が短く、鈍く突出し、中裂片が楕円形で鋭頭なギンランに対し、長くやや鋭く突出し、心形で鋭鋭頭であるので区別できる。国内では北海道から九州に分布し、朝鮮半島・極東ロシア・中国東北部に広く分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

杵村によれば県内に広く稀に生育するとの報告がある。三瓶に東部の丘陵域での標本が残されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

トケンラン

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はもともとまれであり、生育地の破壊等により生育地が消滅することが多い状態である。

概要

樹林内に生える草丈20cm前後の夏緑多年草である。植物体は地下に直径2cmの球形の偽球茎が細長い地下茎でつながり、偽球形から1—2枚の長楕円形で長さ10cm、幅3cm前後の葉をつける。葉は多くの紫色の斑点をもつ個体群が多い。花は春に咲き、高さ約20cmの花茎を立て、長さ2cmの線状披針形の花被片をつけて、10個前後の花がつく。花被片にも紫色の斑点があって、時に美しく見える。北海道から本州、四国に分布域があるとされる。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(松江市、奥出雲町、飯南町)、県西部(益田市)など、県内全域に分布域があり、海岸域から中国山地脊梁部にまで生育地が点々と知られている。

存続を脅かす原因

樹林伐開、土地造成、園芸上での採取。

(執筆:井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

セッコク

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内全域に生育が点在していたが、園芸上での採取が行われて生育地及び個体群の消滅し、稀な状態になっている。

概要

樹幹や岩上に生えるやや小型の多年草。植物体は茎が束生して株状となり、多くの根を出して着する。茎は円柱形で高さ20cm前後のものがある。葉は披針形で長さ5cmばかりで数枚が互生する。花は初夏の頃に咲き、2～3年前の葉の落ちた古い茎の先に数個の花がつく。花は多くは白色から淡桃色となる。国内では本州から四国・九州・南西諸島に分布し、国外では朝鮮半島南部・台湾・中国～ヒマラヤに分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌顕花植物編」,1716pp.至文堂,東京

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部から西部にかけて全域の山地に生育地が知られているが、かなりまれな状態となっている。また、西ノ島に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

森林伐開による着生樹木の倒伐、遷移、園芸上での採取。

(執筆者: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

カキラン

Epipactis thunbergii A. Gray

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はかなり知られていたが、現在では多くの生育地が消滅してまれになってきている。

概要

陽あたりのよい湿地に生える草丈30～50cm程の夏緑の多年草。葉は卵形で基部は葉鞘となって茎を巻き、長さ10cm、幅3cmばかりで互生して7～8枚がつく。花は初夏から夏に咲き、茎頂に橙黄色の花を10花ばかりをつける。国内では北海道から九州に分布し、国外では朝鮮半島・中国(東北)・ウスリーに分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌顕花植物編」,1716pp.至文堂,東京

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含めて東部から西部まで、また海岸部から中国山地まで広く分布する。生息地は湿地や草原、また水田脇などの小規模な生息適地などにも生育していたが、採取の他、多くの場で生育地そのものが破壊され消滅し、かなりまれとなっている。また、中ノ島に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

遷移による乾燥化や被陰、園芸上での採取。

(執筆者: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

オキノヤガラ

Gastrodia elata Blume var. *elata*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



選定理由

県内での生育地や個体数も少ないため。

概要

暖温帯から亜寒帯の林下に生え、ナラタケと共生する植物で、楕円形の塊茎から高さ40–100cmの黄褐色の茎を伸ばす。茎には膜質の長さ1–2cmの鱗片葉をつける。花も黄褐色で20–50個を総状につける。苞は披針形で、3つの萼片は合着してつぼ状になり、基部の下側はややふくらみ、口部は斜めになって3裂する。唇弁は卵状長楕円形で長さ1cm程度で基部近くで3裂する。国内では北海道から九州に分布し、台湾・朝鮮半島・極東ロシア・中国からヒマラヤと広く分布する。また、全体が緑色になるアオテンマや茎が短く花が帯白色となるシロテンマとよばれる個体がある。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp.株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

草丈が大きくシロテンマに該当しない標本が東部と中部の山域から得られている。生育状況は分からないが、林下などでの生育であると思われる。またシロテンマも西部から確認されている。また、隠岐に生育するとの情報もある

存続を脅かす原因

遷移や森林の伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

クロヤツシロラン

Gastrodia pubilabiata Sawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):廣江伸作



選定理由

県内での生育地は限られており、個体数も少ない。

概要

照葉樹二次林や竹林などの林床に生える菌従属栄養植物である。開花期は9–10月、花茎は1–3cm、茎頂に1–数個の花を咲かせる。花の直径は約1cm、色は茶褐色、萼片と側花弁が合着し、先で少し分かれ平開する。唇弁の表面には剛毛が密生している。花後に花柄が急速に伸び、20–40cmほどに伸長する。果実は細長い楕円形、黒褐色になる。国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。

参考文献

廣江伸作(2016) クロヤツシロラン (*Gastrodia pubilabiata*)を確認、島根植物研究会会報31:8.島根植物研究会、島根
 小林圭介他(2021) 滋賀県レッドデータブック2020年版,676pp.滋賀県自然環境保全課 滋賀
 大橋広好他(2015) 改訂新版日本の野生植物1,666pp.平凡社 東京
 芹沢俊介他(2017) グリーンデータブックあいち2017,352pp.愛知県環境部自然環境課 愛知
 秋村喜則(2004) 島根県植物分布資料(22)クロヤツシロラン*Gastrodia pubilabiata* Sawa.島根植物研究会会報7:8.島根植物研究会、島根

県内での生育地域・生育環境

県東部の湿り気のある社寺林や竹林に生育地がある。

存続を脅かす原因

減少要因としては生育地の森林伐採や林床の攪乱。

(執筆者:廣江 伸作)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ベニシュスラン

Goodyera biflora (Lindl.) Hook.f.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はもともとまれであって、生育地での個体数も多くはない。

概要

山地林内の林床に生える小型の植物で、茎の下部は短く、地に這い、上部は短く立ち上がり、葉を4—5枚つけて、草丈は10cmにみたないものである。葉は長さ3—4cm、幅2cmの楕円形で互生し、表面は濃緑色で少しばかり縮子の表面に似て、裏面は赤味がある。花は夏に咲き、茎頂に淡紅色で長さ約2cmの植物体としては大きい花を2—3個つけて、時に全体として美しく見える。国内では関東以西、四国、九州に分布する。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(出雲市)、県中部(江津市)など、県内全域の山地にまれに生育地がある。おもに照葉樹林内の陰湿な林床で、多くは蘚苔類と共に生える。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取も考えられる。
 (執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ミズトシボ

Habenaria sagittifera Rchb. f.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

日当たりのよい湿地に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと40—70cmになる。葉は長さ5—20cm、幅3—6mmの線形で、茎の下半分に数枚をつける。上部には鱗片葉をつける。花期は7—9月で、茎の上部に多数の花を総状につける。花は直径8—10mmで、色は淡緑色、長さ約15mmの距を下に垂らす。北海道西南部から九州、中国(東北～東南部)に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社. 東京.
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、奥出雲町、飯南町)、県西部(益田市)で確認されている。生育環境は、日当たりの良い湿地である。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、湿地の開発や乾燥化による消失や、遷移の進行による灌木化、樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ホクリクムヨウラン

Lecanorchis hokurikuensis Masam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 廣江伸作



選定理由

県内での生育地は限られており、個体数も少ない。

概要

スダジイ林などの照葉樹林下に生える菌従属栄養植物である。地上茎は直立し、高さ30—50cm、数個の鱗片葉を互生する。花期は5—6月、茎の上部に数個、総状につける。花の色は淡紫褐色、筒状でほとんど開かない。唇弁には縁を除き、内面に毛が生えている。国内では本州、四国、九州に分布する。

参考文献

小林圭介他 (2021) 滋賀県レッドデータブック2020年版. 676pp. 滋賀県自然環境保全課 滋賀
大橋広好他 (2015) 改訂新版日本の野生植物1. 666pp. 平凡社 東京
芹沢俊介他 (2020) レッドデータブックあいち2020. 810pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課 愛知

県内での生育地域・生育環境

おもに県東部の社寺林などの照葉樹林下に生育地がある。その他、隠岐諸島にも記録がある。

存続を脅かす原因

現在の生育地の森林伐採、林床植生の刈り取り、及び人による踏みつけ。

(執筆者: 廣江 伸作)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ムヨウラン

Lecanorchis japonica Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 廣江伸作



選定理由

県内での産地、及び個体数はともに限られている。

概要

シイやカシなどの常緑広葉樹林下に生える菌従属栄養植物である。地上茎は直立し、高さ20—50cm、数個の鞘状葉をまばらにつける。花は総状に数個つけ、5—6月に開く。長さ約20mm、色は黄褐色。唇弁の先は3裂し、中裂片の内面には長毛が密生する。国内では本州、四国、九州に分布する。

参考文献

小林圭介他 (2021) 滋賀県レッドデータブック2020年版. 676pp. 滋賀県自然環境保全課 滋賀
大橋広好他 (2015) 改訂新版日本の野生植物1. 666pp. 平凡社 東京
芹沢俊介他 (2017) グリーンデータブックあいち2017. 352pp. 愛知県環境部自然環境課 愛知

県内での生育地域・生育環境

おもに県東部の社寺林などの照葉樹林下に生育地がある。その他、県西部の三隅町にも記録がある。

存続を脅かす原因

生育地の森林の伐採、林床の攪乱、及び土地開発。

(執筆者: 廣江 伸作)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ヒメフタバラン

Neottia japonica (Blume) Szlach.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県下では生育地が少ないので、生育環境を保全する必要があるため。

概要

暖温帯の林下などに生え、草丈5—30cmになる。葉は卵状三角形やや鋭頭。基部は切形かやや浅心形、長さや幅1—2cmになる。花は淡紫褐色で、春に咲き、狭卵形の萼片と線状長楕円形の側花弁は反曲し、唇弁は長さ6—8mmで、くさび形で2深裂し、裂片は2—3mmの線状楕円形になる。本州・四国・九州・琉球に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp.株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫(2017) 植物の分布・観察報告(47) 島根半島でヒメフタバラン*Listera japonica* BLの分布を確認。

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部から生育が報告されている。東部では丘陵域の林縁や林下で群生して生育が見られた。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ヨウラクラン

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内には広く分布域があるが、生育地はもともと多くなく、その個体数はきわめてまれな状態となっている。

概要

樹幹、時に岩上に着生するきわめて小型の常緑多年草である。植物体は長さ5cm止まりのもので小さい株になって下垂して生え、葉は扁平で長さ1—2cm、幅3mm前後で、左右2列に互生する。花は初夏の頃に咲き、茎頂に長さ約5cmの花序を出し、多数の黄褐色の小花をつける。国内では関東以西、四国、九州、南西諸島の範囲に分布域がある。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(松江市、出雲市)で確認されている。しかし、各生育地での個体数は多くはない。おもに山林内や神社、仏閣のモミの大木の樹幹に着生するものが見られる。

存続を脅かす原因

着生樹木及び樹木の伐倒、伐開、園芸上での採取も考えられる。

(執筆者:井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

オオヤマサギソウ

Platanthera sachalinensis F.Schmidt

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

生育地も個体数も少ない。

概要

冷温帯の林縁や湿地に生える多年草で、根の一部が肥厚して棍棒状になり、茎は高さ40—60cmになる。葉はふつう2枚が大きく倒卵状楕円形で、長さ10cm、幅4—7cm、先端は鈍頭、基部は細くなり鞘となる。また、葉身の表面に光沢がある。上方の葉はしだいに小さくなり、鱗片葉になる。花期は7—8月で、淡緑色の花をやや密に総状につける。背萼片は狭卵形、側萼片は平切卵形、側花弁は側萼片と同形、唇弁は広線形で、距は細く、入口に小さな舌状突起がある。南千島・北海道～九州に見られ、サハリン、台湾に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と西部から報告されている。同地域の山域の林縁などでまれに確認されている。

存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ヤマトキシソウ

Pogonia minor (Makino) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は昭和60年代には、出雲部だけでも数カ所が知られていたが、現在ではその生育地は消滅している。現在は、県内の数ヶ所でのみ生育が確認されている。

概要

山地の草地に生えるやや小型の多年草で、地を這う根茎から地上茎を出し、草丈は約10cmになる。茎の中央部に長楕円形の葉を1枚つけ、茎頂に1花をつける。花は夏に咲く。淡紅色の披針形の花被片をもつ花を上向きにつけるが、花被片はほとんど開かないという特徴がある。国内の北海道から、本州、四国、九州、そして朝鮮半島に分布する。

参考文献

井上雅仁・大畑純二(2007) 島根県浜田市金城町の湿原植物。島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6。
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。
 澤田達也(2025) 島根県松江市北部にてヤマトキシソウを確認。島根県植物研究会会報 48: 6-7。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市)、県中部(大田市)、県西部(浜田市)で確認されている。県東部(飯南町)の生育地は山地内での路傍崖地や草刈り場に存在したが、遷移による樹林化により消滅したと思われる。

存続を脅かす原因

生育地の樹林化。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ラン科

ヒトツボクロ

Tipularia japonica Matsum.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

山地の林床や林縁などに生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと20—30cmになる。葉は1枚だけで、長さ3.5—7cm、幅1.5—3cmの卵形で、先がとがる。表面の色は光沢のある深緑色で、中肋が白く、裏面は紫色を帯びる。花期は5—6月で、花茎の先に淡黄緑色の小さな花を5—10個まばらにつける。北海道から九州、朝鮮半島南部に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京.
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内の分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、マツ林や雑木林の林床や林縁部などであり、下層木の多いやや薄暗い場所にも生育している。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンバイザサ科

コキンバイザサ

Hypoxis aurea Lour.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山地に生える夏緑性のやや小型な多年草。地中の塊状の根茎から長さ約10cmで線形の葉を数枚束生する。植物体全体に長い毛がある。初夏の頃に花をつける。花は葉腋から出る長さ10cm前後の細い花茎の先に数個がつく。花被片は6枚、長さ5mmで黄色である。果実は蒴果で長楕円形、長さ約1cmである。本州の関東地方以南、四国、九州、南西諸島に分布し、中国、マレーシア、インドなどの南方に分布域があるとされる。

参考文献

枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)にのみ生育地が知られている。シバスケなどの草丈の低い草原内に生えている。

存続を脅かす原因

人為的な草原の破壊、遷移による樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アヤメ科

ノハナショウブ

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である湿地が、開発や乾燥化、遷移の進行などにより各地で減少している。

概要

山地の湿地などに生える多年草である。草丈は花茎が伸びると40—80cmになる。葉は剣状で、長さ30—60cm、幅5—12mmで、中脈が目立つ。花期は6—7月で、花茎の先に数個の花をつける。花の大きさは直径約10cmで、赤紫色である。外花被片の中央から基部にかけては黄色をしている。近縁のカキツバタは、葉の中脈が目立たず、花の色は青紫色、外花被片の中央から基部にかけては白色である。北海道から九州、韓国、中国(東北)、シベリア東部に分布する。

参考文献

- 井上雅仁・大畑純二(2007) 島根県浜田市金城町の湿原植生。島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6。
 井上雅仁(2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。
 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京。
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。
 渡津友博・桑原一司・井上雅仁(2022) 島根県邑南町淀原湿地の植生。島根県立三瓶自然館研究報告 20: 1-7。
 渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁(2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(川本町、邑南町)、県西部(浜田市)で確認されている。生育環境は、県東部では山間のハンノキを伴う湿地帯、県中部と西部では山間の湿地などである。

存続を脅かす原因

園芸採取、湿地の乾燥化、遷移の進行による樹林化。
 (執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アヤメ科

ヒメシャガ

Iris gracilipes A.Gray

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、本来、県内での自生のものか不明な点がある。

概要

根茎は地中または地上を這い、分枝して枝の先端に数枚の葉を2列につける。葉は淡緑色で、長さ20—30cm、幅1cm程の線形葉で先端はやや垂れる。花は春に咲くが、細く硬い花茎を葉より少し長く出し、2—3の枝を分けて花がつく。花被片は淡紫色で、外花被片が大きく、濃紫色の條と黄色の斑紋がある。北海道西南部から本州、四国、九州北部に分布域があるとされるが、中国地方では分布が知られていないとする資料もある。

参考文献

- 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、飯南町)に生育地が知られていて、山林内から林縁の草地にみられる。一部の生育地は、過去における峠の茶屋が存在したとされる場であり、林縁のものも民家に近く、本来の自生のものとしては疑わしい点もある。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化と園芸上での採取。
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒガンバナ科

シロウマアサツキ

Allium schoenoprasum L. var. *orientale* Regel

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地が限られている。本来はより北方の寒冷地に分布する植物であるため、分布的に稀な種でもある。

概要

海岸や山地の露岩地や草原などに生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと高さ30—50cmになる。葉は長さ15—40cm、直径が4—5mmで、細い円柱形である。地下に狭卵形の鱗茎をつける。花期は5—7月で、花茎の先に、多数の花が球状につく散形花序をつける。花被片は淡紫色である。雄蕊は花被片と同長かわずかに長い。近縁種のアサツキは、雄蕊が花被片より短い。北海道、本州(中部以北・近畿北部・隠岐)、サハリン、朝鮮半島、シベリア東部に分布する。

参考文献

井上雅仁・三島秀夫・深谷 治・八幡浩二・野辺一寛(2019) 隠岐諸島における北方系植物数種の分布について。島根県立三瓶自然館研究報告 17: 37-43。
大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科。666pp. 平凡社。東京。
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。
丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物。隠岐の文化財 39: 6-14。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村)、県東部(松江市)で確認されている。生育環境の多くは、海岸沿いの明るく開けた岩場であり、隠岐諸島の一部では内陸の露岩地にもみられる。

存続を脅かす原因

海岸の開発や埋め立て、波浪による消失、園芸上の採取。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ミズアオイ科

ミズアオイ

Monochoria korsakowii Regel et Maack

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 辻井要介



選定理由

除草剤による影響のほか、近年では県内各地の圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移によって生育場所が減少。

概要

全国の池沼、水路、休耕田などに生育する1年生の大形抽水植物。葉は根生し、高さ30cmから時に1mを越える。葉はスペード形で葉身の長さとは幅は5—20cmで先が尖る。葉柄基部の葉鞘から葉の高さを越えて花茎が立ち、頂部にヒアシンスの花形に似た長さ10—15cmの総状花序をつける。花径は2.5—3cmで1花序に数個から数10個の花がつく。花は匂い、花被片は鮮やかな青紫色。花後、花茎が下向きに折れ曲がり、円錐または三角錐状の果実ができる。果実は熟すと3裂して、1mmほどの黒色の種子を多く出す。同属のコナギ(*M. vaginalis*)に似

参考文献

角野康郎(2014) 日本の水草。326pp. 文一総合出版。東京。
Kunii,H.(1999) Comparative ecology of *Monochoria korsakowii* and *M. vaginalis*. *Hydrobiologia*, 415: 29-33。
古原 洋・万小春・赤井賢成・汪光熙(2011) 雑草モノグラフ 7. ミズアオイ (*Monochoria korsakowii* Regel et Maack). *雑草研究*, 56(3): 166-181。

るが、植物の大きさと花の咲く位置が異なる。ミズアオイは全体的に大型で、花序が葉よりも高い位置で咲くのに対し、コナギは小型で花は葉よりも低い位置で咲くのが特徴である。コナギが水田雑草として各地で繁茂しているのに対し、ミズアオイが数を減らしている原因として農薬に対する耐性の違いが知られているが、両種の蒸散速度の違いもその一因であるとする研究例もある。

県内での生育地域・生育環境

斐川平野の水田、用水路。大橋川河口左岸域の休耕田や神西湖に流入する河川と周辺の休耕田で以前その生育が確認されている。

存続を脅かす原因

除草剤による影響及び水田の乾田化と放棄水田の増加、小河川や水路のコンクリート化、アメリカザリガニ等による食害。

(執筆者: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ガマ科

ヒメミクリ

Sparganium subglobosum Morong

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

県内での生育地はきわめてまれな状態となっている。

概要

浅い水中から水湿地状態の土地に生える抽水植物の一種である。植物体は草丈が約50cm、葉はほぼ線形で、下部の葉は長さ30cm、幅5mmであるが、上部のものは短い。花は夏前に咲き、茎に互生する葉の葉腋に球状の花序をなしてつく。下方につく1-3個の花序は雌雄花序で、上部に5-6個の雄性花序をつける。分布としては日本全国から朝鮮半島、中国東北部の範囲にあるものとされる。

参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、飯南町)、県中部(大田市、邑南町)など、山地の水湿地や溜池などの池沼に生育地が点在するが、きわめてまれな状態となっている。特に溜池では池の管理放棄によって遷移して個体群が消滅してきている。

存続を脅かす原因

水湿地、溜池の管理放棄による遷移。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ホシクサ科

オオホシクサ

Eriocaulon buergerianum Koernicke

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリ

—

No Image

選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

水湿地に生える1年草で、地際に線形の長さ10cmばかりの葉を根生状に多数つける。花は夏に咲き、高さ20cm程の花茎を多数立てて、それぞれに頭花を1個ずつつける。頭花は半球形で径5mm前後。総苞片は広倒卵形で頭花より短い。頭花は白色で、花苞の上半部背面には白色の短毛が多いが、萼裂片には上縁にのみ白色短毛があって背面にはない。本州から琉球に分布し、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部から報告されている。低地のため池周辺に生育していたとのことであるが、現地では確認できない状況である。

存続を脅かす原因

溜池の管理放棄。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

ヒロハノオオタマツリスゲ

Carex arakiana Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

県下では生息地も個体数も少ない。

概要

山地の林下に生育し、葉は深緑色で葉の幅も5-10mmで大形の株となり、花期まで前年の葉が残る。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で果苞の嘴が長い。似たタマツリスゲは基部の鞘は赤紫色であるのは同じであるが、山域から丘陵域まで広く生育し、葉は幅2-3.5mmで細く稈は30-40と小さく、翌年には前年の葉が残らない。本州の北陸から中国地方に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京

柳浦正夫 (2005) 植物の分布・観察報告 (17)ヒロハノオオタマツリスゲ*Carex filipes* Franch & Sav. var.*arakiana* Ohwi 島根植物研究会会報(8) : 15 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

県東部の中国山地の林下に稀に生育が見られる。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者：柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

サンインヒエスゲ

Carex jubozanensis J.Oda et A.Tanaka

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種 (西限)

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県下で生息地も個体数も少ない。

概要

丘陵域から山域のやや乾いて明るい赤松林や森林脇の山道に生育する。長い匍枝を伸ばし、その先に子株を作り広がる。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で数個の果胞をつける。果報の表面は無毛で、長さ2cm以下。嘴は長く基部で外側にやや曲がる。本州の福井県から島根県・広島県まで分布する。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京

松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3 : 1-49 島根県立三瓶自然館

松村喜則 (2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告4 : 41-43 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の丘陵域から山域の森林脇の山道などに稀に生育が見られる。現在県下で確認できる生息地はまとまった地域であり、複数個所に見られる。

存続を脅かす原因

森林伐採や遷移。

(執筆者：柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

ヒメスゲ

Carex oxyandra (Franch. et Sav.) Kudô var. *oxyandra*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県下での生育地も個体数も少ない

概要

山地の明るい森林や草地に群生してはえる多年草で、有花茎は10—30cmほどになり、細くて花時には倒れる。葉は鮮緑色で幅2—3mmで鞘は赤色を帯びる。頂小穂は雄性、側小穂は2—5で雌性。雌鱗片は卵形で鋭頭、暗赤紫を帯びる。果胞は倒卵形で長さ2.5—3.5mmで短毛が生え、やや長い嘴がある。国内では北海道から九州に分布し、サハリン・千島列島・台湾にする。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 1」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3 : 1-49 島根県立三瓶自然館
 松村喜則 (2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告 4 : 41-43 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫 (2004) 植物の分布・観察報告(3)ヒメスゲ*Carex oxyandra* Kudo, 島根植物研究会会報 5 : 6-7 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

中部と西部の山地に分布している。ともに山頂付近でやや明るい林縁や林下の岩の隙間や岩棚、また斜面に分布しているのが確認された。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

アブラシバ

Carex satsumensis Franch. et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はまれに知られるが、その場の遷移によって消滅することがあって、長続きする生育地は無いようである。

概要

山地の裸地に生える多年草。草丈は10—20cmである。花序は円錐形で多くの小穂をつけ、上方に雄花穂、下方に雌花穂をつける。国内では本州の東北地方南部から四国、九州に分布するとされる。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3 : 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市)に知られている。県東部では近年個体が確認できていない。生育地は山地の草原や露岩地である。

存続を脅かす原因

遷移による生育地の消滅。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

ノスゲ

Carex tashiroana Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



■ 選定理由

県内での生育地は稀で個体数も少ない。

■ 概要

匍枝がなく密に叢生し、鞘はあまり伸びず褐色を呈し繊維状になる。高さは15—30cmとなり葉は稈と同長がやや短く幅1.5—2.3mm。頂小穂は線柱形で長さ1.5—3cmの雄性、側小穂は2から3個つき、雌性。雌鱗片は倒卵形から狭卵形で短い芒をもつ。果胞は狭卵形で長さ1.8—2mm、幅0.8—1mmまばらに毛が生え、4—5脈ある。嘴は短く、口部は尖らない。中国地方の主として太平洋側に分布する。

●参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp.株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫(2019)島根県で初確認されたノスゲについて、島根県立三瓶自然館会報17:33-34 島根県立三瓶自然館・しまね自然と環境財団、島根

■ 県内での生育地域・生育環境

中部の川沿いの岩角地に少数生育している。

■ 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

オニナルコスゲ

Carex vesicaria L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



■ 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である湿地が、開発や乾燥化、遷移の進行などにより各地で減少している。

■ 概要

湿地や河畔に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30—100cmになり、地下匍枝がある。茎の基部の鞘は赤紫色で、前面が糸網状に裂ける。葉は線形で、幅は3—8mmである。花期は5—8月で、上方の2—3個の小穂は雄性で、長さが3—5cmである。下方の2—4個は雌性で、長さが3—7cmである。北海道、本州、九州、北半球の温帯に分布する。北方に多い種である。

●参考文献

星野卓二・正木智美(2011)日本カヤツリグサ科植物図譜,782pp.平凡社,東京。
 井上雅仁・三島秀夫(2019)島根県津和野町地倉沼の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告17:1-15。

■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(津和野町)で確認されている。生育環境は、山間の池沼で、ハンノキ林を伴う湿性草原内である。

■ 存続を脅かす原因

湿地の乾燥化、遷移の進行による湿地の灌木化、樹林化。

(執筆者:井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

マシカクイ

Eleocharis tetraquetra Nees

カテゴリー区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	分布限界種(北限)
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省カテゴリー —

No Image

■ 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

■ 概要

水湿地に生える草丈50cm前後の多年草。植物体は地中の根茎から高さ約50cmの4稜形の稈を多数束生するだけのものである。葉は稈の基部に葉鞘だけに退化したものがつく。花は夏から秋にかけて咲き、稈の先端に1個だけつく小穂につく。小穂は卵状長楕円形で長さ1cm、幅3-5mmで、刺針状花被片は6本、下向き刺針が密生する。本州の中国地方から四国、九州、南西諸島に分布し、さらに中国からマレーシアなどの南方に分布が続くものとされる。

● 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 丹後亜興 (2013) 隠岐諸島新産の植物(6) マシカクイ. 隠岐の文化財 30: 51.

■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)、県西部(益田市)に生育地が知られるが、他の地域での状況は不明である。島根半島にも分布したが、これは開発により消滅した。県東部(松江市)でも標本記録があるが、現状は不明である。

■ 存続を脅かす原因

生育地での遷移による樹林化、水湿地の埋め立てなど。
 (執筆: 井上 雅仁・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

オオイヌノハナヒゲ

Rhynchospora fauriei Franch.

カテゴリー区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省カテゴリー —

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



■ 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育地である湿地は開発や遷移の進行、乾燥化などにより縮小や消失が著しい。

■ 概要

山地の湿地やため池の縁などに生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと50-90cmになる。葉は幅1.5-2.5mの線形で、根元から叢生する。花期は7-10月で、花序は密集した複散房状で、茎の上部に2-3個の分花序を離れてつける。小穂は長さ7-8mmの披針形で、2-3個の花をもつ。果実の刺針は6個であり、その長さは果実の3倍以上と長く、縁はほぼ平滑または少し下向きにざらつく。日本固有種で、北海道、本州、九州に分布する。

● 参考文献

星野卓二・正木智美 (2011) 日本カヤツリグサ科植物図譜. 782pp. 平凡社. 東京.
 井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁 (2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)と県中部(邑南町)で確認されている。生育環境は、県東部では山間の湿地、県中部では山間の湿地やため池の縁などである。

■ 存続を脅かす原因

湿地の埋め立てや開発、湿地の乾燥化、遷移の進行による湿地の灌木化、樹林化。

■ 特記事項

近縁種のイヌノハナヒゲは、小穂の大きさは同様であるが、果実の刺針は上向きにざらつく点などが異なる。
 (執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

イガクサ

Rhynchospora rubra (Lour.) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県下で生育はきわめてまれであり、生育地が水湿地と考えられるので環境の変化による絶滅が憂慮される。

概要

水湿地に生える一年草または短命な多年草で、叢生し、茎は長さ20—70cmで、鈍三角形となる。葉は根生し、葉身は線形で幅1.5—3mm。花序は1個で頂生し、頭状。小穂は卵状披針形やや扁平。長さ6—8mm。小穂の鱗片は6—8個つき、卵形から披針形。刺針状花被片は3—6本で上向きにざらつく。果実は倒卵形で長さ1.3—1.8mm、平滑、上縁に短い毛あり。8—10月に熟す。嘴は小さい円錐形で帽子状。国内では本州（千葉県以西）から南西諸島。国外では朝鮮半島・中国・台湾・インド・東南アジア・オーストラリア・太平洋諸島と拾い分布域をもつ。

参考文献

大橋広好他（2015）「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3：1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の周布川下流域から採集された標本が三瓶自然館に収蔵されている。しかし、詳細な産地は分っていない。生息環境から考えて、平地か丘陵域の明るい水湿地であろうと考えられる。

存続を脅かす原因

埋め立て、遷移等。

（執筆者：柳浦 正夫）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カヤツリグサ科

コシンジュガヤ

Scleria parvula Steud.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地も個体数も多くない。

概要

湿地に生える一年草。茎は3稜形で25—90cmになる。葉は茎より生え、線形で長さ10—35cm、幅2—6mm。葉鞘は幅広い3翼がある。葉鞘舌は丸みの有る切形で縁毛がある。花序は円錐形で長さ10—20cm。果実は球形から楕円形で長さ2—2.3cm、光沢のある白色でこまかい格子状紋がある。果実の基盤は3裂し、裂片は卵状三角形。国内では本州から九州に分布し、朝鮮半島・中国・東南アジア・インド・スリランカ・アフリカと広く分布する。

参考文献

大橋広好他（2015）「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」.391pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3：1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県東部と西部の山域の湿地での生育が知られている。

存続を脅かす原因

埋め立てや遷移。

（執筆者：柳浦 正夫）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イネ科

ヒメコヌカグサ

Agrostis valvata Steud.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である湿地が、開発や乾燥化、遷移の進行などにより各地で減少している。

概要

山地の水湿地や湿った路傍に生える多年草である。稈は高さ40-70cmで、多数束生する。葉は扁平で、長さ7-15cm、幅2-5cmである。花期は5-6月で、稈の先に長さ7-15cmの円錐花序をつける。小穂は長さ2.5-3mmで、花序全体はまばらで透けて見える。日本特産で、本州(関東以西)、四国、九州に分布する。

参考文献

井上雅仁(2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.
 長田武正(1993) 増補日本イネ科植物図譜. 777pp. 平凡社. 東京.
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県西部(浜田市)で確認されている。生育環境は山間の湿った場所で、ハンノキを伴う湿地の林床、林道沿いの湿った箇所などである。

存続を脅かす原因

湿地の埋め立てや開発、湿地の乾燥化、遷移の進行による湿地の灌木化、樹林化。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イネ科

ヒロハノコヌカグサ

Aniselytron treutleri (Kunze) Soják var. *japonica* (Hack.) N.X.Zhao

カテゴリー区分

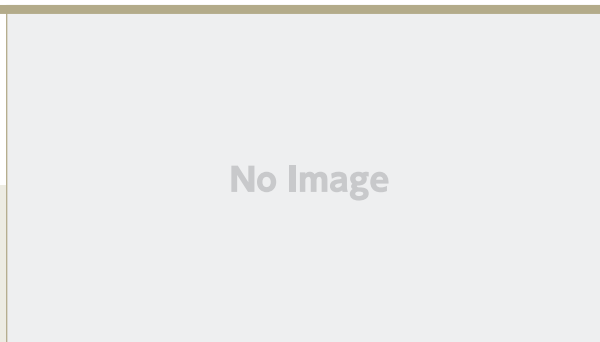
2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県下では産地もまれで、個体数も多くない。

概要

渓谷林などの湿った林下に生育し、葉身は扁平で幅1-2.2cmとなり両面がざらつく。花序は20-30cmになり、1小花からなる緑色の小穂をまばらにつける。花序の枝はざらつき、小葉は小枝に圧着する。包穎は広披針形、第一包穎は長さ1-1.5mm、第2包穎は2-2.5mmで護穎よりも短い。国内では本州(中部以西)に生育し、基準変種はインド・中国(南部)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp. 株式会社平凡社. 東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部に生息している。山域の溪流部周辺の岩棚などにまれに生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イネ科

インヨウチク

Hibanobambusa tranquillans (Koidz.) Maruy. et H.Okamura

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

稈は高さ4m、直径2cmになり、1節から1-2本の枝を出す。主稈の稈鞘は黄褐色で、脱落する。葉は長さ約28cm、幅5cmの広楕円状披針形である。主稈の稈鞘は脱落し、葉鞘にブラシ状の肩毛をつけるといったマダケ属の特徴と、大型の葉をもち、枝には稈鞘が宿在するというササ属の特徴を併せ持っている。両者の特徴を陰と陽に見立てて、和名がつけられた。島根県、広島県、岡山県に分布する。

参考文献

小林幹夫(2017) 原色植物分類図鑑 日本のタケ亜科植物. 435pp. 北隆館. 東京.
丸山 巖・岡村はた(1971) インヨウチクの新産地. 富士竹類植物園報告. 16: 64-67.
仁多町誌編纂委員会編(1996) 仁多町誌. 1078pp.
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、松江市、雲南市、奥出雲町)で確認されている。生育環境は、山地の林内や林縁などである。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

特記事項

1937年に安来市伯太町で発見された植物である。同地は県の天然記念物に、奥出雲町の生育地は町の天然記念物に指定されている。

(執筆者:井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イネ科

トウササクサ

Lophatherum sinense Rendle

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):野津貴章

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

概要

山地に生える夏緑の多年草。開花株は高さ50cmばかりに稈を立て、長さ20cm、幅3cmほどの広披針形の葉をつける。花は円錐花序で、夏から秋にかけて咲く。小穂は長さ8mm程でやや扁平となり背面がくの字状に膨らむので各地に見られるササクサと区別できる。本州(北陸・近畿以西)から九州・中国(中部)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社.東京
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の丘陵域から報告されている。林縁部に生育する。また、隠岐(島後)に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

路傍、林縁の管理による生育地の破壊、遷移による環境変化。

(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イネ科

イブキヌカボ

Milium effusum L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県内での生育地は1ヵ所の狭い区域だけで、環境の変化によって激滅してしまう恐れがある。

概要

山中の湿気のある林床などに生育する多年草で、高さ60—120cmになる。葉身は扁平で短線形で、幅1—1.5cmで急鋭頭になる。円錐花序は15—25cmで、各節から2—5本の枝を開出する。小穂は長さ3mmほどで小花は淡色で護穎に光沢がある。花は6—7月に見られる。国内では南千島・北海道～九州に生育し、北半球の温帯から亜寒帯に広く知られる。

参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の山頂近くの稜線のみで生育することが知られており、また林下には生育できず、登山道脇のみで生えているので、不適切な管理により全滅する可能性もある。

存続を脅かす原因

刈取、遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イネ科

アイアシ

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

海岸の湿地や砂礫地に生える多年草である。地中には横に這う太い根茎をもち、硬い鱗片に覆われる。稈の高さは80—160cmになり、束生する。葉は長さ20—40cm、幅1—3.5cmで、葉鞘上部の縁には長毛がある。花期は6—10月で、太い茎の上部に、長さ10—25cmの花穂を5—10個つける。北海道、本州、四国、九州、朝鮮(中・南部)、中国北部、アムール地方に分布する。

参考文献

長田武正 (1993) 増補日本イネ科植物図譜, 777pp. 平凡社, 東京.
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 丹後亜興 (2020) 隠岐の西限植物, 隠岐の文化財 37: 52-58.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(海士町)、県東部(松江市)、県中部(大田市)、県西部(浜田市、益田市)で確認されている。生育環境は、いずれも海岸沿いの湿った草原内や礫浜などである。

存続を脅かす原因

海岸開発、波浪による海辺の立地の消失。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

メギ科

ルイヨウボタン

Caulophyllum robustum Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

産地が点在し、個体数が少ない。

概要

山地の林下に生え、高さ40—70cmになる。茎葉は2—3回3出の複葉で、葉柄がほとんどない。頂小葉には葉柄があり、側小葉にはない。小葉は長楕円形で全縁。幅の広いものは先が2—3裂する。花は4—6月に咲き、緑黄色で径8—10mm。10個内外が集散状につく。実は液果、球形で青く、1つの花より2つずつできる。国内では北海道から九州まで分布し、南千島・サハリン・ウスリー・朝鮮半島・中国に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県東部から西部の山域の林下にまれに生育する。また、隠岐(島後)に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

森林伐採、園芸上の遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンポウゲ科

サンヨウブシ

Aconitum sanyoense Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

概要

冷温帯の山中に生える夏緑の多年草で高さ60—200cm。茎は多くは直立せず斜めに伸びて、葉は円腎形で長さ10cm、幅15cmばかりで、5—7片に中裂する。花は夏から秋に咲き、淡紫色から濃紫色で長さ約5cmで、多くて10花ばかりがつく。本州・四国にかけて分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで中国山地に点々と生育地が点在する。冷温帯夏緑林内のやや陰湿な環境の場に生える。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンポウゲ科

アズマイチゲ

Anemone raddeana Regel

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

夏緑林内に生える草丈20cmばかりになる多年草。地中を這う根茎があって、2回3出の複葉を根生する。花は春に咲き、花茎を立て、3枚の茎葉を輪生して、茎頂に径3cmばかりの1花をつける。花被は長楕円形で白色から淡紫色で10枚ばかりがつく。夏には地上部はすべて枯れる。国内では北海道~九州に分布し、朝鮮半島・中国東北部・サハリン・ロシア沿海地方に分布する。西日本での分布はまれである。

●参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の奥部の丘陵域に見られ、明るい夏緑林内の林床、林縁に生育している。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取。
 (執筆者:柳浦 正夫・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンポウゲ科

リュウキンカ

Caltha palustris L. var. *nipponica* H.Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

水湿地に生える夏緑性の多年草で、葉は根生葉としてつき、長い葉柄があって葉身は円形~楕円形で、長さ、幅とも5~10cm前後、無毛で光沢がある。花は早春、葉が展開すると同時に咲く。長さ20~30cmの花茎を出し、先端で2~3の枝を分け、枝先に1花をつける。花は花弁がなく、黄色の萼片5枚が直径約4cmの大きさで咲き、美しい。本州及び九州の一部、朝鮮半島に分布域のある植物であるが、本来、寒冷な地に生えるもので、西日本ではまれな植物である。

●参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 井上雅仁(2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)の一部にのみ限られて、生育地は県の自然環境保全地域に指定され、保護されている。

存続を脅かす原因

生育地の遷移による環境変化。
 (執筆者:井上 雅仁・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンボウゲ科

タカネハンショウヅル

Clematis lasianдра Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



選定理由

県下での生育地が限られ、希少である。

概要

山域の林縁に生育する木本性のつる植物。茎は淡紫褐色で、葉は若い個体や枝では互生し、のち対生する。葉は2-3回3出複葉で、小葉は卵状楕円形から卵形、長さ4-8cm、幅1-3cmであらい鋸歯がある。花は8-10月に咲き、腋性の集散花序。釣鐘形、下向きに咲く。萼片は淡紫色から紫紅色の4枚で卵状楕円形、長さ1.5-2cm、幅0.5-0.7cm、先端は鋭形で反曲する。国内では本州の近畿以西から沖縄に分布し、中国・台湾・フィリピン・インドネシア・マレーシア・インドに分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
丸山 巖(1982)タカネハンショウヅル, 島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局, 島根県大百科事典下巻, 山陰中央新報社 p.32-33
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の山域から標本が得られているが、現状は不明である。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンボウゲ科

サンインシロカネソウ

Dichocarpum ohwianum (Koidz.) Tamura et Lauener

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(西限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山地の溪側に生える草丈20cmばかりの軟かい多年草。葉は茎の上部に対生して、扇状か、または3小葉に裂けて、縁は欠刻状に浅く裂ける。葉はやや黄緑色に近い。花は春に咲き、萼片5枚が花弁状で、倒卵形、長さ1cm弱、淡黄色で、基部に暗赤色の部分があって目立つ。花弁も5枚あるが線形で萼片より小さく目立たない。花後に2-3の地上走出枝を出す。本州(福井県~島根県)。日本海側に分布する植物である。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部に見られ、多くは内陸部の山地樹林内の溪側、湿気のある崖などに生えているが、島根半島にも分布している。

存続を脅かす原因

樹林伐開などによる生育地の環境変化、園芸上での採取。

(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンボウゲ科

オキナグサ

Pulsatilla cernua (Thunb.) Berchtold et J.Presl

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はかなりまれな状態となっている。生育地での個体数も激減している。

概要

本来、草原に生える草丈20cm前後の多年草である。植物体は全体に白毛が多く、葉は2回羽状葉で根生する。開花株では高さ約30cmの花茎を立てて1茎に1花をつける。花は横向きから下向きに咲く習性があり、萼片6枚で外面は白毛に被われ、内面は赤紫色で、時に美しく咲く。花後、花茎はやや伸びて立ち上がり、茎頂に果実を球状につける。花柱が長く伸び、白毛を密生して特異な形状となる。園芸上での人気があり、栽培する人が多い。日本、朝鮮半島、中国の範囲に分布域がある。

参考文献

廣江伸作 (2024) 安来市の植物誌-維管束植物- 64pp.
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)、県中部(大田市、美郷町、川本町、邑南町)、県西部(津和野町)など、全県に生育地が知られていたが、現在では生育地が消滅した地も多い。山地草原から林縁の草地、耕作地及び溜池の土堤、河川の河原などに生える。

存続を脅かす原因

草地の遷移による環境変化、河川での洪水、園芸上での採取。
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンボウゲ科

シマキツネノボタン

Ranunculus sieboldii Miq

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地の記録があるが、現在での明らかな生育地の確認ができていない。

概要

やや湿気のある地に生える多年草。茎は地を這うように伸び、白毛が密生し、葉を互生する。葉は長い柄があって3出複葉、小葉がさらに3中~深裂する。花は春から夏に咲き、葉に対生する形で長さ約5cmの花柄に花をつける。花弁は黄色、長楕円形で長さ5mm前後、萼は反曲して咲く。国内の本州中国地方から四国、九州、南西諸島に分布して、さらに中国にも分布するとされる。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 丹後亜興 (2021) 隠岐の北限植物。隠岐の文化財 38: 30-50.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)、県東部(松江市)、県西部(浜田市)での記録があるが、ほとんどの生育地の現状は不明である。

存続を脅かす原因

生育地の乾燥化、遷移の進行による灌木化、樹林化。
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンポウゲ科

オトコゼリ

Ranunculus tachiroei Franch. et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

日当たりのよい湿地に生息する多年生草本で、高さ35—100cmになり上部で分枝する。葉は根生葉が2・3枚生え、葉柄は12—20cmで、葉身は五角形条腎円形で、長さ4.5—10cm、幅7—11.5cmで2回3出複葉となる。茎葉は無柄が短く、葉身は2—1回複葉となりともに鋸歯がある。花は7—9月に大型でまばらな集散花序となり。萼片は鮮黄色で卵形、長さ4—5mm、幅2—3mmとなる。集合果は球形で、径8—9mm、瘦果は倒卵状、長さ3—4mmで3扁平、嘴は1.5mmで先端がやや曲がる。国内では本州(福島県以南)に分布し、朝鮮半島・中国東北部に見られる。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から報告されている。中国山地の湿地に生育していたようである。

存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キンポウゲ科

ミヤマカラマツ

Thalictrum tuberiferum Maxim. var. *tuberiferum*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内では生育地も個体数も少ない。

概要

湿った草原や林縁、川沿いの岩角地などに生育する夏緑性の多年草。茎は高さ10—80cmで直立し、2—3回分枝することもある。根生葉は2—3回3出複葉、小葉は狭卵形から広卵形、長さ・幅とも1—8cmで粗い鋸歯がある。花は5—8月、散房花序で白色または淡紅色を帯びる。萼片は楕円形で長さ3mm、白色で背面が紫を帯びることあり、早落性である。国内では北海島・本州・四国・九州に分布し、朝鮮半島・中国大陸東北部・ロシア沿海地方に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館
 秋村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告(4):41-43 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫(2023) 植物の分布・観察報告(75)ミヤマカラマツの県西部での生育報告、島根植物研究会会報(43):5 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地の渓谷の湿った岩上に稀に生育することが知られていたが、近年西部でも分布が確認された。

存続を脅かす原因

遷移や森林伐採等の環境の変化。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ツゲ科

チョウセンヒメツゲ

Buxus microphylla Siebold et Zucc. var. *insularis* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

No Image

選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

岩角地に生育する常緑の小高木で、高さは2—5m、密に分枝する。1年枝は4稜形、葉は対生し、皮室で厚く、長楕円形からへら形、長さ1—1.5cm、幅0.5—1cm、鈍頭から凹頭、基部は鋭尖形から狭いくさび形、葉柄は1—1.5mm、全縁で葉縁が巻き込む。また若枝や葉柄に微毛がある。雌雄同株で、花は3—4月、花序は腋生または頂生し、集まっている。雄花は花序の下につき花被片は倒卵状楕円形で長さ4—5mm、雄蕊は花被片より長い。雌花は頂端につき。花被片は同様だが、柱頭が倒心形で、1cmと長い。果実は卵円形で長さ約1cmとなる。

参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」, 381pp. 株式会社平凡社, 東京
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部の江の川沿岸の岩角地に生育していることが報告されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ボタン科

ヤマシャクヤク

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Takeda

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また園芸目的の盗掘など採集圧が強く、各地で減少傾向にある。

概要

おもに夏緑広葉樹林の林内に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30—40cmになり、茎の中部に2—3枚の葉を互生する。葉は2回3出複葉で、小葉は楕円形であり、下面はふつう無毛である。花期は5—6月で、茎の頂部に直径6—10cmの花を1つ上向きにつける。花弁は白色で、通常は6枚が互いに重なり合うように開く。雌蕊は2—3個で、柱頭はゆるやかに反曲する。秋になると、結実した黒色の種子と、結実しない赤色の種子ができる。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 2イネ科~イラクサ科, 640pp. 平凡社, 東京.
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内の分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市、邑南町)、県西部(浜田市、益田市、吉賀町)で確認されている。生育環境は、夏緑広葉樹林の下のやや明るい林床である。

存続を脅かす原因

美しい花をつけるため、園芸上の採取が顕著である。その他、森林伐採、落葉広葉樹林の手入れ不足による林床の常緑樹林化など。

特記事項

近縁種のベニバナヤマシャクヤクは通常は花弁が淡紅色であるが、島根県内では白花のものが多く見られる。ベニバナヤマシャクヤクは花期が遅く、雌蕊は3—5個で柱頭が強く反曲すること、葉の裏面にふつう毛があることなどが識別点になる。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ユキノシタ科

コガネネコノメソウ

Chrysosplenium pilosum Maxim. var. *sphaerospermum* (Maxim.) H.Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生育地はまれで、個体数も僅かである。

概要

山地の沢沿いの陰湿地に生育する。全体に白色の軟毛を密生し、根生葉は花時に枯れるが、送出枝はよく発達する。花茎は暗紫色で4—10cmになり、茎葉はふつう1対で小さく、対生する。花は春に径3—5mmで萼裂片は黄色で卵円形から広い卵形で先端は丸くなる。花は淡緑色に変わる。雄しべは8個で葯も黄色になる。国内では本州(関東以西)~九州に分布し、種としては朝鮮半島・中国(東北部)・アムール・ウスリーに分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫(2008) ウチワゴケの産地、島根植物研究会会報1:5-6 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

東部と西部から僅かな生育が報告されている。湿潤な沢の林下に生育する。

存続を脅かす原因

森林伐採、遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ユキノシタ科

シラヒゲソウ

Parnassia foliosa Hook. fil. et Thoms. var. *nummularia* (Maxim.) T. Ito

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山間の湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は根際に径4—5cmのほぼ円形の葉を4—5枚束生し、3—8個の花茎を立てる。花茎はほぼ円形で、長さ15—30cm。無柄でやや茎をだく葉をつける。花は夏に咲き、径2—2.5cm、5枚の花弁は白色、縁は糸状に裂けている。国内では本州・四国・九州に分布し、中国西部・インド北部に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.338pp. 株式会社平凡社,東京
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部の山域での生育が知られている。山間の小さな湿地や流れの縁に生えているが個体数は多くはない。

存続を脅かす原因

遷移、乾燥化、被陰等の環境変化、園芸上での採取。

(執筆:柳浦 正夫・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ユキノシタ科

ヤブサンザシ

Ribes fasciculatum Siebold et Zucc. var. *fasciculatum*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地は点々とあるが、各生息地での個体数は少なく、まれな植物である。

概要

落葉高木で、高さは1mくらいになり、下部から分枝する。葉は互生し、短枝につく。葉柄は2-3.5cmで、葉身は広卵形、先は円形または鈍形。基部は円形または鈍形になる。長さ2-6cm、幅2.5-6cmになる。縁には浅い欠刻状に浅い鋸歯があり、両面に短い軟毛が生える。雌雄異株で、花は春に葉腋に束状に数個つく。ともに径6-8mmほどで、黄緑色の5枚の裂片であり、雄花は花弁は広線形、雌花はへら形で小さい。果実は液果で、球形。赤褐色に熟す。国内では本州~九州の中間温帯域の山野に見られ、朝鮮半島・中国に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp.株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から中部の丘陵域に点々とまれな生育がみられる。林縁などに生育している。また、西ノ島に生育するとの情報もある。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タコノアシ科

タコノアシ

Penthorum chinense Prush

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団



選定理由

県内での生育地はかなり限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

水湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は茎の高さ30-80cm。長さ6-11cmで細長い葉を互生する。花は8月に咲き、茎の先端部の花序の枝に黄緑色の小花を多くつける。花序の枝ははじめ外側に渦巻き状に巻いていて、伸びながら花が咲く。和名は花序の枝に花が吸盤のように並んでタコの足に見えることに由来する。秋には植物体全体が赤く色づき、よく目立つ。東アジアに広く分布するものとされ、国内では本州から四国、九州、南西諸島に分布する。

参考文献

井上雅仁(編)(2009) 杵村喜則氏収集植物標本目録 (I), 173pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田.
 井上雅仁(編)(2020) 杵村喜則氏収集植物標本目録 (III), 205pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田.
 三浦憲人(2014) 島根県産植物の染色体観察記録 (1), ホシザキグリーン財団研究報告, (17): 147-151.

県内での生育地域・生育環境

県内では出雲部、石見部に生育地が点在するが、多くはない。多くは河川の流水際の砂泥堆積地に生えている。(出雲市西園町神戸川妙見橋付近、出雲市美談町斐伊川、出雲市出島町斐伊川河口)

存続を脅かす原因

河川改修工事で生育地が消滅した場もある。生育地での遷移による環境変化。

特記事項

タコノアシは攪乱直後の裸地的環境に発生するが、遷移の進行にともなって個体数が減少して、3~4年で消失する。攪乱依存種であると考えられ、県外では休耕田や放棄水田、造成地への植栽など保全のためのさまざまな試みが行われている。

(執筆:三浦 憲人・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アリノトウグサ科

オグラノフサモ

Myriophyllum oguraense Miki

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 國井秀伸



選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

概要

本州、四国、九州の湖沼や溜池などに生育する多年生の沈水植物。水中茎がつる状に伸び、よく分枝する。沈水(水中)葉はあざやかな緑色で無柄、全長2-4cmの葉身は羽状に全裂し4-5輪生。花季には花序となる高さ10cmほどの気中葉を水面上に直立する。雌雄同株で上部に雄性花序、下部に雌性花序がつく。気中葉は線形羽状で緑白色、全長数mmと沈水葉に比べて小さく、花も葉に隠れて目立たない。夏から秋にかけて越冬用の殖芽を形成する。全体が、同属のフサモとよく似るが、フサモの気中葉が緑色であること、殖芽がオグラノフサモでは6-8cmの長い棒状であるのに対し、フサモでは1.5-3cmの棍棒状であることなどで識別できる。なお、本種とフサモ(*M. verticillatum* L.)との雑種であるハリマノフサモ(*M. harimaense* Sakiyama & Kadono)についての知見は県内ではまだ無い。

参考文献

角野康郎(2014)日本の水草。326pp. 文一総合出版、東京。

県内での生育地域・生育環境

県東部沿岸域の池沼及び溜池。タヌキモの仲間やヒツジグサなどが生えている池で一緒に見られることが多い。

存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アリノトウグサ科

タチモ

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 辻井要介



選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

概要

全国各地の湖沼、溜池、湿地などに群生する多年生の両生植物。異形葉を持ち、水中と陸上で顕著な形態の可塑性を示す。陸生の場合にはふつう5-20cmほどの高さしかないが、沈水状態の植物の草高は時に50cmにも達する。水中葉(沈水葉)は羽状に細裂し、陸生形の葉(気中葉)は長さ4-10mmの線形またはやや羽状。雌雄異株で花は気中葉の葉腋に付く。冬季、陸生型は越冬芽(殖芽)を形成して植物体は枯れる。

参考文献

角野康郎(2014)日本の水草。326pp. 文一総合出版、東京。

県内での生育地域・生育環境

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などの止水域に生育。沈水と干上がりを繰り返す池の汀線付近でよく見られる。

存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アリノトウグサ科

フサモ

Myriophyllum verticillatum L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

県内の生育地は県東部の限られた溜池に点在するのみで、個体数も減少している。

概要

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する多年生の沈水植物。茎が立つ状に伸び、よく分枝して繁茂する。葉は羽状に細裂し、節に4-5輪生する。沈水葉は柔らかくふさふさしている。水面上や水際の陸生状態では、厚みのある気中葉を展開する。気中葉の葉腋に花が咲き、花序の上部は雄花、下部は雌花をつける雌雄同株である。秋になると茎や側枝の先端に殖芽を形成する。殖芽は1.5-3cmほどの先が太い棍棒状となり、よく似たオグラノフサモよりも太く短い。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.
 杉村喜則 (2006) 島根県の植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告, 3: 1-49.
 柳浦正夫 (2006) 大田市の沿岸部のため池に見られた水生植物について, 島根植物研究会会報, 10: 2-4.

県内での生育地域・生育環境

県東部の松江市、出雲市の限られた溜池で生育が確認されている。過去に県中部の大田市の溜池でも生育が確認されていたが、消滅したと思われる。山間部にあるやや貧栄養な溜池に生育する。オグラノフサモよりも腐植栄養から貧栄養で酸性の水域に多い。

存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニなどによる食害、農業形態の変化による溜池の環境変化と管理不足。

特記事項

県内の既産地にはフサモとオグラノフサモの雑種であるハリマノフサモが含まれる可能性があるが、現状は不明である。

(執筆者: 辻井 要介・國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ブドウ科

アマヅル

Vitis saccharifera Makino var. *saccharifera*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生育地は少なく、群生しないので個体数も少ない。

概要

林縁などに生育するつる性の落葉木本で、葉柄は1.5-4cm、葉身は長さ幅ともに4-7cmで、三角状卵形から扁卵形で鋭頭、基部は心形から切形となる。ふちには内側に曲がるあらい波状の鋸歯があり、表面は深緑色で裏面は緑色となる。また若い枝の葉はしばしば3裂する。花は5-6月、花序は短い円錐花序で4-6cm。果実は小型で黒く熟す。本州(東海地方以西)・四国・九州に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」, 381pp. 株式会社平凡社, 東京.
 杉村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部に生育が見られる。丘陵域の林縁などに点々と生育している。

存続を脅かす原因

遷移による被陰や林縁の整備のために刈り払われるなどの影響が考えられる。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

クロウメドキ科

ケンポナシ

Hovenia dulcis Thunb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):青木充之



選定理由

県下では生息地も個体数も少ないので、保護する必要がある樹木と考えられる。

概要

山野に生える落葉高木で、25cmになるものもある。枝は紫褐色で、無毛。葉は広卵形で長さ10—20cm、幅6—14cm、先は鋭尖頭、3出脈があり、縁はややあらい鋸歯がある。葉の表面は深緑色で裏は無毛で脈は裏に隆起する。葉柄は2—5cmで長い。花序は集散花序で柄があり、枝の上部の葉腋と枝の先に出る。花は6—7月で径7mmと小さく帯緑白色。花弁は5個で倒卵形。核果は球形で、径7mm内外、花序軸は果期に肥厚して肉質になり、甘くなる。国内では北海道(奥尻島)・本州・四国・九州に分布し、朝鮮半島・中国にも分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から中部にかけて生育が確認されており、同地域の丘陵域から山域に点々と見られる。

存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

クロウメドキ科

ケケンポナシ

Hovenia trichocarpa Chun et Tsiang var. *robusta* (Nakai et Y.Kimura) Y.L.Chen et P.K.Chou

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

県下では生息地も個体数も少ないので、保護する必要がある樹木と考えられる。

概要

ケンポナシに似た落葉高木で、枝は赤褐色の毛がある。葉は広卵形でやや厚く、ケンポナシより小さい。鋸歯はいちじるしく低くて、葉裏には赤褐色の毛がある。花序にも赤褐色の毛がある。核果は球形で、径7mm内外、これも密に赤褐色の毛に覆われる。分布は本州の西部に多く、四国、中国東部にも生育している。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の丘陵域から山域の川沿いの斜面で生育しているものを確認している。多くをみていないが、このような立地を好んで生育するのではないかと考えられる。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イラクサ科

ミヤコミズ

Pilea kiotensis Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地はきわめてまれである。生育地での個体数も多くはない。

概要

草丈20—40cm程の多汁で柔らかい一年草で、葉は狭卵形から長楕円形で対生し、長さ3—12cm。花は秋で葉の腋に集散花序がつく。国内では本州(近畿以西の日本海側)・九州北部に分布し、中国中部に同じ形質を持つものが見られるという。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部の山域でまれな生育が知られている。渓谷沿いの陰湿な場所に生育している。

存続を脅かす原因

洪水による生育地の破壊、伐採による環境変化。
 (執筆者:柳浦 正夫・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イラクサ科

ミヤマミズ

Pilea petiolaris (Sieb. et Zucc.) Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地はきわめてまれである。生育地での個体数も多くはない。

概要

草丈40—80cmで、葉は長楕円形で長さ7—15cm、先はとがり、3脈がある。基部はくさび型で、縁に低い鋸歯がある。湿り気の強い土地に生え、植物体全体が濃い緑色である。花は夏から秋に咲き、雌雄同株で、葉腋に雄花序、雌花序を別につける。国内では本州(関東以西)・四国・九州に分布し、琉球からも記録があるという。また、中国東部に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の丘陵域での生育が報告されている。生育地は山中の川の砂礫堆積地や砂防堤上流部での砂泥が堆積した場所とされる。

存続を脅かす原因

洪水による生育地の破壊、植物体の流失が考えられる。河川工事、生育地での遷移による環境変化。

(執筆者:柳浦 正夫・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

クオイチゴ

Rubus mesogaeus Focke var. *mesogaeus*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

産地も個体数も少ない。

概要

林内や林縁に生えるつる状小低木。茎に軟毛が生えている。葉は3出または5出複葉で小葉は2重の欠刻状の鋸歯があり、頂小葉は6-12cmで急鋭尖頭、側小葉はゆがんだ卵形となる。花序は2出集散花序または散形花序で5-15個の花をつける。花は径3-4cmとなり、花弁は淡紅色ないし紅紫色でさじ形。果実は長楕円形で赤くなる。国内では南千島・北海道・本州・四国・九州に分布し、台湾・中国(西部・中部)・ヒマラヤ(ネパールからブータン)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 柴田一樹(2016)クオイチゴ(*Rubus mesogaeus* Focke)を琴引山で確認, 島根植物研究会会報30: 1-2 島根植物研究会
 杵村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫(2025)赤谷林道でのクオイチゴの生育について, 島根植物研究会会報47: 2-3 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

県内分布は、当初東部の中国山地での生育が気づかれたが、近年西部にも生育していることが確認された。

存続を脅かす原因

遷移によって被陰されると生育できなくなるおそれがある。また生育はいずれも林道脇や登山道脇であるため、整備のために刈り取られる恐れもある。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

オニシモツケ

Filipendula camtschatica (Pall.) Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

県下では生息地は少なく、個体数も少ない。また消失した生息地もある。

概要

湿原やその周辺などに生える多年草で、茎は1-2mになる。葉は円形で径15-25cmになり、掌状に3-5裂し、裂片は卵形から披針形で2重鋸歯または欠刻状鋸歯となる。先は鋭尖頭で、葉の基部は浅心形となる。葉柄は5-12cm。花は6-9月で散房花序で多数の花をつける。両性で花弁は4枚または5枚で白色から淡紅色、倒卵状円形で2-3mmの長さになる。国内では南千島・北海道・本州(中国地方以東)・千島列島・サハリン・カムチャツカ半島に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部に生育が見られる。中国山地の沢沿いの光が差し込む湿地状のところなどに点々とまれに生育している。また、歩道整備などにより見られなくなった場所もある。

存続を脅かす原因

遷移、開墾。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

シモツケソウ

Filipendula multijuga Maxim. var. *multijuga*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生育に適する場所が限られており、環境変化などによって以前よりも見られなくなっている。生息環境の維持を含めた種の保存を考えないといけない種である。

概要

山の草原や稜線に生える多年草で茎は直立し、30—100cmになる。頂小葉は円形で径5—15cmで、掌状に5—7裂し、裂片は狭卵形から倒披針形、2重鋸歯または欠刻状になる。先端は鋭頭から鋭尖頭、側小葉は2—10枚。葉の基部にしたがって小さくなる。花序はゆるい散房花序で多数の花をつけ、6—8月に開花し、径4—5mmになる。萼片は4または5枚で反り返り、花弁も4または5枚で淡紅色で楕円形から円形で長さ3mmほど、幅2—2.5mmで縁に不明瞭な鋸歯がある。国内では、本州(関東以西)・四国・九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 枝村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地の高標高の湿地での生育が報告されている。生息状況は不明だが、が現在その付近で確認されていない状況である。

存続を脅かす原因

遷移、園芸上の採取。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

ミツモトソウ

Potentilla cryptotaeniae Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



選定理由

県下では生息地が少ないものと考えられ、個体が確認された場合、保護する必要のある種であると考えられる。

概要

山地の湿った林縁などに生える多年草で茎は50—100cmになり、上部で分枝する。表面には開出毛が生える。根生葉は花時には枯れる。下部の茎葉には長い柄があり、上部の葉はほぼ無柄、菱状長楕円形で長さ2—8cm、幅2—3.5cmになる。花は7—8月。花序は集散状で多数の花をつける。花は径10—14mmで、萼片は狭卵形、副萼片は広披針形、花弁は黄色で広倒卵形で円頭でわずかに萼片より長い。国内では南千島・北海道・本州・九州に分布し、朝鮮半島、中国・極東ロシアに分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 枝村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部からの生育が報告されている。詳細は不明であるが、中国山地の湿った谷部等で生育していたものでないかと考えられる。

存続を脅かす原因

森林伐採、遷移、川の氾濫等。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

イワキンバイ

Potentilla dickinsii Franch. et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

山地の岩上や露岩地に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと5-20cmになる。葉は互生し、通常3出複葉か4-5小葉からなる羽状複葉となる。羽状複葉の場合は、下方の2小葉は小さい。小葉の長さは1.5-4.5cm、幅1.5-3cmで、裏面は粉白色を帯び、伏毛がある。花期は6-8月で、茎の先に数個~十数個の黄色い花をつける。花は直径約1cmで、5枚の花弁からなる。根茎は太い木質となり、ときに分枝する。北海道、本州から九州、朝鮮半島、中国に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・呂田 仁・米倉浩司編(2016)改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダン科。604pp. 平凡社。東京。
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(大田市)、県西部(益田市)で確認されている。生育環境は、山地域の山頂付近や尾根筋の岩場などである。

存続を脅かす原因

遷移の進行による岩場の灌木化、岩場の崩落による生育地の消滅。
 (執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

キビナワシロイチゴ

Rubus yoshinoi Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内に生育地が存在することは明らかであるが、県内全域での生育地や個体数の現況が明らかでない。

概要

山地林内から林縁に生える夏緑の小低木である。茎はやや細く、長く伸びて鉤刺がある。葉は多くは3小葉の複葉であり、小葉は長楕円形で長さ6-7cm、幅2-3cmで、裏は白毛があって白い。花は春に咲き、花弁は淡紅紫色、果実は球形で、直径約1cm、赤く熟れる。国内では本州の東北地方、中部地方の一部や、中国地方、九州の一部に分布する植物とされる。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町、飯南町)の中国山地沿いの山地で生育が知られているが、石見部での分布が明らかでない。いずれの生育地も個体数が激減しているように思われる。

存続を脅かす原因

樹林伐開や林縁の樹林化。
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

バラ科

ユキヤナギ

Spiraea thunbergii Siebold ex Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):野津貴章



選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

川岸の岩場に生える落葉低木で、枝が叢生し、1-2mになる。葉は線状披針形で、長さ2-4cm、幅3-7mm、鋭頭で、基部はくさび形、頂端附近に鋭鋸歯がある。花は3-4月で、前年枝に2-7個の散形状散房花序をつける。花弁は白色で広倒卵形で長さ2-5mm、幅2-4mm、雄蕊は20本程度で花弁より短い。果実は3-3.5mmになる。本州(関東以西)・四国・九州で成育し、中国に分布する。日本のものは栽培品が野生化したものとも言われる。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,358pp. 株式会社平凡社,東京
 レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(2012) 広島県の絶滅のおそれのある野生植物(第3版), 広島県 633pp.
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部の江の川沿岸に点々と生育しているのが確認できる。生育地は人為的な影響の考えられないところであるので、本来の自生ではないかと判断する。隣接県の広島県のRDBには掲載されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

カバノキ科

ハシバミ

Corylus heterophylla Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生息地も個体数も少ない。生息地は人為的な影響や変化しやすい環境であるため生息地の減少が心配される。

概要

湿地周辺や明るい立地の山野に生育する落葉低木で、高さ5mほどになる。葉は互生し、葉身は長さ幅ともに5-12cm、先は急鋭尖頭、基部は浅心形、欠刻状の鋸歯がある。花は3-4月で、雄花序は無柄で下垂し、長さ3-7cm、雌花序は小さく数花が集まって赤い柱頭が外に現れる。果実は鐘形で葉状で深裂し、長さ2.5-3.5cm、堅果はほぼ球形で径約1.5cm。国内では北海道から九州に分布し、朝鮮半島・中国・ウスリー・アムールに分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部にかけて生育が知られている。同地域の山域ではあるが、なだらかな立地で、湿地やため池の周辺、林縁の明るくやや湿った環境等にまれに生育が見られる。

存続を脅かす原因

人為的な影響を受けやすい立地に生育しているので、伐採や遷移によっての被陰などの影響が心配される。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ニシキギ科

ウメバチソウ

Parnassia palustris L. var. *palustris*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草原環境が管理放棄などにより各地で減少している。

概要

山地の日当たりの良い湿地や草原に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと10—50cmになる。短く直立する根茎があり、そこから長い柄のついた根出葉を数個束生する。葉身は卵形または広卵形で、長さ幅ともに1.5—4cmである。花期は8—10月で、1~数本の花茎を直立させ、その先に1個の花をつける。花の直径は2—2.5cmで、花弁は5枚、白色で緑色の平行脈が目立つ。北海道から九州、台湾、東アジア北部、サハリン、千島列島に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2016)改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダン科, 604pp. 平凡社, 東京.
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(奥出雲町、飯南町)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、明るく開けた草原や林縁などである。

存続を脅かす原因

圃芸上の採取、遷移の進行による草原の灌木化、樹林化。

(執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ニシキギ科

クロヅル

Tripterygium regelii Sprague et Takeda var. *regelii*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

県内で知られている産地は1ヵ所のみで環境が変化すれば絶滅が心配される。

概要

落葉性のつる植物で、今年枝は黄褐色、前年枝は濃紫褐色になる。葉身は卵形または卵円形で長さ5—15cm、幅4—10cmになる。先端は急鋭頭、基部は浅心形、両面とも無毛で縁に大きな低鋸歯がある。葉柄は1—4cmとなる。花は6—8月で花序は枝の先端に長さ1—4cmの集散花序がたくさん集まって円錐形となる。花弁は白色で長楕円形、長さ3mm。果実は翼果で長さ幅ともに1.2—1.8cmとなる。国内では本州(東北から関東北部、北陸、紀伊半島、中国山地)・四国・九州に分布し、朝鮮半島・中国・台湾・ミャンマーに見られる。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部で1ヵ所生育が知られている。同地域の中国山地の稜線下の陰湿な谷の上部に生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移としての周囲からの森林化や乾燥化によるササ類の広がりなど環境変化によつての絶滅が心配される。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トウダイグサ科

イワタイゲキ

Euphorbia jokinii Boiss.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種 (北限)

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

海岸の岩場、砂礫地に生える多年草。茎は20—90cmで、葉は互生し、長楕円形で長さ4—5cm、幅7—8mm。茎頂部に多くの葉を輪生し、その先に多くの枝を腋生する。夏に地上部は枯れ、秋に地上部を出し、花は杯状花序で春に咲く。国内では本州(千葉県以西)～琉球に分布し、朝鮮半島南部・台湾に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島での生育報告がある。海岸部に見られ、前回の報告では生育地では波浪などによる自然災害で個体群が消滅した場所もあるとしている。また、近年でも海士町で残っているところがあるとする情報もある。

存続を脅かす原因

波浪などの自然災害。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

コミカンソウ科

カンコノキ

Phyllanthus sieboldianus T.Kuros.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種 (北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): —



選定理由

県内では生育地が限られていて、生育での個体数も限られている。

概要

海岸沿いの地に生える夏緑あるいは半夏緑性の樹種である。樹高は5—6mになり、枝の短枝がしばしば刺となる特徴があって、全体に刺の多い樹木である。葉は狭倒卵形で長さ5cm、幅2cm、多くは先端部がもっとも幅が広く、逆三角形の形で互生する。雌雄異株、ときと同株とされるが、花は夏に咲き、花は小さく白色で葉腋に束生する。果実は扁球形で、種子は赤橙色で目立つ。本州の近畿地方以西、四国、九州、南西諸島に分布域があるとされる。県内に分布するものは分布北限地のものとなる。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 島根県(1977)三瓶海岸自然環境保全地域学術調査報告書(候補地), 19pp. 島根県.
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(浜田市、益田市)の海岸に近い地にまれに見られる。照葉樹二次林内、林縁に見られる。

存続を脅かす原因

樹林伐開、道路拡幅などによる樹木伐倒。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヤナギ科

バッコヤナギ(ヤマネコヤナギ)

Salix caprea L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

高さ10m程になる夏緑の樹種。葉は長楕円形で長さ10cm、幅3cm前後で互生し、葉縁は細かい波状縁で、葉脈は裏側にくぼむ。葉裏は粉白色で白毛が密に生える特徴がある。花は春に咲き、葉に先立って咲き、雄花穂は長さ5cm、幅3cm程で大きく、雌花穂も長さ4cm、幅1.5cm程で、全体として銀白色に輝き美しい。国内では北海道西南部から近畿地方、そして四国に分布するものとされるが、中国山地にもまれに分布している。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（奥出雲町）の一部にのみ見られる。中国山地の斜面に僅かな範囲に群生している。

存続を脅かす原因

樹林の遷移による環境変化と人為による樹林、樹木の伐開、伐倒。
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スミレ科

ツルタチツボスミレ

Viola grypoceras A.Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

分布限界種(南西限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

確認されている生息地も少なく、個体数も多くない。

概要

小型の多年生草本で、茎が匍匐状に伸びて、先端に新株をつけて広がる。葉身は腎形で、先端は鈍頭から円頭になる。特に根生葉は長さが短く、横に広がった形の特徴的な葉となる。花は薄紫色でタチツボスミレより色が薄く、花弁も距もタチツボスミレより細長くなる。本州（秋田～中国山地）に分布し、日本海側のブナ林などの山地に見られる。

参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.338pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の山頂付近の尾根を中心に、やや下部の尾根にも生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。
 (執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スミレ科

アカネスミレ

Viola phalacrocarpa Maxim.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生息地は少なく、個体数も少ない。また生息地が被陰化したために生育できなくなるなど減少している種と考えられる。

概要

無茎のスミレで、葉は平開し、葉身は卵形から長卵形で先端は鈍頭から鋭頭、基部は浅い心形、表面は鮮緑色、裏は紫色を帯びる。長さは1—5cmになる。葉柄は3—10cm。花茎は長さ5—10cmで花は4—5月に咲く。花弁は濃赤紫色で長さ10—13mm。萼片は広披針形で、付属体には数個の鋸歯がある。花柱は虫頭状に膨らみ、柱頭はわずかに突き出る。国内では北海道～九州に分布し、朝鮮半島・中国(北部・東部)・ロシア極東部に広く見られる。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで広く生育が報告されている。同地域の丘陵域から山域にかけての山道などの林縁の明るい場所などに生育が見られる。森林の成長に伴う被陰などにより生育が見られなくなった場所もあり、個体数が激減していると考えられる。

存続を脅かす原因

遷移による被陰化。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スミレ科

ヒナスミレ

Viola tokubuchiana Makino var. *takedana* (Makino) F.Maek.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内では産地とともに個体数も少ない。

概要

山地の林床に生育する多年草で、葉はやや長い3角状卵形の根生葉をつけ、基部は深い心形になり波状の浅い鋸歯がある。花は春に淡紅色で直径約1.5cmの花を咲かせる。唇弁の基部3分の1程度赤紫色の筋が入り、柱頭は肥大しカマキリ形になる。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物3」, 338pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 松村喜則(2006) 島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告(4): 41-43 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部の山地の林床に点々と生育が知られている。

存続を脅かす原因

森林伐採、園芸上の採取。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オトギリソウ科

トモエソウ

Hypericum ascyron L. var. *ascyron*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県内での生育地の多くが消滅し、個体数も激減している。

概要

水湿地に生える草丈50cm前後、時に1m程にもなる夏緑性の多年草。葉は披針形で長さ5—8cm、幅2—3cm程で対生する。花は夏に咲き、直径5cm前後で、花は黄色5弁で、花弁が巴形に曲がるのが特徴的である。北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国に続いて分布する。

参考文献

廣江伸作 (2024) 安来市の植物誌-維管束植物-, 64pp.
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島（隠岐の島町）、県東部（安来市、奥出雲町、飯南町）、県中部（邑南町）、県西部（浜田市）など、全県の山間の水湿地に生育地がかなり存在したものとされるが、現状はきわめてまれな状態となっている。

存続を脅かす原因

山間の水湿地の遷移による環境変化、山間の水田脇や林縁の生育地は水田の区画整理や休耕、廃田などにより生育地その場の破壊や消滅、その場の遷移が個体の激減、消滅につながってきていると思われる。

(執筆者：井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

フウロソウ科

イヨフウロ

Geranium shikokianum Matsum. var. *shikokianum*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

山地の開けた草地に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30—70cmになる。葉は根出および茎上に対生するが、根出葉は花期にはないか少ない。茎葉の葉身は幅4—10cmで、掌状に5中～深裂し、裂片にはふぞろいの荒い鋸歯が数個ある。花期は7—9月で、茎や枝の先に少数の花をつける。花は大きさが直径2.5—3cm、色は紅紫色で、5個の花弁をもつ。本州（東海地方以西）、四国、九州に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編 (2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 パラ科～センダン科. 604pp. 平凡社. 東京.
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（奥出雲町、飯南町）、県中部（大田市）で確認されている。生育環境は、山地の稜線沿いの風衝草原などで、明るく開けた場所でみられる。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、遷移の進行による草原の灌木化、樹林化。

(執筆者：井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

フウロンソウ科

ビッチュウフウロ

Geranium yoshinoi Makino ex Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数は多くはない。

概要

山間の水湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は直径5—10cmの葉を5—6枚根生して、草丈は約50cm、葉は1—2回3出状に裂け、全面に薄く毛があって、10cm前後の長い柄がある。花は夏から秋にかけて咲き、株元から伸びる花茎は多く分枝して、枝の先に直径約2cmの薄紫色の花をつける。本州の中部地方南部、近畿地方北部から中国地方にかけて分布する植物とされる。

参考文献

井上雅仁・大畑純二(2007) 島根県浜田市金城町の湿原植生. 島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6.
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県西部(浜田市)の中国山地山間の水湿地、湿原にまれに生育地がみられる。時に山間の水田脇の水湿地にも生える。

存続を脅かす原因

水湿地、湿原での遷移による樹林化などの環境変化、水田脇の水湿地などは休耕、廃田によって生育地が樹林化し、個体群が消滅した場もある。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ムクロジ科

カジカエデ

Acer diabolicum Blume ex Koch

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 青木充之

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

概要

雌雄異株で山地にはえる夏緑樹で高さ20mにもなる。葉は長さ5—10cmの葉柄があって、葉身は多くは五角形状で基部は心形となり、長さ、幅とも約10cmで対生する。花は春に咲き、分果は長さ3cmほどになる。日本の固有種で本州(宮城県以南)・四国・九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.338pp. 株式会社平凡社.東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と中部の山域に生育し、夏緑樹林や谷沿いの照葉樹林などに稀に生育する。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ムクロジ科

カラコギカエデ

Acer ginnala Maxim. var. *aidzuense* (Franch.) Pax

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

湿地に生える落葉小高木で、2—5mになる。今年枝は無毛でまたはまばらな白色の短軟毛がある。葉は2—6cmの葉柄があり、葉身は楕円形で、長さ5—12cm、幅2—7cm、掌状に3脈が見られ、3浅裂またはほとんどきれこまず、大きな重鋸歯がある。基部は浅心形から広いさび形になる。花は5—6月、複散房状で30—150個の花をつけ、1花序に雄花と両性花がある。萼片は長さ2mmの楕円形で花弁は狭倒卵形で萼片より小さい。果期は8—9月で、果翼は鋭角からほぼ水平まで様様に開く。国内では南千島・北海道~九州に自生し、種としては朝鮮半島・中国東北部・モンゴル・コーカサス地方・トルコ・東南ヨーロッパまで分布する。

参考文献

丸山 巖 (1982) オオイタヤメイゲツ, 島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報開発局, 島根県大百科事典上巻, 山陰中央新報社, 248-249
大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」, 338pp. 株式会社平凡社, 東京
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部から報告されている。同地域の林縁などで湿った場所などにまれに生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ムクロジ科

メグスリノキ

Acer nikoense Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

概要

夏緑性の雌雄異株の樹種で高さ25mになる。葉は3小葉で、葉柄は3—5cmで毛が密に生える。さらに長さ2—10mmの小葉柄の先に長さ10cmほどの小葉身がつく。花は春に咲き、花序は散形だが、雌雄とも花は数個しかつかない。果実はカエデ類の中では大型で分果は径1cm程あり、翼がついて長さ4—5cmとなる。カエデ類の中では特に紅葉が美しい。国内では本州(東北地方南部)・四国・九州に分布し、中国にも分布する。

参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」, 338pp. 株式会社平凡社, 東京
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部に生育する。西部では本来の生息地の中国山地の夏緑林の溪谷林に見られるが、東部ではそのような場所から照葉樹林となる丘陵域の川沿いの斜面にまで点々と生育が知られている。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ムクロジ科

ヒナウチワカエデ

Acer tenuifolium (Koidz.) Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県下では分布域も狭く、個体数も多くない。

概要

山地の渓谷に生育する高さ5~8mになる落葉小高木で、葉は対生し、葉身は直径4~7cmの円形で掌状にやや深く9~11に切れ込み、切れ込みの最も深部に隙間ができることが多い。裂片は欠刻状の重鋸歯があり、先端は鋭く尖る。葉柄はやや長く葉身と同長~3/1程度となる。5~6月に開花する。本州(福島県以南)・四国・九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の山域の渓谷に生育している。よく似たオオイタヤメイゲツは東部から西部にかけての中国山地の稜線や山頂部などに見られ、葉が大きく、葉柄も長い。

存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ジンチョウゲ科

カラスシキミ

Daphne miyabeana Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): —

島根県固有評価

分布限界種(南西限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

概要

常緑性で雌雄異株の高さ0.3~1mの低木である。葉は倒披針形で長さ約10cm、幅2cm前後で、枝先に集まり互生する。花弁は退化しており、枝先に短い総状花序で萼筒が白色の数個の花を6月ごろにつける。果実はほぼ球形で径1cmばかりで赤く熟れる。日本固有種で北海道・本州(中国地方までの日本海側の山地)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島(島後、西ノ島)と東部の中国山地脊梁部に生育が報告されている。隠岐は山地高所の夏緑二次林、アカガシ林、クロベが優占する林分内に生育している。中国山地脊梁部ではブナ林、ミズナラ二次林に生育していたようであるが、近年確認できていない。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者: 柳浦 正夫・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アブラナ科

イワハタザオ

Arabis serrata Franch. et Sav. var. *japonica* (H.Boissieu) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生息地や個体数が少ない。また、遷移によって生息場所が失われやすい環境にある。

概要

多年叢で、茎は高く15—45cmになり、ときに上部で枝を分ける。葉は狭倒卵形で鈍頭、基部はしだいに柄状に細まり葉柄につながる。葉は羽状に浅く裂ける。茎葉は長楕円形で縁に粗い鋸歯があり、基部は矢じり状となって茎を抱く。葉や茎には無柄の2分毛と星状毛と混在する。花は夏に咲き、萼片は楕円形、花弁は白色で倒卵形。長角果となる。本州中北部の深山の岩地に生育するとされる。変種関係にあるシコクハタザオは茎は葉に単純毛が多く混じることで区別され、本州(千葉県・東海地方・近畿地方南部・四国・九州)の山地に分布し、韓国(済州島)や中国南部にも同じ型が分布するとされる。

参考文献

丸山 巖(1982) イワハタザオ。島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局、島根県大百科事典上巻、山陰中央新報社、p.163
大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京
枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
柳浦正夫(2023) 猿政山のヤマハタザオ属の考察、島根植物研究会会報44: 4-8 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

隠岐と西部から中部の山域から丘陵域の岩角地に生育する。

存続を脅かす原因

遷移。

特記事項

県内には茎や葉に2分毛と星状毛はあるが、単純毛のないものもあるので、イワハタザオの形質をもつ。この地域の種の同定は確定されておらず、丸山(1982)でも「山陰地方のものはイワハタザオとシコクハタザオとの中間型を示す。」とコメントしているようにこの扱いは保留として両者を含めたものとしたい。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アブラナ科

シコクハタザオ

Arabis serrata Franch. et Sav. var. *sikokiana* (Nakai) Ohwi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

生息地や個体数が少ない。また、遷移によって生息場所が失われやすい環境にある。

概要

多年叢で、茎は高く15—45cmになり、ときに上部で枝を分ける。葉は狭倒卵形で鈍頭、基部はしだいに柄状に細まり葉柄につながる。葉は羽状に浅く裂ける。茎葉は長楕円形で縁に粗い鋸歯があり、基部は矢じり状となって茎を抱く。葉や茎には無柄の2分毛と星状毛と単純毛が混在し、単純毛が多く混じるとされる。花は夏に咲き、萼片は楕円形、花弁は白色で倒卵形。長角果となる。本州(千葉県・東海地方・近畿地方南部・四国・九州)の山地に分布し、韓国(済州島)や中国南部にも同じ型が分布するとされる。変種関係にあるイワハタザオは茎や葉に無柄の2分毛と星状毛と混在することで区別され、本州中部の深山に生育するとされる。

参考文献

丸山 巖(1982) イワハタザオ。島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報社開発局、島根県大百科事典上巻、山陰中央新報社、p.163
大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京
枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
柳浦正夫(2023) 猿政山のヤマハタザオ属の考察、島根植物研究会会報44: 4-8 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

隠岐と西部から中部の山域から丘陵域の岩角地に生育する。

存続を脅かす原因

遷移。

特記事項

県内には茎や葉に2分毛と星状毛はあるが、単純毛のないものがあるので、イワハタザオの形質をもつ。この地域の種の同定は確定されておらず、丸山(1982)でも「山陰地方のものはイワハタザオとシコクハタザオとの中間型を示す。」とコメントしているようにこの扱いは保留として両者を含めたものとしたい。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アブラナ科

マルバコンロンソウ

Cardamine tanakae Franch. et Sav. ex Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

生息地も個体数も少なく、環境の変化により絶えやすい種である。

概要

山地の木陰に生える越年草または短命は多年草で、茎は5-20cmになり、葉や茎に白い毛が多い。根出葉は少なく、茎葉は中部のものが最大で長さ2-12cm。柄の基部は茎を抱き、小葉は1-7個で頂小葉は大きく円形から円腎形で長さ0.7-3cm基部は心形、側小葉は卵形で小さい。花は4-6月に咲き、花弁は白色で5-7mmの長さで、果実は長角果で広線形で長さ1.6-2.5mm密に毛がある。国内では本州~九州に分布し、韓国(済州島)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
 柳浦正夫(2005) 植物の分布・観察報告(25)マルバコンロンソウ*Cardamine tanakae* Franch et Savat. 島根植物研究会会報9: 8 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

中部と西部から生育が報告されている。山域の湿った林下などにまれに生育している。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アブラナ科

オオユリワサビ

Eutrema okinosimense Taken.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

生息地が少なく、貴重な分布と考えられる。

概要

やや陰湿な谷間などに生える落葉性の多年草で、根茎はあまり発達せず肥厚した鱗茎葉をもつ。同属のユリワサビに似るが、全体に大きく、花茎は15-70cmにも達する。葉は卵心形で、色が淡く、開花後すぐに枯れ、肥厚して鱗茎状に集まった葉柄の基部のみが夏を越して晩秋に葉を出す。花は4-5月に咲き、ユリワサビよりも大きく、萼片は長さ3-4.5mm、花弁は6-9mmとなる。鱗片葉がはずれて栄養繁殖するため大きな群落となる。北海道(南西部)・本州(島根県隠岐諸島および兵庫県以北)・四国(徳島県)・九州(福岡県沖ノ島)に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後・西ノ島)の各地にまれに生育が見られる。谷部や湿った林縁などに群生して生育しているところもある。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オオバヤドリギ科

ホザキノヤドリギ

Hyphear tanakae (Franch. et Savat.) Hosokawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

概要

夏緑広葉樹に寄生する夏緑生性の低木であり、枝を分けて長楕円形、長さ2—3cm、幅1cmばかりの葉を対生し、繁る。

参考文献

大橋広好ら編(2017)「改訂新版 日本の野生植物4」348pp.平凡社.東京

山田 明・杵村喜則(2005)ホザキノヤドリギ *Hyphear tanakae* (Franch. et Savat.) Hosokawaが島根県に分布していた.島根植物研究会会報8:16

県内での生育地域・生育環境

県内では出雲部中国山地沿いの山地林内のコナラの樹幹に寄生したものが大小数株知られたが、その他に知られていないのできわめてまれなものである。

存続を脅かす原因

生育地の樹木伐採、ナラ枯れ(カシノナガキクイムシ)。

(執筆: 山田 明・杵村喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オオバヤドリギ科

マツグミ

Taxillus kaempferi (DC.) Danser var. kaempferi

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

モミ、ツガ、マツなどの針葉樹に寄生する長さ20—50cmの常緑低木。若枝は初め褐色の短毛が密生するが、じきに無毛となる。葉は革質、倒披針形で長さ1.5—4cm、幅4—9mm、全縁、先は円く、下部はしだいに狭くなって長さ1—2mmの葉柄に流れ、両面無毛。7—8月、枝のわきに短い集散花序を伸ばし、数個の花をつける。花は赤色、萼片は長さ約1mm、花は筒形で先は4裂し、長さ約1.5cm、外面無毛、裂片は線形で反曲し、長さ約4mm。果実は楕円状球形で長さ約5mm、赤熟する。本州(関東地方・富山県以西)・四国・九州に分布し、中国東部にもある。

参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(2017)改訂新版 日本の野生植物. 608pp.平凡社.東京.

県内での生育地域・生育環境

県東部の針葉樹に寄生している。

存続を脅かす原因

生育地の樹木伐採、松枯れによる宿主樹木の壊死、台風などの自然災害における宿主樹木の倒伏など。

(執筆: 澤田 達也)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

ハルトラノオ

Bistorta tenuicaulis (Bisset et S.Moore) Nakai var. *tenuicaulis*

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

県内での生育地はまれである。

概要

根茎が地を這い、先端で長さ10cm、幅3—5cmの葉を1—2枚つけて生える夏緑性の多年草。根茎は地に浅く這い、ところどころに膨れた節がある。花は春に咲き、高さ5—10cmの花茎を出し、2—3枚の葉をつけ、葉腋の短い花序に白色の小花を数個から十数個つける。本州、四国、九州に分布域があるとされる。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(浜田市、吉賀町)の中国山地沿いの深山谷間にまれに生育地が見られる。県東部、県中部での生育地は不明である。夏緑樹林内の溪流沿いから斜面下部にかけて生える。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

ナガバノヤノネグサ

Persicaria breviochreatea (Makino) Ohki

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリ

—



選定理由

県内での生育地はきわめてまれである。

概要

草丈20—30cmの1年生草本で、葉は広披針形~長楕円形で長さ3—9cm、基部は矢じり形で三角形の耳状片がある。托葉鞘は短く、長い縁毛がある。花は夏に咲き、2~3個の小花をまばらにつける。国内では本州(関東以西)から九州に生え、朝鮮半島西南部・済州島に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社, 東京
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部で生育との記録がある。前回の報告より照葉樹林域での山中谷間のやや湿り気のある地に生え、時にスギ林内で密に生えることもあるとしている。また、県内の生育地は国内での分布北限と考えられる。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化。

(執筆: 柳浦 正夫・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

アオヒメタデ

Persicaria erectominor (Makino) Nakai var. *erectominor* f. *viridiflora* (Nakai)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):野津貴章



選定理由

県内での生育地が限られており、個体数も少ない。

概要

本州の水湿地などに生える1年草。茎は直立または下部が地表をはい、上部でまばらに枝をわけ、無毛。托葉鞘は膜質の円筒形、上向きに毛がまばらに生え。托葉鞘口部には縁毛が生える。総状花序は円柱形で、密に花をつけ、直立し、長さ1~2cm。花被は5深裂し、白色~淡緑白色。母種とされるヒメタデは花被が淡紅色である。

参考文献

藤井伸二・牧 雅之・國井秀伸(2014) 島根県新産植物3種の記録(シログワイ、ノダイオウ、ヒメタデ)とアオヒメタデに関するノート、日本植物分類学会誌14(2): 169-176
井上雅仁(編)(2014) 松村喜則氏収集植物標本目録(II)、207pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団、大田、大橋広好他(2017)「改訂新版日本の野生植物4」、348pp.平凡社

県内での生育地域・生育環境

松江市内では中海の大橋川河口の湖岸でオオクグ群落の中に見られる。また、同じ中海沿岸になるがヒメタデとして収蔵されている標本もある。

存続を脅かす原因

護岸の改修。

(執筆:野津貴章)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

サクラタデ

Persicaria odorata (Lour.) Soják subsp. *conspicua* (Nakai) Yonek.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

生息地も個体数も少ない。生息環境が変化しやすく、環境も含めて保全する必要がある。

概要

日当たりのよい湿地に生える多年草で細長い地下茎を伸ばし、茎は斜上し、30-100cmとなる。節間は無毛でまばらな黄色い腺点がある。葉はほとんど柄がなく、披針形で先端は鋭形、基部はくさび形からやや円形となり、両面に短毛と黄色の腺点がある。托葉鞘は短い筒形で、短毛と腺点があり、縁に長い剛毛が伸びる。花は8-10月に細長い偽総状花序にややまばらにつけ、垂れるが異型花柱性で両型の花を持つ個体が混生していないと結実しないとされる。萼は5裂し、裂片は広楕円形、先は円形で、淡紅色の腺点があり、長さ2.5-4.7mmとイヌタデ属の中では長く目立つ。雄しべは8本で長花柱花で1-2mm、短花柱花で3.5-4.2mmで長い。瘦果は3稜形のある卵形で、3mm-3.5mm、黒く光沢は鈍い。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物IV」、348pp. 株式会社平凡社、東京
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育が報告されている。丘陵域から山域の湿地にまれに生育しているが、似た形態で同じような湿地に生育するシロバナサクラタデと比較し、はるかに少ない。

存続を脅かす原因

遷移、埋め立て。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

オオネバリタデ

Persicaria viscofera (Makino) H.Gross var. *robusta* (Makino) Hiyama

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草原は、管理放棄により遷移が進行し、各地で減少している。

概要

日当たりのよい山野に生える一年草である。草丈は茎を伸ばすと1m以上と大型になる。茎は直立し、上部で枝を分け、茎には長さ1.6mm以下の伏毛がある。葉は長さ5-15cm、幅0.7-2.5cmの長披針形で、表面には短毛が生える。花期は7-10月で、花序の柄と茎の上部に粘り気のある粘液を出す。北海道から九州、朝鮮半島、ウスリー、中国に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科, 606pp. 平凡社, 東京.
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は明るく開けた草原内である。

存続を脅かす原因

管理放棄による草原の灌木化、樹林化。

(執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

ネバリタデ

Persicaria viscofera (Makino) H.Gross var. *viscofera*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草原は、管理放棄により遷移が進行し、各地で減少している。

概要

日当たりのよい山野に生える一年草である。草丈は茎を伸ばすと30-80cmになる。茎は直立し、下部で枝を分け、茎と葉には長さ1-2.5mmの荒い毛がある。葉は長さ4-10cm、幅1-2cmの披針形で先はとがる。托葉鞘は円筒形で長く、縁毛の長さは托葉鞘の約2/3である。花期は7-10月で、長さ3-7cmの花序をつける。花序の柄と茎の上部に粘り気のある粘液を出す。北海道から九州、朝鮮半島、台湾、中国に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科, 606pp. 平凡社, 東京.
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、飯南町)、県中部(大田市)で確認されており、県中部(邑南町)での標本情報もある。生育環境は、明るく開けた、ススキなどが優占する草原である。

存続を脅かす原因

管理放棄による草原の灌木化、樹林化。

(執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タデ科

ノダイオウ

Rumex longifolius DC.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No Image

選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

谷間の湿地や休耕田などに生える多年草で、茎は分岐しながら0.6—1.7mほどになる。根生葉は長い柄があり、葉身は長楕円状卵形で長さ35—60cm、幅15—26cmになる。先端は鈍頭または円形、基部は円形または心形。下部の茎葉は有柄で、狭い三角状卵形となる。花は6—8月に幅の狭い円錐花序になり、多数つける。翼状内萼片は広心形または円心形で、低鋸歯縁または全縁で、長さ4—6mmとなる。国内では南千島・北海道・本州（島根県以東）に生え、北半球の冷温帯に広く分布する。

参考文献

藤井伸二・牧 雅之・國井秀伸 (2014) 島根県新産植物 (シログワイ、ノダイオウ、ヒメタデ) とアオヒメダデに関するノート, 日本植物分類学会誌14(2)169-176 日本植物分類学会
大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」, 348pp. 株式会社平凡社, 東京
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から報告されている。同地域の河川敷での生育が報告されている。

存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ナデシコ科

ハマナデシコ

Dianthus japonicus Thunb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はややまれであり、生育地での個体数は多くはない。

概要

海岸の岩上や崖地に生える草丈約30cmになる多年草である。葉は地際に根生葉が束生して、数本の枝を分けて茎が立つ。茎葉は倒披針形から長楕円形で長さ5cm、幅2cm前後であるが、根生葉は茎葉より少し大きい。葉は強い光沢がある。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂に集散花序をなして多くの花をつける。花弁は紅紫色で美しく時に栽培され、掘り取る人がある。本州、四国、九州、南西諸島に分布し、中国にも分布するとされる。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(知夫村)、県東部(松江市、出雲市)、県中部(江津市)、県西部(浜田市、益田市)など、ほぼ全域の海岸に生育地が点在するが、ややまれである。海岸の岩場や崖地に生えていて、生育地での個体数は多くはない。

存続を脅かす原因

海岸崖地の自然崩壊や、波浪等による流亡、園芸上での採取。

(執筆者: 井上 雅仁・秋村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ナデシコ科

オオヤマハコベ

Stellaria monosperma Buch.-Ham. ex D.Don var. *japonica* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県内での生息地は局所的であり、管理放棄によってたやすく絶滅する可能性があるため。

概要

山地の明るい林内や林縁にはえる多年草で、高さ40—120cmになる。茎は直立し、上部で分枝し、腺毛がはえる。葉は披針形から卵状披針形で、長さ4—12cm、幅1.5—3cmになる。葉柄は短く0.2—1.3cm、葉の毛は少ない。花は8—10月で径1cmほどになり、集散花序となる。萼片は披針形で長さ3.5—5mm、先は尖る。花弁は萼より短く、2中裂する。花柱は3個、蒴果は卵形で、種子は褐色で円形、径2.5mmになる。国内では本州(岩手県以南)・四国・九州に分布し、台湾・中国(中部・南部)にも見られる。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地の稜線などに生育する。東部から西部の夏緑樹林内に稀な生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サクラソウ科

タイミンタチバナ

Myrsine seguinii H.Lév.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): —



選定理由

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数は限られている。

概要

常緑の高さ10m程になる樹種。葉は狭倒卵形から狭長楕円形で長さ15cm、幅3cm前後で、側脈が不明瞭であって、互生する。花は春に咲き、葉腋に5—10花の白色小花を束生する。果実は直径約5mmの球形、黒く熟れる。本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布するとされ、太平洋側の暖地照葉樹林内にはきわめて普通の植物であるが、日本海側ではまれなものとなる。

参考文献

国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(江津市)から県西部(浜田市、益田市)にかけてまれに存在する。本来、暖地の植物であり海岸に近い地の照葉樹林域の林内または林縁に生える。

存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ツツジ科

オキシャクナゲ

Rhododendron japonheptamerum Kitam. var. *okiense* T. Yamaz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 隠岐ジオパーク推進機構

島根県固有評価

島根県固有種

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。隠岐諸島にのみ分布する

概要

山地の林内に生える常緑低木である。高さは2—5mになる。葉は皮質で、葉は長さ5—16cm、幅1.5—5cmの長楕円形で、先はとがり、葉柄は1—2cmである。島根県の本土側にあるホンシャクナゲに比べると、葉の幅はやや広く、葉は薄く、枝が横に広がる傾向にある。花期は4—5月で、枝先に総状花序を伸ばし、6—10個の花をつける。花は直径が4—4.5cmで、紅紫色である。島根県(隠岐島)に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・呂田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科. 606pp. 平凡社. 東京.
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)でのみ確認されている。生育環境は、山地林内で、尾根筋の岩角地や斜面上部などである。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

(執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ツツジ科

ホンシャクナゲ

Rhododendron japonheptamerum Kitam. var. *hondoense* (Nakai) Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 青木充之

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

概要

ホンシャクナゲは変種関係にある本州の近畿地方南部、四国、九州に分布するツクシヤクナゲに対し、葉裏の枝状毛がほとんどなく、平たい口ゼット状毛が生えるもので、本州の新潟県以西と四国の中北部に生育する。また、オキシャクナゲはホンシャクナゲに分類されたこともあるが、隠岐に産し、ホンシャクナゲに似るが、枝が横に広がり、葉は薄く、長楕円形でやや幅が広く、花序の下の葉が小型であることから変種として区別される。ホンシャクナゲは、高さ2—3mになり、山地の露岩状に生える。葉は1—2cmの葉柄があって長楕円形で長さ15cm、幅4—5cm、多くは枝先に束状に互生する。花は春に咲いて、枝先の総状花序に10花ばかりをつける。花冠は漏斗形で径4—5cm、紅紫色で先端部は7片に裂ける。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社. 東京
 大井次三郎・北川政夫(改訂)(1992)「新日本植物誌顕花編」1716pp. 至文堂 東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部の山域に点々と見られ、渓谷や斜面林下の露岩や岩壁等に生育している。今回はホンシャクナゲとして一つにまとめたが、オキシャクナゲを変種として区別した。

存続を脅かす原因

森林伐開による生育地の破壊、園芸上での採掘。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ツツジ科

アラゲナツハゼ

Vaccinium ciliatum Thunb.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

県内での生育地は限られている。一部では遷移により絶滅が危惧される。

概要

夏緑の低木で、葉は広楕円形で長さ7—8cm、幅3—5cmで互生し、表面は脈が裏側に落ち込み、裏面にはあらい毛が生える。花は初夏、枝先の総状花序に筒状の白色を多くつける。果実は直径5—7mmの球形で藍色に熟し、萼筒の口が小さいことが特徴的である。本州は福井県以西の日本海側、北九州の山地に分布域がある。

参考文献

井上雅仁・大畑純二 (2007) 島根県浜田市金城町の湿原植生. 島根県立三瓶自然館研究報告 5: 1-6.
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁 (2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、奥出雲町)、県中部(邑南町)、県西部(浜田市、益田市、吉賀町)に生育地が知られているが、隠岐諸島では見られないようである。生育地は林縁部や草原、湿地であって、県内ではほとんど見られない。

存続を脅かす原因

植生遷移。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アカネ科

ミヤマムグラ

Galium paradoxum Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönb.-Tem.

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 津島辰雄

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

生育地も個体数も非常に少ない。

概要

山地の林下に生える小型の多年草で、茎は直立して1—25cmになる。葉は多くは4輪生し、4—12mmの柄があり、葉身は卵形または広卵形で鈍頭で、長さ1—3cm、幅5—20mmとなる。花は茎の先に数個、7—8月に咲き、萼は釣鐘形、花冠は白色で4裂し、径2—2.5mmとなる。果実は長い鉤状の毛がつく。国内では北海道~九州まで分布し、種としては、朝鮮半島・台湾・中国・ヒマラヤ・シベリア東部に見られる。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」, 348pp. 株式会社平凡社, 東京
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部での生育が報告されている。山地の林床でまれに生育している。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アカネ科

オオハシカグサ

Neanotis hirsuta (L.f.) W.H.Lewis var. *glabra* (Honda) H.Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

生息地も個体数もまれであり、環境が変化しやすい場所である。

概要

茎は分枝して地をはう1年草で、葉は対生し、長卵形で鋭頭、基部は漸鋭尖形。托葉が半円形で3-5のくし状の裂片を生じる。花は8-9月に葉腋に1~数个つけ、白い花冠である。ハシカグサと変種関係にあり、全体大型で、葉は長く長卵形となり、全体にほとんど毛がなく、光沢があり、萼の筒部が無毛であることを特徴とする。ハシカグサは本州~南西諸島、ユーラシア大陸の南東部に広く分布するが、オオハシカグサは本州の中部から北部の日本海側に分布するものとされる。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」, 348pp. 株式会社平凡社, 東京
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館
 枚村喜則 (2009) 島根県植物分布資料(43)オオハシカグサ *Neanotis lindleyana* Hook. var. *glabra* (Honda) H.Hara (アカネ科)

県内での生育地域・生育環境

中部からの生育が報告されている。生息地は河原の砂礫地に生育していたとされている。県内のほとんどはハシカグサに該当する。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者：柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アカネ科

ヤマトグサ

Theligonum japonicum Okubo et Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

生息地は限られており、個体数も少ない。

概要

山中の林下に生える多年草で、地下茎は短く、茎は下部で分枝し、0-30cmになり、短毛が一列に生える。葉は下部では対生し、上部では互生する。葉柄は5-10mmで、葉身が卵形から狭卵形で長さ1-3cm、幅5-20mm、先端は鈍頭、短毛が散生する。托葉は膜質で3角形から卵形になる。花は4-5月で、淡緑色の風媒花で、茎の上部にある葉状苞に対生する。雄花は節ごとに1-2個つき、ほとんど柄がなく、つぼみは短い筒状で、開くと3個で、長さ8-10mmで10本の細い脈がある狭長楕円形の外花被片が反り返る。また、雄蕊は20-25個あって垂れ下がる。雌花は、緑色で非常に小さく、柄がなく、基部に1個の小苞がある。外花被片は筒状で子房を包み、先は3裂して、湾曲した花柱が突き出る。果実は狭倒卵形の瘦果で、長さ3-3.5mmになる。花後、下部の側枝が伸びて地をはい。新芽をつける。本州(茨城県。秋田県以南)から九州に分布する。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」, 348pp. 株式会社平凡社, 東京
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部に生息している。山域の沢沿いの林下に生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者：柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アカネ科

カギカズラ

Uncaria rhynchophylla (Miq.) Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

常緑の蔓性木本で、葉の腋に対生してつく強く湾曲する太い刺で周囲の樹木に絡みつき、高く、長く伸びる。葉は長さ10cm、幅5cm前後で楕円形、裏は白色を帯びる。花は初夏の頃に咲き、花序は葉腋に長さ約3cmの柄があって球形に多くの小花をつける。果実は蒴果である。本州の関東地方以南、四国、九州に分布するものとされる。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市、江津市)、県西部(浜田市、津和野町)の照葉樹林域の山中、時に林縁にまれに存在する。主として溪谷状地の谷間に生えて、あたりにはびこり、目立つことがある。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

リンドウ科

リンドウ

Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内に広く分布しているが、生育地での個体数は多くはない。また、生育地での植生遷移により個体数が少なくなっている。

概要

山野に生える多年草。植物体は茎の高さ20—100cm。葉は長さ3—8cmの卵状披針形で3脈が著しくめだち、柄はない。花は9—11月に咲き、茎頂および上部の葉腋にかたまってく。花冠は筒状鐘形で青紫色。本州〜九州、奄美諸島に分布する。朝鮮半島、中国、シベリアに分布する基本種トウリンドウは形態変異が多く、栽培されて、切り花や漢方の竜胆として知られている。

県内での生育地域・生育環境

県内全域で広く分布するが多くはない。二次草原、山地稜線草地、若齢二次林内や林縁ため池堤防、山地の水田畦畔などに生育する

参考文献

井上雅仁 (編) (2009) 松村喜則氏収集植物標本目録 (I), 173pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田.
 井上雅仁 (編) (2014) 松村喜則氏収集植物標本目録 (II), 207pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田.
 井上雅仁 (編) (2020) 松村喜則氏収集植物標本目録 (III), 205pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田.
 三浦憲人 (2020) 島根県産植物の染色体観察記録 (5), ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 47-50.
 松村喜則 (1998) 木次町尺の内(昆虫の森)の植生と植物相, ホシザキグリーン財団研究報告, (2): 109-120.

(浜田市三隅町湊浦三保三隅駅〜田ノ浦、浜田市三隅町岡見青浦、出雲市宇那手町高瀬山登山口付近、邑南町中野八幡、浜田市旭田市木天狗石山、大田市五十猛町大浦、大田市水上町白坏、浜田市瑞穂町大林、出雲市佐田町高津屋、浜田市金城町上来原、奥出雲町仁多町、雲南市吉田村民谷、雲南市木次町山方、松江市八雲町、松江市東忌部町、松江市佐草町、松江市玉湯町)

存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化。

特記事項

俗に「リンドウ」の名はリンドウ属の総称として使われることが多く、国内の13種あるリンドウ属の中には、春に咲くフデリンドウや亜高山帯に咲くオヤマリンドウなどがある。

(執筆者: 三浦 憲人)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

マチン科

ホウライカズラ

Gardneria nutans Sieb. et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数はきわめて僅かである。

概要

常緑の蔓性の木本植物である。林内、林縁に生えて、周囲の樹種に絡みつき、長く伸び上がり林冠にまで達する。葉はほぼ楕円形で両端はとがり、長さ10cm、幅5cm前後で、対生する。若い枝は緑色である。花は初夏に咲き、葉腋に1~2個の白色花をつける。花冠は5裂して、開花時にはその裂片が強く外側に反り返るのが特徴である。果実は径1cm程の球形で赤橙色に熟れる。本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球(沖縄県北部)・台湾に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島前各島)を含めて東部から西部の沿岸域に広く生育が報告されている。沿岸寄りの照葉樹林域内に見られ、隠岐での分布は北限となる。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

マチン科

アイナエ

Mitrasacme pygmaea R.Br.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草地は、管理放棄にともなう遷移の進行により各地で減少している。

概要

日当たりの良い草地や裸地、湿地などに生える一年草である。草丈は茎を伸ばすと2-10cm、花茎を除くと0.5-1cmと、小型の植物である。葉は長さ7-15mm、幅3-6mmの卵形で、2-4対を対生する。花期は8-9月で、花茎の先に3-15個の花を散形状につける。花冠は直径約2.5mmと小さく、色は白色、鐘形で4裂する。本州から琉球、朝鮮半島、中国、マレーシア、ミクロネシア、オーストラリア、インドに分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科, 606pp. 平凡社, 東京.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(雲南市)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、定期的に草刈りが行われている低茎の草地や草の少ない裸地状の場所である。

存続を脅かす原因

管理放棄による草原の灌木化、樹林化。

(執筆者:井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キョウチクトウ科

サカキカズラ

Anodendron affine (Hook. et Arn.) Druce

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):—

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

概要

常緑の蔓性の木本で、周囲の樹木等に絡みついて高く伸び上がる。葉は長楕円形で長さ約10cm、幅2-3cmで対生する。花は春に咲き、枝先の円錐状花序に淡黄色の花を数多くつける。花冠は筒状で先で細長い5裂片に裂け、径1cmばかりである。果実特徴的で円柱状披針形の袋果で、長さ10cm、幅約2cmで多くは2個が左右に開いてつく。

国内では本州(千葉県以西)・四国・九州・南西諸島に分布し、台湾・中国・インドに分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで海岸沿いの地域にまれに生育が見られる。おもに照葉樹林内から林縁に生えるが、時に路傍に生えるのもある。

存続を脅かす原因

樹林伐開、造成工事等による生育地の破壊。

(執筆者:柳浦 正夫・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ムラサキ科

サワルリソウ

Ancistrocarya japonica Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地はかなり限られていて、生育地での個体数はきわめてまれである。県内全域での生育地、個体数とも正確には確認できない。

概要

山中林内に生える夏緑の多年草。草丈は30-50cmで、長さ10cm、幅5cmの長楕円形の葉を互生する。花は春に咲いて、茎頂の総状花序に白~淡青色の筒状花をつける。花冠は先で5裂する。国内では本州の関東以西の太平洋側から四国、九州に分布し、日本固有の植物とされる。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(浜田市、吉賀町)に生育地があって、谷筋のやや陰湿な地から斜面上部の夏緑二次林内に生えている。生育地ではいづれも、個体数はきわめて少なく、まれに生えている感じである。県内全域でのこの植物の分布状況が確認できない。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者:井上 雅仁・枚村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

モクセイ科

サイゴクイボタ

Ligustrum ibota Siebold

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

生育地も個体数もととも少ない。

概要

山地に生える落葉低木で、高さ2—5mになる。小枝には灰褐色の短毛がある。葉は薄く、卵状披針形から卵状楕円形で鋭尖頭で、長さ1—5cm。幅6—25mm、葉柄は1—2mmとなる。花は5—6月で、枝先に数個咲かせ、花冠は7mmほどで、筒部は裂片の3—4倍になる。果実はほぼ休憩で黒紫色に熟す。国内では本州（兵庫県以西）・九州（中北部）に分布する。

●参考文献

大橋広好他（2017）「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

中部から報告されている。詳細は不明だが、山城の渓谷で確認されている。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

（執筆者：柳浦 正夫）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

モクセイ科

ハシドイ

Syringa reticulata (Blume) H.Hara var. *reticulata*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者)：島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も限られている。

概要

夏緑性の低木で高さは5m程の樹種。葉は1—2cmの葉柄があって、広卵形、長さ10cm、幅5cm前後で対生する。花は初夏の頃に咲き、枝先の円錐花序に白色の小花を多数つける。花冠は直径5mm前後で先が4裂する。果実は蒴果で長楕円形で長さ約2cm、熟れて2裂する。県内に見られるのは、葉に毛がないマンシュウハシドイ var. *mandshurica* (Maxim.) Haraとして扱われる型のものである。北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島に続いて分布するとされる。

●参考文献

国立科学博物館（2018）サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。（2025年10月30日閲覧）
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3：1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島（隠岐の島町、西ノ島町）にのみ知られている。山地の夏緑樹林内、特に谷筋のサワグルミ林分にまれに生えている。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の直接的な破壊。

（執筆者：井上 雅仁・杵村 喜則）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オオバコ科

イヌノフグリ

Veronica polita Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団



選定理由

県内での生息地は限られている。

概要

道端の石垣の隙間、街路樹の下、畑のあぜ道、草地などに生える越年草。茎は分枝して地に這い、草丈は10—25cm。葉は卵円形で長さ、幅とも1cm前後、下部で対生、上部で互生する。花は春早くに咲く。茎の先端部の葉腋に径2—4mmの淡紅色の小花を1個ずつつける。国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。島根県産の個体にて染色体数 $2n=14$ が報告されていて、近似種であるオオイヌノフグリは $2n=28$ である。

参考文献

井上雅仁(編)(2020) 松村喜則氏収集植物標本目録(III)。205pp。島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団。大田。三浦憲人(2023) 島根県産植物の染色体観察記録(8)。ホシザキグリーン財団研究報告。(26): 93-96。

県内での生育地域・生育環境

隠岐(島前)を含めた全域の海岸沿いの土地から点々と報告されている。生育地は限られているが、おもに道端に生えていて、時には岩場にも生える。生育地はいずれも狭い範囲であり、生育地によっては、時に消滅して、異なる場所に新たな生育地が生じていることもある。(益田市木部町大浜、松江市島根町野井、隠岐郡知夫村、出雲市大社町杵築南)

存続を脅かす原因

草地の遷移による環境変化が考えられる。

特記事項

イヌノフグリはオオイヌノフグリの花粉が付着することによって繁殖能力が低下する現象(繁殖干渉)があると考えられている。また、オオイヌノフグリが侵入した場所では、石垣環境などに特異的に生育する可能性が示唆されている。

(執筆: 三浦 憲人・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

オオバコ科

ナンゴククガイソウ

Veronicastrum japonicum var. *australe* (T. Yamaz.) T. Yamaz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

山地の日当たりのよい草原に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと0.8—2mになる。葉は長さ5—20cm、幅2—5cmで、4—10枚が輪生する。葉柄は短く、ほとんどない。花期は7—8月で、茎の先に長い総状花序をつける。花冠は長さ5—6mmの紫色である。花序軸は無毛である。本州の山地に広く分布するクガイソウは、花序軸に短い毛が散生する。本州(やまね)、四国、九州に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科。760pp。平凡社。東京。松村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(奥出雲町)で確認されている。生育環境は、山地林内や林縁、山頂付近の明るく開けた場所などである。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、遷移の進行による草原のヤブ化、灌木化、夏緑広葉樹林内の常緑広葉樹の繁茂による被陰。

(執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ゴマノハグサ科

ゴマノハグサ

Scrophularia buergeriana Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



選定理由

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

概要

草原状地にはえる多年草で、茎は四角で高さ1m前後になる。葉は1-2cmの葉柄があって葉身は卵形、長さ7-8cm、幅3-4cmで対生する。花は夏に咲き、茎の上部に枝を分けて、総状花序に多くの花をつける。花冠は壺形で、先は唇形で、上唇は2裂、下唇は3裂して長さ6-7mm、黄緑色である。国内では本州の関東地方から中部地方、中国地方そして九州に分布し、朝鮮半島、中国東北部に続く分布域がある。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)の山地草原、県西部(浜田市)に生育地が知られている。県中部(大田市)では人為的に管理された環境に群生している。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ゴマノハグサ科

サンインクワガタ

Veronica muratae Yamazaki

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 野津貴章

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育はかなり限られていて、生育地での個体数も多くはない植物である。

概要

山地に生えるやや小型の夏緑多年草である。植物体は茎が基部で分枝して、長さ10cmばかりに這い、草丈は5cmばかりにしかならない。葉は卵形で長さ2-3cm、幅1cmばかりで対生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に短い花序に数個の花をつける。花冠は皿形で4裂し薄桃色、果実は蒴果で特徴的な扇形である。国内の京都府あたりから山口県までの山陰地方に分布し、島根県西部がタイプ産地とされる。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版日本の野生植物5」、474pp.平凡社

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育地が点在し、山地谷間、斜面、山地路傍、時にやや湿り気のある岩上にも生える。松江市八雲町熊野の市場地区の林内で2015年に確認しているが、その後の様子はわからない。谷間の小さな流れのそばに群落があった。

存続を脅かす原因

樹林伐開、生育地乾燥化。

(執筆者: 野津 貴章・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シソ科

ジャコウソウ

Chelonopsis moschata Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

産地も個体数も少ない。

概要

山の谷間などに生える多年草で、茎直立したのち斜上し、50—100cmになる。葉はやや薄く、広披針形から狭倒卵状楕円形になり、長さ8—15cm、幅2.5—5cm、鋭尖頭で、基部は耳状心形になり、5—10mmの葉柄がある。花は9—10月、長い花柄の先に数個つける。花冠は淡赤紫色で、長さ3.5—4cmになる。分果は長さ1cmになる。本州(神奈川県以西)・四国・九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部に確認されている。丘陵域から山域の谷間の湿った斜面などにまれに見られる。また、西ノ島に生育していたとの情報もある。

存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シソ科

サンインヒキオコシ

Isodon shikokianus (Makino) H.Hara var. *occidentalis* Murata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

各地に生育が見られるが、まれであり、島根県が基準産地となっている。

概要

深山の木陰に生える多年草で茎は4稜があり、高さ80cmほどになる。葉は対生し、長楕円形で長さ5—15cm、幅2—6cmで先端は鋭尖頭、基部はくさび形となる。花は8—10月に咲き、萼は唇形で上唇は三裂、裂片は鋭い狭三角状披針形になる。下唇は2浅裂し上唇よりやや長い。花冠は青紫で12—17mmになる。変種関係で四国に生息するミヤマヒキオコシは、葉の鋸歯が多くて細かに見られ、花冠は5—7mmで短いことが異なる。本州で富山県から山口県までの日本海側の山地に分布している。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで点在して生育が報告されている。山域の落葉広葉樹林内のやや湿った林床などに生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

特記事項

東部の猿政山からの標本がタイプとされ、四国のミヤマヒキオコシの変種として発表されている。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シソ科

オカタツナミソウ

Scutellaria brachyspica Nakai et H.Hara

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

県内では産地が少なく、個体数もわずかである。

概要

低山地の林縁に生育する多年草で、茎は直立し、下向きの毛が密にあり、高さ15—50cmになる。葉は1—2cmの柄があり、広卵形～三角状卵形で長さ2—5cm、幅1.5—4cmになる。先は鈍頭で、基部は切形～やや心形で、先端を除き鈍鋸歯がある。花は5—6月に茎の先端に短い穂を作り、花冠は淡紫色で長さほぼ2cmになる。本州(宮城県以南)・四国に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」,474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から中部の丘陵域での生育が報告されている。近年産地が少なくなっている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シソ科

コナミキ

Scutellaria guilielmi A. Gray

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No Image

選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

概要

海岸の草地や岩上などに生える多年草。草丈は20cm前後で地中に走枝をもつ。葉は卵形で長さ、幅とも1—2cmのもので対生する。花は春に咲き、葉腋に白色筒状の小花を単生する。国内では本州(太平洋側で千葉県以西、日本海側で石川県以西)～琉球にみられ、中国南部にも分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」,474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の海岸部での生育が報告されている。

存続を脅かす原因

諸工事による生育地の破壊、釣り人など、人の踏み込みによる影響。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シソ科

ツクシタツナミソウ

Scutellaria kiusiana H.Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では産地が少なく、個体数もわずかである。

概要

低山地の林縁に生育する多年草で、茎は直立し、上向きに曲がった毛があり、高さ10—30cmになる。葉は中部より下部のものが大きく、葉柄は1—3cm、長卵形～三角状長卵形で長さ2—5cm、幅1—2.5cmになる。先は鈍頭で、基部は切形、鋸歯がある。花は5—6月に茎の先端に短い穂を作り、花冠は紫色で長さほぼ2cmになる。本州(中国地方西部)・四国(北部)。九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の丘陵域での生育が報告されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

シソ科

シソバタツナミ

Scutellaria laeteviolacea Koidz. var. *laeteviolacea*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 青木充之

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では産地が少なく、個体数もわずかである。

概要

低山地の林縁などに生育する多年草で、茎は直立し、開出毛と下向きに曲がった毛があり、高さ10—40cmになる。葉は3—5対あり、下から2対目の葉が大きく、葉身は卵形～三角状卵形で長さ1.5—6cm、幅1.3—4cmになる。先は鈍頭で、基部は浅心形、円状の鋸歯がある。花は5—6月に茎の先端に2—8cmの穂を作り、花冠は紫色で長さほぼ2cmになる。本州(宮城県以南の太平洋側)・四国(北部)。九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部の丘陵域での生育が報告されている。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ハマウツボ科

ホンバママコナ

Melampyrum setaceum (Maxim. ex Palib.) Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(東限)

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

植物体は草丈は最大で50cmで、披針形から広線形で、長さ5-6cm、幅1cm前後の葉を対生する。全体がやや紫色を帯びる。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂、枝先に紅紫色の筒状花冠を有する花をつける。花冠は先で2唇形となり、下唇は3裂して、内面に2つの隆起部があって白色の斑となっている。国内では中国地方西部から四国北部、九州北部に分布して、朝鮮半島、中国東北部にかけての分布域のある植物。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(浜田市、益田市)の海岸寄りの地に生育地がある。アカマツ林などの明るい林内から林縁に生育している。

存続を脅かす原因

生育地の遷移による環境変化により、生育地によっては個体数が消滅した所もある。開発による生育地の破壊、消滅。

(執筆者: 井上 雅仁・秋村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ハマウツボ科

ハマウツボ

Orobanche coeruleascens Stephan ex Willd.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また、生育環境である海浜の幅が各地で狭くなっている。

概要

海岸などの砂地に生える一年草である。カワラヨモギを中心としてヨモギ属の根に寄生する。草丈は茎を伸ばすと10-25cmになる。茎にはまばらに白色の毛が生え、鱗片葉をつける。鱗片葉は長さ7-15mmの狭卵形で、色は黄褐色である。花期は5-7月で、茎の上部に淡紫色の花を密につける。北海道から琉球、南千島、朝鮮半島、台湾、中国、シベリア、ヨーロッパ東部に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科. 760pp. 平凡社. 東京.
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(西ノ島町、知夫村)、県中部(大田市)、県西部(益田市)で確認されている。生育環境は、海岸沿いの砂浜や露岩地などである。

存続を脅かす原因

海岸開発、海浜の縮小。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ハマウツボ科

シオガマギク

Pedicularis resupinata L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

山地の草原に生える多年草で、茎は斜上して、30—100cmになる。葉は下部では対生、中部以上は互生し、長さ3—7cm、幅1—2.5cm、先はとがり、基部は丸みのある切形になる。縁は重鋸歯になる。花は8—9月、花冠は赤紫色となり、長さ2cmになる。上唇は鎌形にまがり、下唇は斜めに広く広がって先が浅く3裂する。様々な亜種を含めた分布として、北海道(南部)・本州・四国・九州に分布し、韓国にもみられる。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から西部にかけ広く分布する。山域の路傍や草原状のところで見られる。

存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ハマウツボ科

ヒキヨモギ

Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県下では生息地も個体数も少ない。また、生息地は環境が変化しやすいところであるので、減少が心配される。

概要

低山の日当たりのよい草地に生える一年草で、茎は直立し、上部が分枝して高さ30—70cmになる。茎には全体に曲がった短毛が密に生える。葉は卵形で長さ1.5—5cm、幅1—3cmで、三片ほどの広線形の裂片に裂け、下方の裂片はさらに少数の裂片に裂ける。両面、特に下面の脈状に曲がった短毛がはえる。花は葉腋ごとに1花をつけ、萼は細い筒形で長さ11—17mm、裂片は卵状長楕円形でとがり、長さ4—5mm、花冠は鮮黄色で長さ2.8cm。上唇の先は細くなり先端は2裂する。葯質は両端がややとがる。蒴果は狭長楕円形で長さ14—17mm、幅3mm。国内では南千島・北海道から南西諸島まで分布し、朝鮮半島・中国(東北)・台湾に見られる。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

隠岐と中部からの生育が報告されている。丘陵域の明るい岩場の岩棚などにまれな生育がみられる。

存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タヌキモ科

タヌキモ

Utricularia × japonica Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介



選定理由

生育場所が限られているうえ、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

概要

全国各地の湖沼や溜池、湿原などに生育する多年生の浮漂植物。葉は互生し密に付き、基部で2分枝し、さらに2-4回羽状に分裂、各裂片は細い糸状で同一平面上にあり、輪郭の長さ2-6cm。節から高さ10-30cmの花茎を水面上に直立させ、頂部に2-15個の黄色の唇形花を次々に咲かせる。国内では不稔集団がほとんどで、秋に植物体の先端に形成される殖芽(越冬芽)によって無性的に繁殖している。イヌタヌキモとよく似るが、タヌキモの花茎の断面の中央部には小さな穴があるのに対しイヌタヌキモは中実であること、タヌキモの殖芽が濃緑色で5-20mmほどの大きさであるのに対しイヌタヌキモの殖芽が暗褐色で3-10mmほどの大きさであることなどで識別される。

参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp。文一総合出版、東京。
 Kameyama, Y., Toyama, M. and Ohara, M. (2005) Hybrid origins and F1 dominance in the free-floating sterile bladderwort, *Utricularia australis f. australis* (Lentibulariaceae). *Amer. J. Bot.*, 92: 469-476.
 國井秀伸・津田直人 (1993) 宍道湖周辺のため池におけるタヌキモ類の分布。汽水湖研究 3: 74-77。

県内での生育地域・生育環境

東部の平野部及び丘陵部の池沼や溜池。

存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

特記事項

タヌキモは、イヌタヌキモを母種、オオタヌキモを父種とする雑種であることが遺伝子解析によって明らかになっている。

(執筆: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タヌキモ科

ミミカキグサ

Utricularia bifida L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体群が消滅しつつある。

概要

湿地に生える小型の多年草。植物体は泥土中を這う細い糸状の茎に、長さ約1cmの地上葉を多数つけるだけのものである。夏から秋にかけて花をつける。高さ約10cmの花軸が地上に伸び、黄色で長さ約3mmの小花が数個ついて咲く。花後の全体の姿が耳掻きに似る。

国内では本州から四国、九州にかけて分布し、中国、マレーシア、オーストラリアなどに分布域があるとされる。

参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24。
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。
 渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁 (2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は限られていて、県東部(飯南町)、県中部(邑南町)、県西部(益田市)に点在する。山間の湿地や、池畔に生える。しばしばムラサキミミカキグサとともに生える。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による灌木化、樹林化、湿地の乾燥化、埋め立てなどによる生育地の消滅。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タヌキモ科

ヒメタヌキモ

Utricularia minor L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

No Image

選定理由

生息地も個体数も少なく、見つければ、環境を保全して保護すべき植物である。

概要

湖沼や湿地上に生える浮遊性～湿性の多年草。茎は分枝しながら水中や湿地上を横に伸長し、湿地上で生活する場合は白色の茎と葉を地下に伸ばして固着する。葉は互生し、2又に数回分枝して細い線状の裂片となる。長さ8—13mm、捕虫囊はまばらにつき、扁卵球形で、長径1—2.5mm、口は側方にある。越冬芽は秋に茎の先端に茎葉がぜんまい状に巻いてつき、球形となる。花茎は高さ5—25cmで上方に花を2—10個つける。花冠は淡黄色で、直径8—10mm、距は円錐形で下を向く。苞は広卵形。蒴果は球形で、萼よりも小さい。花期は8—9月だが開花は稀とされる。国内では北海道～九州に分布し、北半球の温帯から亜寒帯に広く見られる植物とされる。

参考文献

廣江伸作 (2019) 貴重種の紹介並びに新産地報告 ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L. 島根植物研究会会報36:3 島根植物研究会
大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社, 東京
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館
柳浦正夫 (2007) 植物の分布・観察報告(32)ヒメタヌキモ・ノタヌキモ、島根植物研究会会報12:6 島根植物研究会

県内での生育地域・生育環境

東部に生育が見られる。低地のため池で、池内ではあるが、少量の水が流れ込んで溝となっている場所に生息し、池自体には見られなかった。このときには、土の中に白色の茎や葉を伸ばしていた。その後すぐにため池横に道路ができたため、ため池側面が整備され、水位も上昇し、流れ込むところは水没してしまった。しかし、今度は池自体に少なくともはなつたが浮遊した形で生育し続けていた。またその後の報告にあるようにこの状況で生育し続けているようである。

存続を脅かす原因

ため池の改修。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タヌキモ科

ムラサキミミカキグサ

Utricularia uliginosa Vahl

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体群が消滅しつつある。

概要

湿地に生える小型の多年草。植物体は泥土中を這う糸状の茎に長さ約5—6mmの地上葉を多数つけるだけのものである。夏から秋にかけて花をつける。泥土中の茎から高さ15cm前後の花軸が地上に伸び、花軸の先に紫色で長さ3mm程の小花が数個ついて咲く。

北海道から本州、四国、九州は屋久島までの範囲にかけて分布する植物とされる。

参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.
国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁 (2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は限られていて、県東部(飯南町)、県中部(邑南町)、県西部(浜田市、益田市)に点在する。山間の湿地や池畔に生える。しばしば、ミミカキグサとともに生える。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による灌木化、樹林化、湿地の乾燥化、埋め立てなどによる生育地の消滅。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キツネノマゴ科

スズムシバナ

Strobilanthes oligantha Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生息地も個体数も少ないため。

概要

山地の林内に生える多年草で、茎は高さ40—80cmになる。茎に鈍い4稜があり、節や若葉などに白色の長毛が生える。葉柄は長さ1.5—5.5cm、葉身は広卵形から三角状広卵形で、長さ4—9cm、幅2.5—7cmとなり、先は狭まって先端はやや鈍く、基部は急に狭まって円形またはくさび状になり柄の基部へと伸びる。花は8—10月につけ、花冠は淡紫色で、長さ1—2cm。雄蕊は4本。短い1対の花糸に長毛がある。蒴果は長さ13mmで、先端に長毛が散生する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社.東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部で生育が見られる。山域のやや陰湿な林下に生育している。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採、園芸上の採取。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

クマツヅラ科

カリガネソウ

Caryopteris divaricata (Sieb. et Zucc.) Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生育地は稀であり、個体数も少ない。

概要

山地に生える草丈1m程になる多年草。茎は4角で、葉は対生し、広卵形で長さ10cm、幅5cmほどになる。花は夏に咲き、茎の上部に腋生の集散花序にまばらにつけ、花冠は青紫色、1cm程の花筒があって先で5裂し、下の1枚は大きく反り返る。雄蕊は長さ3cmばかりで花柱とともに下向きに曲がり花外に突き出る。また、植物体全体に強い独特な臭気がある。国内では北海道から九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布域がある。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社.東京
 澤田達也(2025) 島根県邑南町でカリガネソウを確認、島根植物研究会会報47: 10 島根植物研究会
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部での生育が見られるが、西部に生育との情報もある。今まで知られていた生育地の多くが消滅していると思われる。渓谷地に生育する。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

クマツヅラ科

クマツヅラ

Verbena officinalis L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

山野の草原や道ばたに生える多年草である。草丈は30—80cmになる。茎は4稜があり、葉を対生する。葉は長さ3—10cm、幅2—5cmで、羽状に深裂する。花期は6—9月で、茎の上部に穂状花序をつける。花は淡紅紫色、直径約4mmである。本州から琉球、アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に分布する。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(西ノ島町、知夫村)、県東部(松江市)で確認されている。生育環境は、放牧が行われている草原、海岸付近の路傍などである。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科, 760pp. 平凡社, 東京.
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

存続を脅かす原因

管理放棄による草原や路傍のヤブ化、灌木化。

(執筆: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

モチノキ科

シイモチ

Ilex buergeri Miq

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はややまれで、生育地での個体数も多くはない。

概要

樹高は10数mになる常緑の樹種。葉はほぼ楕円形で両端はとがり、長さ7—8cm、幅2—3cmで、互生する。雌雄異株の樹種。雄花序には10花前後、雌花序には3—4花の黄緑色の小花を束生する。果実は直径5mm程で赤く熟れて美しい。本州は中国地方西部と九州にのみ分布域がある。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(益田市、津和野町)の海岸寄りの土地にのみ存在する。照葉樹林域内に分布するが、優良なより自然的なスダジイ林内には生育するものが見られない。コジイ若令林やスダジイが少ない夏緑二次林内など、また、コジイイチイガシ林と認められる社叢林内にも生育地がある。この社叢林は町指定の天然記念物として保護の対象となっている。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

モチノキ科

タマミズキ

Ilex micrococca Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生育地も個体数も少ない。

概要

高さ10mほどの落葉高木で、若枝には稜があり、葉柄は長さ1—2cmで、葉身は薄く、卵状楕円形から卵状長楕円形となり、長さ7—13cm、幅3—6cm、先端は細く鋭く尖り、基部は円形で葉柄との境は明瞭である。縁に細かな鋭鋸歯がある。花は6月に新枝の葉腋から、長さ2cmほどの複散形状の花序の伸ばし、多数の花をつける。雌雄異株で雄花序のほうが花数は多い。花は6—8枚の萼片と同数の花弁からなり、萼片は広三角形、花弁は広楕円形で緑白色となる。雄花は6—8本の雄蕊と退化した雌蕊があり、雌花は1本の雌蕊と6—8本のやや退化した雄蕊がある。果実は球形で径3mmほどで赤塾し、中に6—8個の種子がある。国内では本州(静岡県・福井県以西)・四国・九州に分布し、台湾・中国(中南部)にも見られる。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp.株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部で確認されている。丘陵域の林下にまれな生育が見られる。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

モチノキ科

ツルツゲ

Ilex rugose F.Schmidt var.*rugosa*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



選定理由

生育地は極めて限られており、生育個体数も限られている。

概要

地を這う長さ20~50cmの常緑低木で、枝には稜がある。葉柄は長さ2~4mmで葉身は厚く狭長楕円形~長楕円形、長さ1.5~4cm、幅0.5~2cm、両面無毛で縁に粗い鈍鋸歯がある。表面は脈がへこんでしわがあり、裏面は脈が隆起する。雌雄異株で花期は6~8月、花は白色で、径約4mmで前年枝の葉腋に1~5個つける。果実は直径約6mmの球形で赤く熟す。分布として、国内では北海道、本州の関東・中部地方以北に産し、国外では千島列島南部、サハリンに産すとされる。

参考文献

大橋広好ら編(2017)「改訂新版 日本の野生植物5」474pp.平凡社,東京
 レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(2012)「広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)633pp.広島県、広島

県内での生育地域・生育環境

生息地は県境部の西中国山地の1か所のみである。冷温帯の深山沢筋に生育する。

存続を脅かす原因

森林伐開。

特記事項

中国地方では現在確認されている自生地は、島根県西部、広島県北西部の県境域のみでとても貴重な生息地である。

(執筆:津島 辰雄)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キキョウ科

フクシマシャジン

Adenophora divaricata Franch. et Savat.

カテゴリー区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省カテゴリー
			—

No Image

■ 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

■ 概要

山地の草地に生える多年草。茎は50cmほどになり、葉は楕円形で長さ5—6cm、幅2—3cm、多く葉3輪生となる。花は夏から秋にかけて咲き、茎の上部で円錐状にまばらに花をつける。花冠は釣鐘形で、薄紫色、長さ約2cm、浅く5裂し、少し広がる。国内では本州中北部・中国地方・四国（徳島県）に生育し、朝鮮半島・中国（北部・東北部）に見られる。

● 参考文献

大橋広好他（2017）「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社.東京
 松村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

■ 県内での生育地域・生育環境

東部から中部の中国山地から山地に見られ、多くは林縁の草地や山道脇に生育している。

■ 存続を脅かす原因

山道、林縁の管理放棄による生育地での遷移による環境変化。
 （執筆者：柳浦 正夫・松村 喜則）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

ヒツキアザミ

Cirsium congestissimum Kitam.

カテゴリー区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	基準標本産地
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省カテゴリー
			—

撮影者(提供者)：島根県立三瓶自然館



■ 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も減少している。

■ 概要

山地草原に生える夏緑多年草であり、アザミ類の一種である。植物体は長楕円形の長さ約20cmの葉を数枚根生するもので、開花株は高さ約1mに伸び、長楕形で多くは羽状中裂の葉を互生し、上部で短く分枝して頭花をつける。頭花は約2cmで短い柄か、あるいは無柄で数個が集まりつくことが特徴的である。総苞片の先は鋭く反り返る。本州の近畿地方と中国地方の高所に分布する。

● 参考文献

国立科学博物館（2018）サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3：1-49.

■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（奥出雲町）、県中部（大田市）の中国山地脊梁部などにまれに生育地がある。山地尾根筋の登山道などの傍らの草原状地などに生える。

■ 存続を脅かす原因

生育地での遷移、特に樹林化による環境変化。
 （執筆者：井上 雅仁・松村 喜則）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

サンベサワアザミ

Cirsium tenuisquamatum Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内での生育地は限られてきている。生育地での個体数も少なくなってきた。

概要

山間の川岸などのやや湿り気のある土地に生える夏緑性の多年草。アザミ類の一種である。葉は長楕円形、長さ30cm、幅10cm前後で、羽状中裂し、根生する。花は秋に咲き、高さ30—50cmの花茎を立てて、少しの枝を出し、枝先きに頭花をつける。頭花は直径約5cmで、この地方のアザミ類の中ではもっとも大きい方である。頭花は開花時点頭して、花後に直立する。中国地方固有の植物であり、島根、鳥取、岡山、広島県にのみ生育地が知られている。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（出雲市、雲南市、飯南町）、県中部（大田市、美郷町、川本町、邑南町）にかけての山間で確認されている。生育環境は、水田脇の畔、川土堤など、比較的人為の影響がある土地に多く生えている。

存続を脅かす原因

水田区画整理、農道整理などによる影響。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キキョウ科

サワギキョウ

Lobelia sessilifolia Lamb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は、茎が高さ50cmから時に1m程にもなる大形のもので、葉は披針形で長さ5—6cm、幅1cmで互生し、茎の上部では小型の葉となる。花は夏から秋にかけて咲き、茎の上部に総状花序となって多数の花がつく。花冠は長さ3cm前後の唇形で、濃い紫色で美しい。上唇は2裂、下唇は3裂して裂片の縁には長い毛が生える。国内では北海道から四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国、千島、樺太などにも分布が続く。

参考文献

井上雅仁 (2025) 島根県自然環境保全地域「赤名湿地性植物群落」の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 23: 9-24.
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 渡津友博・桑原一司・大野芳典・井上雅仁 (2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部（飯南町）、県中部（邑南町）の山間湿地、湿原状地や池畔にやまれに生える。生育地の中には遷移によって樹林化し、消滅した場もある。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による灌木化、樹林化、湿地の乾燥。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

カシワバハグマ

Pertya robusta (Maxim.) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も僅かである。

概要

山地林内に生える夏緑性の多年草。草丈は開花株で50cm前後、葉は広楕円形で、長さ約10cm、茎の中程に互生して集まりつく。花は秋に咲き、茎の先端部に数個の頭花をつける。頭花は長さ3cm程で、10花前後の筒状花からなる。花冠は5裂して、裂片は線形で白色。本州、四国、九州に分布する植物。

参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(吉賀町)にのみ生育地が知られていて、その他の地域では不明である。崖錐状地でやや林床が乾燥する立地に生える。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

クシバタンポポ

Taraxacum pectinatum Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も少ない。

概要

里地の路傍や草地に生える多年草。葉は長さが20—30cm、線状披針形で、典型的な個体では櫛状に深裂する。花茎は葉腋より多数立てて、上端に密毛が生える。頭花は3.5—4cm、総苞は長さ約2cmで、卵形または卵状長楕円形である。本州の富山県以西、四国に分布する。

参考文献

井上雅仁・松原勝志・安部祐史・齋藤正幸 (2023) タンポポ調査・西日本2020 で確認された島根県のタンポポ, 島根県立三瓶自然館研究報告 21: 39-50.
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、雲南市、飯南町)、県中部(大田市)、県西部(浜田市、益田市)に点々と分布する。日当たりの良い路傍や耕作地の畦などに生育する。

存続を脅かす原因

圃場整備、土地造成、除草剤散布などの人為的攪乱。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ミツガシワ科

ヒメシロアサザ

Nymphoides coreana Hara

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 國井秀伸



選定理由

県内での産地が限定されており、圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移や埋め立てによって産地が脅かされている。2013年版改訂しまたねレッドデータブックではランクは絶滅危惧Ⅰ類であったが、その後複数の新たな自生地が確認されたことから、今回ランクを絶滅危惧Ⅱ類に変更した。

概要

本州以西の平地の溜池、水田などに生育する浮葉植物。葉、花ともガガブタよりも小形で、ヒメガガブタの別名がある。葉は長さ2-6cm、幅2-4cm、平滑で表面に紫褐色の斑状模様が目立つ。白色の花冠は4-6裂して径8mmほど、裂片の縁は毛状に細裂する。花は葉柄の基部に束生し、花柄の長さは1-3cm。果実の中には径1mmほどの黒色の種子が詰まっている。県内では宍道湖と中海を結ぶ大橋川の河口左岸域にある休耕田で1999年8月に初めて発見され、その後複数の自生地が確認されている。

参考文献

國井秀伸 (1999) 島根県松江市の水田で発見されたヒメシロアサザ. 水草研究会会報, 68: 13-14.
 汐田達哉 (2024) 鳥取県における野生絶滅種ヒメシロアサザの再発見. 水草研究会誌, 116: 45-47.
 辻井要介 (2025) 美郷町におけるヒメシロアサザの記録. 島根植物研究会会報, 47: 5-6.

県内での生育地域・生育環境

大橋川河口域左岸の休耕田、中州の水田など。最近、美郷町でも確認されている。

存続を脅かす原因

圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移や埋め立て、並びに除草剤による影響。

特記事項

鳥取県では、レッドデータブックとっとり第3版(2022年改訂)で野生絶滅(EW)としたが、2023年に再発見されている。

(執筆: 國井 秀伸)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

ヌマダイコン

Adenostemma lavenia (L.) Kuntze var. *lavenia*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

生育地も個体数も少ない。また、生育地は人為的な影響を受けやすいため。

概要

低地の湿地などに生える多年草で、細長い根茎をもつ。茎は基部で這って根を下ろし、上部は直立して30-130cmになる。葉は対生し、4-8対となり、下部の葉は小さく、花時にしばしば枯れる。中部の葉の葉身は卵状長楕円状で、柄を含めて4-24cm。幅1.5-7cm、長さ1-4cmの柄がある。葉の先端はとがるがやや鈍く、基部は円形からくさび形になる。花は9-11月に散房状につき、総苞は球形で径9-10mm、総苞片は基部でまどまり、先は鈍く、果時には反曲する。小花は20前後で花冠は長さ2.5mm、花柱は約1.5mmで花冠から著しく出る。国内では本州(関東以西)から南西諸島に分布し、台湾・中国(南部)・東南アジア・南アジア・太平洋諸島と広く見られる。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京
 枚村喜則 (2003) 島根植物分布資料(6)ヌマダイコン *Adenostemma lavenia* (L.) O. Kuntze. 島根植物研究会会報2: 1-2, 島根植物研究会
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部からの生育報告で、ともに低地で、休耕田とため池の周囲の湿地に生育していたとされている。

存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

ホンバノヤマハハコ

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. et Hook.f. var. *angustifolia* (Franch. et Sav.) Hayata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。生育環境である標高の高い砂礫地や草原自体が少ない。

概要

日当たりのよい山地や乾いた草原に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30—70cmになる。茎は叢生し、灰白色から白色の綿毛に覆われる。葉は長さ3—6cm、幅2—6mmと細長い披針形となる。花期は8—9月で、茎の先に多数の頭花をつける。総苞片の上半は白色である。雌雄異株の植物である。本州(長野県南部以西)、四国、九州に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科。760pp。平凡社、東京。
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、標高の高い山地の明るく乾いた露岩地や砂礫地などである。

存続を脅かす原因

園芸上の採取、山地の露岩地の崩壊による生育地の消失。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

ミヤマヤブタバコ

Carpesium triste Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 澤田達也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生育地も個体数も少ない。

概要

冷温帯の林下に生える多年草で茎は直立し、30—100cmになる。茎は開出する粗毛があり、また盛んに枝を分ける。根出葉は普通開花時に生存し、翼のある長い葉柄で卵形から卵状長楕円形で、柄を含めて長さ13—20cm、幅3—5cmになる。茎葉は卵形から卵状長楕円状となり、鋭尖頭、基部は円形または切形で急に狭くなり、ふちにふぞろいで小さい鋸歯がある。花は8—10月で、頭花は先端に點頭し総苞は筒鐘形で径5—10mm、花冠は汚黄色、瘦果は長さ3.5mmになる。国内では南千島・北海道~九州に分布し、朝鮮半島・中国・ウスリーに分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp。株式会社平凡社、東京。
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部から生育が報告されており、詳細は不明だが、中国山地の谷で生育していたようである。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

テリハアザミ (タイシャクアザミ)

Cirsium sp.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山間の川辺などのやや水湿地に生える多年草で、大型のアザミ類の一種である。植物体は長さ50cm、幅も20cm前後の大きな葉は羽状に中裂して多数根生し、花時にも残っている。また、葉は急に小さくなって上部までつけている。花は秋に咲き、高さ50cm以上、時には1m以上にもなる太い花茎を伸ばし、上部で分枝して、枝の先に頭花が点頭してつく。総苞片は卵形で先端は細長く伸びる。筒状花は淡赤紫色となり、頭花は直径2.5cmほどにもある。中国地方の広島県東部の帝釈峡や山口県と島根との県境付近に生育する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県内では石見部の山口県との県境付近の2ヶ所に生育が見られる。きわめてまれな植物で、渓谷林下の川辺の砂泥堆積地から斜面下部に生えている。

存続を脅かす原因

樹林の伐開による生育地の環境変化と洪水による生育地の破壊、個体の流失などが考えられる。

特記事項

今回はテリハアザミとして記載したが、テリハアザミは九州の熊本県の特産種とされた。この種は広島県北東部の帝釈峡のアザミと同じであると考えられ、広島ではタイシャクアザミ(仮称)として扱われている。(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

オオモミジガサ

Miricacalia makineana (Yatabe) Kitamura

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):自然環境課



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

概要

夏緑性の多年草で、植物体は幅30cmにもなるやや大きな、ほぼ円形の葉を根生する。葉は掌状に10片程に中裂し、基部は深い心形、両面に毛が多い。花は夏から秋にかけて咲き、高さ50cmから時にそれ以上の高さに花茎を立て、10個ばかりの頭花をつける。頭花は筒状花だけからなり、花冠は黄色となる。固有種で、本州(福島県以西)~九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部の中国山地沿いに点々と生育がみられるが、東部での産地は少ない。深山の溪に沿った樹林下に生育する。

存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取。(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

ウスゲタマブキ

Parasenecio farfarifolius (Siebold et Zucc.) H.Koyama var. *farfarifolius*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



選定理由

生育地も個体数も比較的に少ない。

概要

山地の林内に生える多年草で高さ50—140cmになる。茎は直立し、分枝しない。中部の葉は三角状心形から五角状心形で長さ11—15cm、幅13—21cmとなる。葉柄は7—15cmで翼はなく、半抱茎し、ごく小さな耳がある。葉腋や苞葉の腋にむかごとつける。花は8—10月、頭花は狭い円錐花序で下向きにつく。総苞は狭い筒形。長さ9—10mm。総苞片は5枚、白色。小花は5—6個で花冠は長さ8mmで黄色から褐色になる。瘦果は円柱形で長さ6.5mmとなる。本州(関東以西)から九州に分布する。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部と西部に生育が見られる。ともに中国山地の夏緑樹林の林下に生育している。

存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

ナガバノコウヤボウキ

Pertya glabrescens Sch. Bip.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 青木充之



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

山地に生える夏緑の草状小低木で、茎は細いが硬く、枝を分けて長さ1mちかくなる。葉は2形あって、1年生の枝には長さ2cmばかりの卵形の葉が互生し、2年生の枝には節毎に長楕形で長さ2—5cmの葉が4—5枚束生する。花は夏から秋にかけて咲き、2年生枝に束生する葉の中央に1頭花がつく。1年生枝には花はつかない。国内では本州(東北部以南)・四国・九州・対馬に分布し、中国南東部にも見られる。蛇紋岩地帯に多い植物とされる。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の丘陵域で、まれな生育が報告されている。路傍、林縁に生育する。

存続を脅かす原因

遷移、特に照葉樹林化による影響、道路拡張その他の人為的干渉。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

アオヤギバナ

Solidago yokusaiana Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

河川の露岩地や岩上に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと16—30cmで、茎は直立または斜上する。葉は長さ4—7cm、幅2—5cmの線状披針形で、茎に互生する。花期は8—10月で、枝の先に黄色い頭花を密につける。本州から九州、琉球(沖縄島)に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科。760pp. 平凡社。東京。
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(美郷町)、県西部(津和野町)で確認されている。生育環境は、川岸の露岩地や岩上であり、平水時は陸上であるが、増水時に水を被るような場所である。

存続を脅かす原因

河川改修による川岸の改変など。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キク科

オナモミ

Xanthium strumarium L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られている。生育環境である草原は、管理放棄に伴う遷移の進行などにより、各地で減少している。

概要

明るく開けた路傍や草地、湿地などに生える1年草である。草丈は茎を伸ばすと20—100cmになる。葉は3.5—10cmの長い柄を持ち、互生する。葉身は長さ6—15cmの三角形、基部は心形、縁にはふぞろいの鋸歯がある。花期は8—10月で、単性の頭花をつける。偽果は多数のトゲをつけ、トゲや角を含めて長さ9—18mm、幅6—12mmと小型である。偽果の表面には毛が密生するが、トゲは無毛である。外来の近縁種であるオオオナモミは、偽果は長さ20—25mm、幅10—18mmと大きく、イガオナモミは偽果の面やトゲに毛がある点で異なる。北海道から琉球、南千島に分布する。日本には古くからあるが、アジア大陸から帰化したものとみられる。

参考文献

井上雅仁・柳浦正夫・丹後亜興(2025) 島根県隠岐諸島の島前地区で確認されたオナモミ。島根県立三瓶自然館研究報告 23: 49-52。
 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科。760pp. 平凡社。東京。

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(西ノ島町、知夫村)で確認されている。生育環境は、放牧地として管理されている海岸付近の草原である。

存続を脅かす原因

管理放棄による草原のヤブ化、灌木化、近縁の外来種による生育地の競合。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セリ科

ハナビゼリ

Angelica inaequalis Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

No Image

選定理由

生息地も個体数も少ない。

概要

山地に生える多年叢で、茎は直立し、少数分枝し、高さ60—100cmになる。葉は2～3回3出羽状複葉で、葉柄は長い鞘状となり、小齒は長卵形から広卵形で粗い鋸歯がある。花は8—9月に咲き、花弁は白色で、果実は広楕円形で、広くて薄い側翼がある。本州（関東以西）～九州に分布する。

参考文献

大橋広好他（2017）「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

西部で確認されている。山域の林下に生育する。

存続を脅かす原因

遷移。

（執筆者：柳浦 正夫）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セリ科

ホタルサイコ

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *breviradiatum* F. Schmidt

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者)：島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数は多くはない。

概要

林縁などの日当たりのよい草地に生える夏緑性の多年草。植物体は長楕円形の長さ約20cmの葉を5—6枚根生し、葉間より花茎を立て、草丈50cm前後になる。花は夏に咲き、茎頂と葉腋からの枝に複散形花序をつけて、黄色の小花が数多く咲く。本州、四国、九州に分布域がある。

参考文献

国立科学博物館（2018）サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 丹後亜典（2022）隠岐の西限植物、隠岐の文化財 39: 6-14.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島（西ノ島町、海士町）にのみ知られていて、海岸の草原から山地の林縁、崖地の草地などに生えている。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による照葉樹林化。

（執筆者：井上 雅仁・杵村 喜則）

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セリ科

ドクゼリ

Cicuta virosa L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

生育する場所は少なく、個体数もおおくない。また、環境が変化しやすく生育できなく可能性が高い立地である。

概要

湿地に生える水生植物で、地下茎は太い。茎は枝を分けて中空で高さ1 mほどになる。葉は柄があり、2-3回羽状複葉で、小葉は長楕円状披針形で鋸歯があり、長さ3-8cm、幅5-20mm。花は白花で6-7月ごろ多くの花序を出す。萼裂片は広三角形。果実は長さ2.5mm。国内では北海道から九州に分布し、ユーラシアに広く分布する。毒成分のシクトクシンをもち、特に地下茎や根に多い。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」,474pp. 株式会社平凡社,東京
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の山域のため池の周辺などにまれに生育している。保全されている場所以外はため池の管理状況によっては絶滅する可能性の高いところもある。

存続を脅かす原因

遷移による被陰、ため池の管理放棄や刈取など。

(執筆者:柳浦 正夫)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セリ科

セリモドキ

Dystaenia ibukiensis (Y.Yabe) Kitag.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

山地に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30-90cmになる。茎は直立して、節に白毛がある。葉は2-3回羽状複葉となり、小葉はさらに不規則に切れ込む。葉柄の基部は鞘状となる。花期は7-9月で、茎の上部に複散形花序をつける。花弁は白色である。日本特産であり、本州の日本海側に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科, 760pp. 平凡社, 東京.
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は隠岐諸島(西ノ島町)で確認されている。生育環境は山地の夏緑広葉樹林の林床である。

存続を脅かす原因

林床における常緑樹の繁茂による被陰。

(執筆者:井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セリ科

サケバゼリ

Oenanthe javanica (Blume) var. *japonica* (Maxim.) Honda

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

概要

比較的海岸に近い山間の林縁での水湿地に生える草丈30cmばかりになる夏緑の多年草。葉は1～2回羽状の複葉で、4～5枚が根生する。小葉は広卵形で長さ1cmばかり、葉表は脈が裏側にくぼみ、条が目立ち、葉裏にかなり突き出る。鋸歯は細く、鋭頭である。花は夏に咲き、花茎の先の複散形花序に多くの白色小花をつける。本州の紀伊半島以南、四国、九州、南西諸島に分布し、台湾、マレーシアに続く分布範囲のものである。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

県内では島根半島と隠岐諸島の一部にまれな生育地が知られている。海岸に近い山地の林縁部での水湿地となっている場所に生えている。

存続を脅かす原因

生育地での遷移による照葉樹林化。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セリ科

カワラボウフウ

Peucedanum terebinthaceum (Fisch. ex Trevir.) Fisch. ex Turcz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

概要

日当たりのよい山野に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと30-90cmになる。葉は広く表面に光沢があり、2回羽状複葉で、小葉は不規則に鋭く切れ込む。花期は8-10月で、茎の先に花序をまばらに出す。花弁は白色である。北海道から九州、シベリア東部、アムール、ウスリー、千島列島、サハリン、朝鮮半島、中国に分布する。

参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科. 760pp. 平凡社, 東京.
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(雲南市)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、山地稜線の風衝草原内で、明るく開けた場所である。

存続を脅かす原因

遷移の進行によるヤブ化、灌木化、ササ類の繁茂による被陰。

(執筆者: 井上 雅仁)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スイカズラ科

ヤマヒョウタンボク

Lonicera mochidzukiana Makino var. *nomurana* (Makino) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

概要

夏緑の低木で高さ1mになる。枝は四角で稜があり、葉は対生し、楕円形で長さ5cm、幅3cm程で薄く、また軟かい。花は春に咲き、葉腋の短い花序に2花をつける。花冠は2唇形で8-10mm、白色から淡黄色になる。果実は夏に赤く熟れる。本州(東海地方・近畿地方・中国地方)・四国・九州に分布し、山地に生育するが、時に石灰岩地や蛇紋岩地に見られるものとされる。

参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部の中国山地脊梁部に見られ、ブナ林内に生育している。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スイカズラ科

ヒョウタンボク

Lonicera morrowii A.Gray

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

概要

夏緑の低木で、高さは1-2mになるものとされるが県内での生育地では50cmにも満たないものである。葉は対生して、広楕円形、長さ5cm、幅3cm前後で、多くは円頭、円脚である。葉裏には軟毛が密生する。花は春に咲き、葉腋の短い花序に2花をつける。花冠は5裂して、裂片は線形で長さ1cm、幅2mm前後で、花の直径は約2cm。白く咲いて後黄色に変わる。果実は液果で赤く熟れ、ほぼ球形で直径6-7mmである。北海道南西部から本州の日本海側に分布するとされる。

参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.
 丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物, 隠岐の文化財 39: 6-14.

県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)にのみ知られていて、海岸の砂礫地などに生えている。出雲部、石見部での生育地は不明である。

存続を脅かす原因

砂礫地での遷移と波浪等による生育地の自然破壊。

(執筆:井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スイカズラ科

オニヒョウタンボク

Lonicera vidalii Franch. et Sav.



カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。全国的にも分布がまれな植物である。

概要

夏緑性の低木で、葉はほぼ楕円形で長さ10cm、幅5cm前後になり、表面はやや光沢があって対生する。花は5～6月頃に咲き、葉腋に多くは2花ずつつく。花は筒状で先が2唇形となって、白色花、後にやや黄色を帯びてくる。果実は液果で赤く熟れ、ほぼ球形、2果が基部で合着する特徴がある。果実は有毒であるとされる。本州の東北地方から中国地方までの間に隔離的に分布している植物である。

参考文献

林 蘇娟 (2013) 隠岐諸島に分布するオニヒョウタンボク-島根県準絶滅危惧種. 隠岐の文化財 30: 39-44.
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

県内での生育地域・生育環境

県内では隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)にのみ生育地が知られていて、出雲部、石見部での生育地は不明である。夏緑二次林内に生える。

存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・杵村 喜則)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スイカズラ科

カンボク

Viburnum opulus L. var. *calvescens* (Rehder) Hara



カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も僅かである。

概要

夏緑性で、高さ6mばかりになる。葉は広卵形で長さ、幅とも10cm前後で、上部で3中裂し、対生する。花は散房花序で初夏の頃に咲き、枝先に多くの小花をつける。花序の外側の花は白色で大きく5深裂して径3cmばかりで不稔である。内側の正常花は径5mmばかりの黄白色の小花である。果実は核果でほぼ球形、長さ1cm程で赤く熟れる。国内では北海道から本州西部まで分布するが、本州西部はまれとなる。国外ではサハリン・ウスリー・アムール・東シベリア・朝鮮半島・中国・モンゴルと広く生育する。

参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

県内での生育地域・生育環境

東部から中部の山地に点々と生育地が存在する。おもに冷温帯林域にあって、谷筋の湿り気の強い立地に生えるが、一部は山地尾根筋のやや乾燥立地にも生えている。

存続を脅かす原因

遷移による環境変化。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)